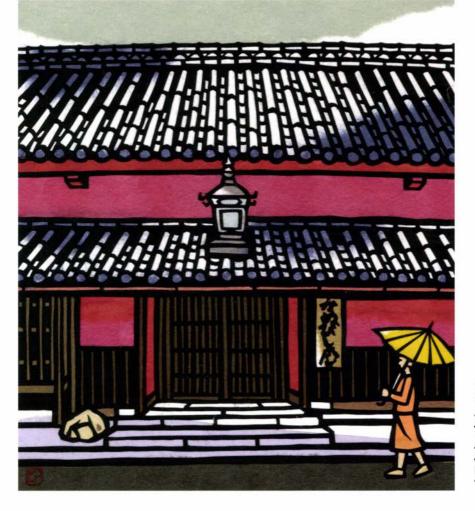
川柳松



No.1081

六 月 号

残暑見舞広告

★個 桐台紙に原稿 通りです。 稿 ½ ⅓ 締 頁 頁 誌 九六 2 1 0 を貼付 1/6 1/9 00 0 頁頁 円 円 又 (4) (3) (は記 致します。 · 2/3 1000 頁頁

〇 円 円

スと掲 載料 は 中込 左京 東京 東京 東京 東京

ところ ح き ホテル・アウィーナ大阪 十月七日(土) 0

詳 て同

細

開催します。

同

人総会以外はどなたでも参加

人 は

「総会・各賞表彰・記念句会・懇親会を四月号93頁をご覧下さい。恒例によっ

できますので、

ふるってご参加ください

信頼され、社会に役立つ製品を作る

して 見舞

広

高級封筒専業メーカー



Ш

柳

塔

社

一八000日

円 円

キ封筒株式会社

本 社 大阪府富田林市若松町東3丁目7番8号 **〒584-0023** TEL 0721-25-7210 FAX 0721-25-9484

東京都千代田区内神田3丁目2番12号 東京営業所 〒101-0047 (陽光ビル 4F)

> TEL 03-3254-4120 FAX 03-3254-4121

E-mail:kamotani@koki-envelope.com URL:http://www.koki-envelope.com

創立6周年記念

時の川柳交換川柳大会

小島蘭幸

があります。 柳札幌大会に出席すると9年連続とのことでした。 緒させて頂きました。 喫茶に鳥取の竹口清信さんがおられましたのでご一 兵庫県民会館には、 H 柳を始めて9年、 本 !念時の川柳交換川柳大会に臨みました。 は5月12日、 柳 東京、神戸と二泊して5月14日、 :協会の平成29年度の第一回理事会に出席し)月12日、東京で開催された一般社団法人全 その行動力には目を見張るもの 少し早目に行きました。 清信さんは、6月の全日本川 創立60周 会場 一階の 0

> 選をされました。 じめ神戸から14名出席されています。課題「嫁」の記念第14回近県川柳大会には、奥様の柚香女氏をはとして出席されています。昭和46年、山内静水退職

天位 嫁の髪よごれ家運を盛りかえす 好 啓

ていただきます。 條東洋樹の世界」から先生の作品を一句、紹介させ なてここで創立60周年の記念品として頂いた「三

ひとすじの春は障子の破れから東沿

非続けて欲しいものです。 大会に出席して憧れの選者の披講を聞く、これはも う最高です!! と並んでいたのです。聞くところによると川柳塔社 と並んでいたのです。聞くところによると川柳塔社 とがら約20名出席したとのことでした。合点方式、是 から約20名出席したとのことでした。 表彰式は壮観でした。我が川柳塔社同人がずらり とがら約20名出席したとのことでした。 表彰式は壮観でした。 表彰式は壮観でした。 表彰式は壮観でした。 表が川柳塔社同人がずらり

懇親会では、山崎夫美子氏から、「私、竹原の大会に出席したことがあります」という話を聞きビッ会に出席したことがあります」という話を聞きビッ会のです。

投拶、

は課題「石」の選者でしたので、矢沢和女主幹

少しだけ聞くことが出来ました。

東洋樹先生

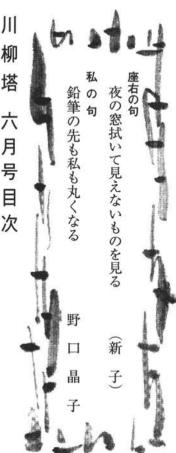
の住

広島県竹原市の川柳大会に二度選者

久家照代氏の講演「父・三條東洋樹を語る」

来賓祝辞を聞くことが出来ませんでした

すますのご発展を心から願っています。 川柳の出会いはいつも新鮮です。時の川柳社のま



小出智子さん

Ш

本

希久子

あじさい寺の冬を想像せぬことだ

に咲く季節がめぐると、 咲く季節がめぐると、大先輩の一人の大輪のあじさいが清楚にそして華やか

女流川柳家を思い出す。

た冒

n 頭

た 0 の句

山 小 尋 島 「香川引田醬油蔵 蘭 久 子 選 幸 : î 2 4 は平 の作者、小出智子さんが亡く川柳塔のお母さんと慕われ 成9年6月22日のことである。 小出智子さんが亡くなら

予定通り開催され、智子さんの写真も小それぞれの忌に因む追悼記念川柳大会が生葭乃、中島生々庵、西尾栞の四先生の生のの6日後の28日には、麻生路郎、麻 さく飾られていた。

就かれることなく帰らぬ人となっ していた私達を呆然とさせる、 われた。これからのご活躍や指導を期待 より理事長を拝命されていたが 橘高薫風先生はじめ常任理事会の その前年の秋、 71歳の他界であった。 智子さんは当時 余りにも 実務 に ま 0)

温故知新

■ショートエッセイ

字の違

字の重み………

中

居

信

48

46

西

出

楽

選

50

49 49 句集の森 白選集 新川柳鑑賞 川柳塔の川柳讃歌

(50

木

津

郎 計

45 44

64)

川柳塔

(同人吟)

小出智子さん

■巻頭言

創立60周年記念

時の

III

柳交換川柳大会

: 田

題字・中島生々庵/表紙きり絵

前

誹風柳多留一二篇研究

48

新

家

完

司

選

74

72 71

橘高薫風句抄 水煙抄

七十はさほどに遠きことならず

この句は50歳前後に詠まれたらしいの一

2

And the state of t	** 迷い来た道にも轍出来ていた	近		■編集後記(ひとこと/松本文子)柳界展望	六月各地句会案内	各地柳壇(佳句地十選/三浦強一・松原寿子)		五月本社句会		インスピレーション・ナビ 印象吟 せんりょう 飛行船 ⑦		川柳塔鑑賞	初歩教室「 傘 」	一路集 (「コメント」	■エッセイ 川柳をつくる人をどう呼ぶか	senryu 🏽	檸檬抄「 沖 」 北野哲男・
	宇 都 満知子	(一歩)		朱夏·勝弘 (118)	114	101	岩崎眞里子 :: (10)	96	桒原道夫…(94)	大西泰世…(92)		矢倉五月…(88)	谷真理子 ::	工藤千代子選 ··· (85)稲見則彦選 ··· (84)	木津川 計…(82)	:	·安土理恵共選…(78)
あれから20年の月日が流れた。	していますよ」と声をかけて下さってしていますよ」と声をかけて下さって	しておられた智子さんは、折にふれ、な家族を愛し、川柳を愛し川柳塔に挺	仮の世に生きているのをつい忘れ身の上ばなし程よく電車空いている	バーグマンのような帽子も被ずじまい息子には話しておこう川の幅	一番星わたしに孫ができました		で、	を兼ね備	優しい方、作家としての指導力と優美さ	表としての意見を述べて下さる芯の強いを担いる。	句風について次のように述べておられる		成元目)のあこがきこ書いておられる。 のがきっかけであると、句集 蕗の薹』(E	会の会場を、好奇心からふと覗いてみれ	と近くり3年で行っていた南大反三の川側をはじめられたのは44歳の頃、1	ものを感じておられたのだろうか	だが、何か70歳という年齢に予感めい

仮の世に生きているのをつい忘れ 息子には話しておこう川の幅 身の上ばなし程よく電車空いている ーグマンのような帽子も被ずじまい 番星わたしに孫ができました



小

蘭

幸

選

ひと一人見送り菜種梅雨になる 河内長野市 Ш 岡 富美子

春雷は一瞬 花散って平熱になる過疎の駅 とおい日の疼き

6Bにちょっと放浪癖があり

春の風邪わたしに恋をしたらしい

かあさんに地味な馬酔木がよく似合う 弘前市 髙

瀬

霜

石

バカだなあ正直ものだなと褒める

左手と右手愛して傷ついて

毒ちょっと吐いたらちょっと楽になる 星くずの欠片を貰う美術展

おのおのが独立国である家族

関係のないプレミアムフライデー 弱虫のパンチがまぐれ当たりする 愛知県

窓のあるトイレで何か落ち着けず 人心はオセロと同じ裏返る

人愛すカード神様からもらう

ぶつかってみよう答えが見えるまで 逃げ道はないぞ男のバッゲーム 帯締めに一夫一婦という掟 花嵐去って無罪のような空 ネクタイを外して本音対本音

早

JII 遡

行

曲がろうが不揃いだろが道の駅 いいことは無いか時どき街へ出る

あかんかったんかとおばあさんが聞く

ドレミのド ペギー葉山はもういない

どこにでも梯子を掛けに行く男 レタス千切って今日の予定は未定 豆腐にも裏と表がございます

はじめからなかったことにして桜

鳥取市 両

Ш

無

限

- 4

そろそろボケという手もあるにはある 大阪市 谷 П

義

標的を射る言の葉が折れていた	農道に桜が降ってくる拍手	お願いをする口を丁寧に研く	超	美しい夕陽平和をいとおしむ	涙から生まれた愛をさしあげる	深い祈りの中で私が生まれたの	青空がまだある捨てたものでない	決心がついたか何もいうてこぬ	立ち位置を決めるさくらの樹の下	徭	頃では食は杏ノと糸一重		たっぷりと盛ってあるから毒じゃ	いけいけの先うっちゃりが待って	爆発を芸術にするのは一人	0	、と見)	輪にもやはり上座下座がありまして	万愚節桜まぎれもなく桜	一本のペン一管の笛となる	悲しくて怒った顔になっている	愛なんて言葉欲しがるサラダ鉢	あっ春だ今朝の紅茶を飲んだとき	櫃
			山市						で	篠山市			ない	っていた				取市	て					_	原市
			工							酒	İ							森							居
			藤							井								Щ							谷
			千代子							真.								盛							真理子
里	重口	ł#h		tz	僕		2	:	1 1	由	200	_	. <	:		ス	主	桜	誰	儲	母		真	Ŧ	******
果たせる哉大国右へ舵を切る	駅弁大会お国訛も買わされる	地球は偉いテロと戦に耐えている	急ぎませんお先にどうぞ黄泉の国	お役目を果たして幹事独り酒	の名を忘れた母に読む童話			追職後起こさなくても起きてくる	がでまし、3、1の中のこで居男	ロミンはりいつ中のゴミ屋牧	本日は包丁研いで2ポイント	月の苺供えてリン鳴らす	7	臣寺艮士系とお虱呂が寺っている	已奇市	ハターには個性ぼくには無精髭	諳じたはずの挨拶パピプペポ	帰省子の話冷凍保存する	監も知らない己の死亡年月日	健診良生命線がまた伸びる	を看取った妻には頭上がらない	札幌市	れ中に坐り吹きだした風	玉子割ることにも慣れた片手鍋	再会はしたくもないと見る鏡
						村	ĵ							Ţ	Ц							Ξ			
						花								F	H							浦			
						和									讲							強			
						夫	•							1	台							_			

大が逝き心と身体ずれたまま 沖縄の海の匂いのするモズク 沖縄の海の匂いのするモズク 神縄の海の匂いのするモズク 西脇市 でうどうと鶯自我を空にむけ 髪うと鶯自我を空にむけ がされ者妙案持っているカラス すぐれ者妙案持っているカラス すぐれ者妙案持っているカラス が出されるりと懐かしい友エレベータ 間で上さいを 大の国の育ちとことん信じ込む 大の国の育ちとことん信じ込む 大の国の育ちとことん信じ込む 大の国の育ちとことん信じ込む 大の国の育ちとことん信じ込む 大の国の育ちとことん信じ込む 大の国の育ちとことん信じ込む 大の国の育ちとことん信じ込む 大の国の育ちとことん信じ込む 大の国の育ちとことん信じ込む 大の国の育ちとことん信じ込む 大の国の育ちとことん信じ込む 大の国の育ちとことん信じ込む 大の国の育ちとことん信じ込む 大の国の育ちとことん信じ込む	山だられている。	山だ脇市
	田	

スポーツは苦手十人十色です	ストップ・ザ・老い食欲に助けられ	松山市
		宮
		尾
		みのり
追及の矛先かわす認知症	世間とはずれた常識伏魔殿	
		唐津市
		Щ
		П
		高

器用ではないが裏方思いやり

東京はもう疲れたと伊予の風 教育勅語不安をフラッシュバックさせ 淋しさは浮いた話も無いわたし 夏草を褥にこころ雲にのせ 演習の消防団は島の主婦

ほっといても季節違えぬ猫 愛されて薔薇ばららしく匂い 結婚退職姪の決意に乾杯だ 出す

宇野千代のさくら小紋に咲き誇る しゃぼん玉ふわりと春を生みにくる

喜寿迎え今は飲み食い眠るだけ よく眠るみ手に抱かれてまだ眠る 高知県

小

澤

幸

泉

時々はバランスくずす良い夫婦 真四角に歩きゴールを見失う

差し掛ける傘はいらぬと言う過保護 バランスを保つ食卓妻の味 唐 津市

鬼の面ほこりだらけになる平和

雨露を凌げる家の中にいる

追い越されても抜き返す気も起きず

故郷の海が昔を語り出す

坂 本 蜂

朗

茂 代

学市

黒

田

少女の手山

一番若き髪には吉と吹き

人生をまるでゲームのように生き

の別れに花を添え

辞書が嫌になるドイツからのメー

ル

君の眼に夢と若さとロマンとが

久々に近所三主婦立ち話 買物を提げて腕筋鍛えてる 早起きの得を重ねて悦に入る

ご先祖に感謝忘れぬ彼岸花

山頂の息には不純物がない

沖縄県

森

Ш

文

切

杖五年脚の細まり鏡から

狂うほど名前と比べられてきた 定年まで突かれ続ける喉である 不自然に太い自画像の輪郭 会議中ずっと鞄を持たされる

明

天

熊本市 杉 野 羅

- 8

熊本県

岩

切

康

子

遠花火聞いて線香花火など導火線アナタの口にあると妻導火線アナタの口にある恋心音程を外してばかりいるマイク	新起きてからがうるさい評論家 事起きてからがうるさい評論家 事起きでからがうるさい評論家 事とでは関店祝うアドバルーン	すがれた お し い に り に り に り に り に り に り に り に り に り に	相	札幌市 小 尺
	彦	樹	花	享
励 子 ラ イ っ え っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ	老 景 幸 病 百 施 色 せ 院 歳	上 窄 改 协 丘	無 竺 齢	
励ましのエール僕には重過ぎる子に見せる母の背中は歪まないライバルの拍手心に響かない要の雪生き急ぐよに地に還る	設園児と同じオヤツあり別迷い子になった帰り道に空腹感があって無事に行きった帰り道	神士か春の犬とは謂か子の一人とは謂が一人声で啼く春の猫が上、日の一人とは自い木の一人とは謂いまれた。	万 吐 真決め 引 が 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対 対	弘前市
しのエール僕には重過ぎ見せる母の背中は歪まなバルの拍手心に響かないて走る母の背中は歪まないたった。	設園児と同じオヤツありに空腹感があって無事に着きましたにひとりで無事に着きましたのとりで無事に着きましたのでででである。	神士か春の犬とは謂われない 下人声で啼く春の猫 下人声で啼く春の猫 がある犬とは謂われない	するなとわたしを論す万歩計 するなとわたしを論す万歩計 が入生こなす処世術 の人生こなす処世術	弘前市 岡
しのエール僕には重過ぎ見せる母の背中は歪まなバルの拍手心に響かないて走る母の背中は歪まないたった。	設園児と同じオヤツありに空腹感があって無事に着きましたにひとりで無事に着きましたの東章目指し材を抛て	神士か春の犬とは謂われない かまかをの犬とは謂われない かまから でいた でのご飯で朝の拝仏を でんか ががががが ががが がががが がががが ががががが ががががが がががががが	中婚ドレスアップの写真決め 来であと十年に苦笑い 来であと十年に苦笑い 来であと十年に苦笑い みこころ開かれ本音吐き の人生こなす処世術 の人生こなす処世術	市岡本
しのエール僕には重過ぎ見せる母の背中は歪まなバルの拍手心に響かないて走る母の背中は歪まないたった。	設園児と同じオヤツあり 弘前市 高い変換を見じオヤツあり は、一次の大学ので無事に着きました。 の歌章目指し材を加て、一次の歌章目指し材を加て、一次歌章目指し材を加て、一次歌章目指し材を加て、一次歌章目指し材を加て、一次歌章目指し材を加て、一次歌章目指し材を加て、一次歌章目指し材を加て、一次歌章目指し材を加て、一次歌章目指し材を加て、一次歌章目指し材を加て、一次歌章目指し材を加いて、一次歌章目指し材を加いて、一次歌章目指し材を加いて、一次歌章目指し材を加いて、一次歌章目指し材を加いて、一次歌章目指し材を加いて、一次歌章目がありません。	神士か春の犬とは謂われない かまかをの犬とは謂われない ない がある がある はいれる いまれる いまんが 並ぶ形に水仙が とんが 並ぶ形に水仙が	中婚ドレスアップの写真決め 来であと十年に苦笑い 来であと十年に苦笑い 来であと十年に苦笑い みこころ開かれ本音吐き の人生こなす処世術 の人生こなす処世術	市

老人ののろけ話は生臭い	天平の色気が今も伎芸天	老いたなァ次々抜かれてゆく歩幅	老い夫婦おにぎりもって野に遊ぶ	京都市 清 水 英	退院は近い庭には沈丁花	気持良く性善説でお開きに	気を使い近所も出ない救急車	年金の外堀いつか埋められる	右ひだり右見て愛車出遅れる	犬山市関本かつ	ルーティンの効果治った不眠症	自然治癒力信じ正解だったよう	腹筋を鍛えていますクシャミして	お別れのハグがせつない年度末	挑戦せよ無理はするなとやじろべえ	犬山市 金 子 美工	反対の声聞く耳のない政府	お握りですます近場の花名所	ガラ携が身丈に合って戦中派	日本の城と桜でハイポーズ	十八の自立促す桜咲く	可児市 板 山 また
				旺						かつ子						美千代						まみ子
すり減った脳にパズルの雨嵐	日めくりに桜マークが天こ盛り	願うなら今来た道をまた選ぶ	老いて尚少し味付けして楽し	八幡市・	一歩引いて強いオーラを避けている	肩凝らない友が揃ったティータイム	ひとつだけ望み適えて振り向かぬ	望まれるとピエロ演じる癖がある	一歩踏み出させてくれる青い空	長岡京市	親友より大事なスマホ枕元	スマホが友ひとりで入る喫茶店	ユニークな子育てた母も芸術家	楽しみを奪う臨時の慶弔費	ぼやけ出す日本の未来子の未来	京都市	今はスマホ簡単クリア博識家	飽きるステーキ飽きることない白御飯	隣国が温暖化より気を揉ます	ジョークなのに真っ直ぐとられ奢るはめ	三年先何も望まぬ石の上	京都市
				今						山						桝				α)		藤
				井						田						本						井
				万紗子						葉						宏						文
				子						子						子						代

友人の奥方容色衰えず

曲がり角何度もあった泣き笑い

大阪市 池 H 清

治

さらさらと書かれた雛が笑みをくれ 四月図書の引越し大仕事

道真は梅が枝餅を連れ歩き 蹴りで隣追い越す優勝馬

握りずし握ってくれた顔が見え

大阪市 井 丸

紀

年相応の酔い方はまだできぬまま 冬眠から覚めたくないし覚めたいし

春うらら川は濁ったままだけど

コンビニに車が五台客ふたり

円玉拾ってツキが逃げてゆき

大阪市 内

バ スツアー眠る夫にはしゃぐ妻

やっと春そぞろ歩きの抱っこひも

屋久杉の重き命に立ち竦む

ささくれた心和ます舌足らず 一輪こんなにも嬉しくて

行く道の義母の笑顔はまっすぐで 九十三歳義母と優しく話す今

大阪市

宇

都

満知子

逆縁を忘れた義母が子の名呼ぶ

来年も桜見ようね三世代 いつだって御洒落忘れぬおおばあば

> 二歳児がちゃんとできますありがとう 大阪市

四月三日今年はじめて蚊に刺され サクラだけなんでこんなに浮かれるの

二十年ぶり喋りましたよ飲みました 雨上がり都会に虹はあらわれず

心配がまだまだ続く再稼動

大阪市

榎

本

H

の出

八十路来て医者と仲良し有難

VI

相槌がいつも目立って楽天家 春風は今日の疲れをもみほぐす

鮒寿司が好物なのに減ってない

認知症注意してるが進んでる 大阪市

騒がしいニュース横目に桜愛で

桜まつり弁当踊りコーラスと あれ程の雨にもめげず桜咲く

親の心配余所にはしゃいで荷造りを

宝くじ当たる喜びまだ知らぬ 大阪市

大

Ш

桃

花

ネガティブな猫を一ぴき飼っている 車椅子押して男は過去詫びる なんぼ寝てもねぶたいと言うおばあちゃん

隠したら嘘は大きくなるのです

江 島谷 勝 弘

— 12 —

夢

榎

本

花散りてセーラー服も身について酒旨く妻は美人で子沢山 大阪市 大阪市 大	治	重	信	にする 大阪市	熊	代	菜	月
どよめきて六甲颪で梅田まで朝日受け自己主張する軒氷柱				勘違い酒一杯の仲直り大阪のおばちゃん今日も飴持参				
形念から背にて)まった埋りまり 大阪市 奥	村	五.	月	ストレスが天政を引る下鉴派大阪市	小	谷	集	
ぼちぼちと免許も返す時が来た都会から消えてしまった鯉のぼり				静電気パチパチ妻の変化球ストレスが天敵を知る不整脈				
叔父や兄殺しトップを守る国				一呼吸置いて笑顔で迎え撃つ				
きっちりと美した子も文元期元ミスも姉さん被りサンマ焼く				着地する場所を深している余生絶不調僕のジョークが通じない				
大阪市 笠	嶋	惠	美	大阪市	近	藤		E
眼瞼下垂眼科医歳と素っ気ない				禁じ手は化学兵器もトランプも				
入選句選者の評に沸く涙				トイレにはヒヤシンスの香満ち溢れ				
実感は友の電話のおめでとう				騒ぎ立つ記事一つづつ睨みつけ				
絵手紙の何とも言えぬ墨の色				目の手術気に病むほどのこともなし				
古代ギリシャ展ほっこりさせてくれました				忖度が流行語にもノミネート				
大阪市 川	端		歩	大阪市	坂		裕	之
全没に一つの飴が温かい				遣り切った人の笑顔が心地良い				
時間だけ神は平等くれ給う				仕組まれていると知ってて乗る勇気				
いい話二人で記事を読み返す				向かい風受けて気付いた世の流れ				
道譲る子どもの背なに母の顔				世話されたお礼綺麗な花咲かす				
あの人を躾できたら平和賞				近くまで来たとお土産まで持って				

春風に呼ばれて歩く弱い足	怠け癖今年は飛ばす新年度	さすが友つかれも電話なが話	入学の孫に安堵で意欲わく	命日に写真持参の桜酔い	大阪市 吉	とっときの顔で逢いたい人がいる	声のない紙人形は袖で泣く	無理するな我を通すなと無理を言う	魂をわし掴みして魔女が去る	人と人つないでくれる笑いの輪	大阪市 升	風呂出たよいつも報告くれる人	それぞれに友らが悩む孫の事	激昂し幼く見える大臣が	わずかな蜜求めて鳥が今日も来る	暖かくなって躰がよく動く	大阪市 藤	おはようの声高らかに第一歩	発泡酒だけど腹には染み渡る	日曜は雨雨雨の雨男	素っぴんにジャージごろ寝の日曜日	たこ焼のタコが竹輪になる田舎	大阪市 藤
					内						成						原						田
					タ												千						武
					タカ子						好						千恵子						人
不肖の子だがパートナーには恵まれる	私には過ぎた亡夫と思う今	墓参り塾の宿題携えて	お喋りも口の体操リハビリに	朱印帳提げ従妹と巡る一万歩	堺 市 源 田 八千代	長い目で見れば釣り合う幸不幸	見合い写真誰と見合いをしたか妻	湯たんぽをまだしています四月バカ	恩人に恩は返せぬボランティア	山は青つくづく詫びる親不孝	堺市 加 島 由 一	ふる里の山菜伸びるがままだろう	素潜りでサザエ採る子もいなくなり	男児みな山より海が好きだった	水引けば田んぼに蛙湧いて出る	散歩道故郷と同じ花が咲き	堺市 奥 時 雄	諦めた時から消える自分色	古希の恋芽生える予感花の宴	咲く時も散るときも凄いねさくら	介護には知恵とプロ技貰ってる	和ませる笑顔わたしの得意技	大阪市 若 本 安 代

席ゆずる勇気隣に先越されこだわりの土から旨い茄子きゅうりこだわりの土から旨い茄子きゅうりはしい時忙しい事頼まれる	現 市 内 藤 憲 彦老いらくに出すアンテナが低くなり型 で	現代に甘えず一歩上をいく 堺 市 遠 山 唯 教遊ぼうとモンシロチョウが呼びに来る 遊ぼうとモンシロチョウが呼びに来る 遊びの届かぬ汚染の地	古書店を電子書籍が消してゆく古書店を電子書籍が消してゆく古書店を電子書籍が消してゆく	口腔を思い切り噛む総入れ歯 堺 市 坂 上 淳 司
	髪形変えて再起動たワケは内緒にしたワケは内緒にしたのかは内緒にしたのがはりがある。	病名は言っずリンゴを別ってやる 一本の桜で事足りる花見 一本の桜で事足りる花見 一本の桜で事足りる花見 か	生きてればこんな苦楽は当たり前ともだちとひらがなで書く君のことともだちとひらがなで書く君のことともだちとひらがなで書く君のことともだちとひらがなで書く君のこと	米粒を光らせ立たせひとり飯 堺 市 矢 倉 五 月

貧乏神とがっぷり四つのいい勝負野良の手を休めヒバリの姿追うまだツキを使い果たさず取っておく貧乏はしてるが口は肥えているどちらにも開くドアーのけじめ無さどちらにも開くドアーのけじめ無さ	河内長野市いつもと同じ目覚めに感謝昨日今日出会いの頃確かに天使だった君出会いの頃確かに天使だった君出会いの頃確かに天使だった君	河内長野市 対域と書いた竹の子威張ってる 対域と書いた竹の子威張ってる がいる。 が子の虐待の無い昭和 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	るてい刑	茨木市
木	梶	大	石	族
J	原	島	田	井
5	弘	ともこ	ひ ろ 子 <i>i</i>	Œ
5	光	5	子 加	雄
ス 知 好 老 真 ロ 恵 き 勝 て 1 後 勝	泣 這 体 明 諦めた	妖許オ飢生	ク 友 厄 節 大 リ だ 介 約 皿	
テンポ今が丁度の視界ですいざの時出ぬかたむすび手させてもらって感謝ですなお冗談で脳磨いてる	河内長野市泣き言は言わぬと決めた一行詩這い上がる気力を抱いて待つ夜明け這い上がる気力を抱いて待つ夜明け明日生きる為に欠かせぬ粗衣粗食諦めた夢が私を唆す	妖精になって殿方惑わせるが、一次では一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、	スマスローズうつむきしたたかにちは山椒のような人が好きもほどほど余生楽しもうもほどほど余生楽しもう	河内長野市
j	野市け	になって殿方惑わせるれる範囲は妻の匙加減前夜どうき激しく走馬前をというき激しく走馬前をといる。	スマスローズうつむきしたたかにちは山椒のような人が好きもほどほど余生楽しもうもほどほど余生楽しもう	内長野市
) }	野市は	河内長野市 谷になって殿方惑わせるに耐え企業戦士の戦中派に耐え企業戦士の戦中派	スマスローズうつむきしたたかに とほどほど余生楽しもう もほどほど余生楽しもう もほどほど余生楽しもう	内長野市 木見谷
) 1	野市け	に耐え企業戦士の戦中派に耐え企業戦士の戦中派に耐え企業戦士の戦中派	マスローズうつむきしたたかに 割 と	内長野市

花便り持って来ました四十雀	蕗味噌を練り上げ酷暑対策に	土筆採り指先春の灰汁に染め	潤いの欲しいハートを持て余す	春霞いつもかかっている眼	岸和田市 宮	忖度の意味を妻にも教えたい	抱く賜杯重さに稀勢の顔ゆがむ	モクレンの白さに心洗われる	点滅の信号俺に何語る	枯れた庭手入れする気が出る日差し	河内長野市	グッドバイみんなの邪魔になる前に	自分史の掉尾はでかく二重丸	本屋大賞候補多数の下心	眠れない夜に繙く哲学書	目を見張る高値クギ煮に立ちくらみ	河内長野市 1	手の平に乗せられうまく歳を取る 無、は朝俺には晩の祝メール 要には朝俺には晩の祝メール	河内長野市
					宮						山						村		藤
					野,						室业						上		塚
					みつ江						光						直出		克
					江						弘						樹		Ξ
盃が喜	忘れば	たん	111.	1.9															
盆が喜んでいる花の下	れずに咲いてくれたねチューリップ	んぽぽの踏まれても尚丸く咲き	無駄遣い半額セールに手を伸ばす	ポケットで夢の欠片を膨らます	吹田市	旧友の訃報が急かす老い支度	一直線に並んだ蟻の労働歌	妻のレシピで買わされている京野菜	プライドを崩して食べる昼の飯	長生きをするに欠かせぬ物忘れ	吹田市	花に会うしばらく翼折りたたむ	怒らなくなった若者だが凄い	雑巾がゆるいと妻に叱られる	飼い犬の夜な夜な鎖噛んでいる	大統領どうなったってよそのこと	四條畷市	少しずつ身辺整理老いの坂輝いていた頃じょじょに風化する輝いていた頃じょじょに風化する場の空気ジョークひとつで変わりだす場の空気ジョークひとつで変わりだす場の空気ジョークのとつで変わりだす	岸和田市
んでいる花の下	チュ	ぽぽの踏まれても尚丸く	い半額セールに手を伸ば	ホケットで夢の欠片を膨らます	吹田市 木	友	んだ蟻の労働	妻のレシピで買わされている京野菜	して食べる昼の	長生きをするに欠かせぬ物忘れ	田	花に会うしばらく翼折りたたむ	怒らなくなった若者だが凄い	雑巾がゆるいと妻に叱られる	い犬の夜な夜な鎖噛んでい	領どうなったってよそ	四條畷市 吉	しずつ身辺整床のわたしにいていた頃じいていた頃じいていた頃じんがも絵本代	岸和田市 雪
んでいる花の下	チュ	ぽぽの踏まれても尚丸く	い半額セールに手を伸ば	ホケットで夢の欠片を膨らます	市	友	んだ蟻の労働	妻のレシピで買わされている京野菜	して食べる昼の	長生きをするに欠かせぬ物忘れ	田市	花に会うしばらく翼折りたたむ	怒らなくなった若者だが凄い	雑巾がゆるいと妻に叱られる	い犬の夜な夜な鎖噛んでい	領どうなったってよそ	市	しずつ身辺整床のわたしにいていた頃じいていた頃じいていた頃じんがも絵本代	市
んでいる花の下	チュ	ぽぽの踏まれても尚丸く	い半額セールに手を伸ば	ホケットで夢の欠片を膨らます 	市木	友	んだ蟻の労働	妻のレシピで買わされている京野菜	して食べる昼の	長生きをするに欠かせぬ物忘れ	田市太	花に会うしばらく翼折りたたむ	怒らなくなった若者だが凄い	雑巾がゆるいと妻に叱られる	い犬の夜な夜な鎖噛んでい	領どうなったってよそ	市吉	しずつ身辺整床のわたしにいていた頃じいていた頃じいていた頃じんがも絵本代	田市雪

カットのウファ
八十の春ショートカットのウフフフフ足跡がついて来るから前を行く

高槻市

杉

本

義

昭

高槻市

松

岡

篤

豊中市	藤	井	則	彦	富田林市	関		よし
弱虫は油断をすると這うて出る					余裕など無いが元気で仲が良い			
五輪まで五分五分望む命乞い					今日こそは助走を決めて逆上がり			
望むらくはいつかあの世へフルムーン					念の為返し縫いして持つ秘密			
明日はないと思うて生きる命の灯					茄子の花私の愚痴を聞いてくれ			
友情にだんだん飢えていく傘寿					晩学に炎えた楓の芽が紅い			
豊中市	松	尾	美智代	代	富田林市	中	井	ア
飲めば元気になると錯覚するサプリ					原点に戻ると闘志湧いてくる			
こわれる物は壊れる何としても					蕗の薹そろそろジャンプしませんか			
手をかけて育てた花に癒される					だまし絵の中でドミノはまだ続く			
見事なさくら見せて頂く寺の庭					桜咲く愛の深さの中で咲く			
伸び代はまだ持っている古希ですが					要にはきっちり女文字をおく			
豊中市	松	村	里	江	富田林市	中	崎	深
上天気主婦の味方と腕まくり					長かった冬お疲れさんと桜咲く			
おもてなし料理盛り付け私流					歩けなくなり足元がよく見える			
偶然にしては少々キナくさい					寝たきりは雲の動画で夢遊び			
大食いショウ皿積み上げるそのスリル					遠き日の誓いの詞ああ介護			
散る花よ心に散らぬ花咲かそ					車椅子押す人の汗光ってた			
富田林市	片	岡	智恵子	浴	富田林市	中	村	
命もらった日から刻んでゆくあした					気がつけば心の窓を閉じたまま			
悔いの数重ね重ねて生きている					立ち位置があって安堵の台所			
離れていく人だ笑顔で遠ざける					何よりの妙薬はやさしい言葉			
信じることにする温泉の効能書					どこか変みんな長生きする時代			
悪友の助言占いより確か					終りなきゲームの部屋は眠らない			

キ

雪

惠

富田林市 肥 山 一 文	寝屋川市 冨 山 ルイ子
着室痩せた具合を試してる	桜咲く心豊かになってくる
されてあげくの果てに窓際に	花の下見知らぬ人に声をかけ
希過ぎてだんだん友が多く出来	知らず知らず笑顔になった花の下
間との会話で保つ良い絆	散る桜手のひらに乗せしばし見る

緊張を解すナースの 中年の医者の経験には安堵 国 訛

集まってグチを言うのも友の仲

富田

林市

Ш

野

寿

仲 古 試 試

黄昏を真っ赤に染めてビルの森 わけへだてなくぴかぴかのランドセル 風船を放して春の風を呼ぶ

ラブレター少し乱れていいですか 古名刺未だ捨て切れぬ昼の月

寝屋川

市

伊

達

郁

夫

夢醒めて桃源郷に蓋をする

献血に腕をまくっている枯木

充電をしすぎて石になりました

寝屋川市

籠

島

恵

子

羽曳野市

安芸田

子

居住まいを正せと一輪の椿 V いいえぼんやり菜種

つくしご飯女系家族をにぎやかに

百天満天」という酒に悪酔い 盆孫がとりこになっている

> 之 軽食が付けばお花見お賑やか

寝屋

Ш 市

平

松

かすみ

桜並木通り何度も散歩する

インスタントに行かぬ足腰ドッコイショ お互いに愛し愛され花と蝶

心ではハイと言いたい友だけど いやだなあ組一番の高齢者

紫木蓮咲いてるかしら祖母 の庭 寝屋川

温サラダですよ母さん花ぐもり あれは憧れ 黙り通してほしかった

体調が食養生をせきたてる 全体重かけて圧縮袋閉じ

納得の出来ない音でドアー閉め 相合傘雨は止まない方がいい

因習の中で堪えてる鬼 重宝した昔を思う粗大ゴミ

戸惑いの手も賛成の中にある

茜

市

森

-22

旧友と相撲観戦同窓会稀勢の里涙の優勝つかみ取る日馬富士新横綱に気配りするまが新横綱を援護する	下族所は消えが所は消え所は消え所は消え所は消え	世舌子さよ良恵女の子ハ所 羽曳野市 永 田 章 司片栗の花は涙の文字に似て おもとの山方言で笑ってる 深種梅雨ラストチャンスは通りぬけ 薬種梅雨ラストチャンスは通りぬけ	図首にり行音にんことをご立見 図前にり行音にんことをご立見 図前をい事あって終活進まない やりたい事あって終活進まない で見整理収拾つかず箱の中 別見野市 中 川 ひろ介 で見整理収拾つかず箱の中 別見野市 中 川 ひろ介
	真	司	介
隠しても熱いおもいが頬染める逆風に抗い凜と前を向く遊風に抗い凜と前を向くと期高齢突きつけられた保険証四六時中一緒互いに深呼吸	東大学のときは枝雀の本を持って逝くそのときは枝雀の本を持って逝く出難を笑顔一つでカバーする黒一点の中では僕も輝いた東大学にする。	一連覇を果たして野心音加する あらためて野口英世の顔を見る 五年日記それまで生きるアテはな とんくさいよりも気になるキナク をしていい百均へ足が向く をしていい百均へとが向く	変化する四季に戸惑う衣更え 我慢くらべ頑固な風邪と私とで 我慢くらべ頑固な風邪と私とで 表者と話し一とき若返る 責任をとる自信なく黙ってる 花まるが00点よりも良い園児 アダンド もんごよげい 「茶ー
隠しても熱いおもいが頬染めるめくもりに触れてた亡母の夢見ていた逆風に抗い凜と前を向く後期高齢突きつけられた保険証四六時中一緒互いに深呼吸	東大阪市	鬼 クな の ゴ	答 見 る と ぞ 羽 曳 野市
に深呼吸 られた保険証 られた保険証 た亡母の夢見ていた	東大阪市 北 東大阪市 北 東大阪市 北	(に) t 対 0 道 (に) t 対 0 道 (生) さ アテはない (生) を で で で で で で で で で で で で で で で で で で	答 児る とえ
に深呼吸 られた保険証 られた保険証 た亡母の夢見ていた	東大阪市	鬼 クな の ゴ	答 見 る と ぞ 羽 曳 野市
いが頬染める た亡母の夢見ていた に深呼吸	東大阪市北		答 別 見 とで 別 見 野市 三

る身	胸のつかえおりないままに春迎え思い出の道出会えそうで走り出すまいれの道出会えそうで走り出すまいたいこと言えなくなってもどかしい父の役目まだまだあって休めない	大はみな傷つきながら生きている 人はみな傷つきながら生きている 原発のリスク東電東芝も 原発のリスク東電東芝も	東大阪市 佐々木 満 作 シナリオはドラマの中でこそ生きる 風景を詠んで詩人の顔になる 風景を詠んで詩人の顔になる 東大阪市 佐々木 満 作
	女方市 藤 村 亜 成桜咲く孫へエールを送る朝露天風呂風格みせる富士の山露天風呂風格みせる富士の山 コニフォーム泥んこ孫のVサイン	枚方市 二 宮 紫 鳳 ベランダの梅一輪に今日を生き 不器用に生きて人生楽しけり 不器用に生きて人生楽しけり	枚方市

る 11	5.50	大生に帰りの切符付いてない 大生に帰りの切符付いてない 大生に帰りの切符付いてない 大生に帰りの切符付いてない 大生に帰りの切符付いてない 大生に帰りの切符付いてない ボール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	でを決め手に使い二度値切る まだと謙虚な人の奥深さ まだと謙虚な人の奥深さ	枚方市 山 一
名		田		П
珥 美 子	留 美 子	扶 美 代	アヤテ	弘委智
付度が飛びかう事件いらいです ボ愛でる一つひとつに有難度う 花愛でる一つひとつに有難度う おをましがケ痴呆 かまた上が は かん	悔しさを笑顔に秘めて友見舞う 大空に不幸の星無き日本です スーパーのあの手この手でうふ お円の目玉で走る八十の坂	曲っていませんよわたくしきなくさい匂い気付いていきなくさい匂い気付いていきないがらクシャミ八つし	変というげに不確かな担保 さくら散る私もコート脱ぐ ふる里の味が着払いで届く この鐘を子規も聞いたか法	
る。非常市	株井寺市 曽 井治円の目玉で走る八十の坂 運命に翻弄されて八十路行く 運命に翻弄されて八十路行く 大空に不幸の星無き日本です	藤井寺市 田 付かっていませんよわたくしのオヘソをなくさい匂い気付いているけれどをなくさい匂い気付いているけれどあるいまが多すぎる。	髙	藤井寺市 鈴 木
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	藤井寺市 曽	п Ш	高田	鈴

藤井寺市	吉	H	喜代子	子	箕面市 西	片	记	華
				-				-
親友の事故に心も花冷えに					わたくしの心の内に母の部屋			
医者帰りしだれ桜も三分咲き					毒舌をかわした友が迷子札			
家族葬なんだか寂し世の流れ					つつましく命をつなぐすみれ草			
雨の中誕生祝ありがとう					君逝きて音なく切れた赤い糸			
藤井寺市	若	松	雅	枝	箕面市 出	П	セッ子	十
本当かなスターが旨いと褒めている					事故に遭う良くない予知夢ほど当たる			
花満開明日は雨と言う予報					ムチウチで眠れず恐い夢を見る			
又転ぶ骨折せずにほっとする					骨に異常無くとも痛みまだ続く			
歳相応僕だけ別な筈が無い					余命表生きた証にする作句			
過信していた脚の衰え思い知る					散りぎわの桜見習いたい齢			
松原市	森	松	まつお	お	箕面市 広	出島	巴	子
リハビリの妻に戻ってきた笑顔					入学を祝って桜パッと咲く			
四月一日妻に好きだと言ってみる					桜増え猿も浮かれる箕面山			
四十年ぶり赤ひげを読んでいる					木の実食む庭の小鳥とお茶を飲む			
今日の気分焼酎よりも酒が合う					竹の子を食べて懐かし吹出物			
北のドン何をしよるか分からんな					シニアでもスポーツ保険ガンバルゾ			
箕面市	大	浦	初	音	八尾市 内	海	幸	生
ヘルペスに負けずに友と怪気炎					地球より大きな星が今流れ			
らちもない駄じゃれも脳に良いらしい					ポチの死に懲りてそれから飼えぬ犬			
暮しにも優先順位つける今					切り捨てた葱から出た芽を捨てますか			
春の風重いしがらみ脱ぎすてる					小さな義理果すに他人捲き込んで			
りがとしている。								

円満はそうだね分かるそのとおり

あっさりとサヨナラをする福の神

京の一方とにより向く人がない。 言い訳がながい暖房つけて聴く スマートホンなんて手怖い時代です 毒舌を吐いて未練を追い返す 幸せな余生自立の炊飯器 大尾市 大め玉が無くて勝ち切れない喧嘩 長寿国万歳出来ぬ薬漬け パパの丈あっさり超えた孫の悦 パパの丈あっさり超えた孫の悦 でんぐりの実から広がる春の空 臨終に会えず黙ったまま座る 本持らしにはならないという今日の雨 を寿です同窓会の誘いてんだん早くなる な計画撃するじゃがいもの不作	八尾市高
上 崎 川	杉
ミ シ は	千
ミ ツ 子 子 シマ じ む	歩
軽やかにラインダンスの初舞台 卒業の晴着躾の糸を抜く 全身を新入社員新で決め 三角のルンバ四角に掃き終える ミサイルの射程さえぎる花の雲 ・	八尾市 山
	根根
96/57, 155-49 AND	似妙
和 俶 ゆき 宏 子 の	外子

この世は楽し散り急ぐことはない	本当の親子ではない親子丼	下見では楽しく見えたケアホーム	通夜の席思わぬドラマ見てしまう	クラス会高嶺の花もタダの女	尼崎市 芸	落ちたり咲いて土に誓っている椿	割り勘にせかせかしない名幹事	山車を引く子等の気合に明日を見る	センバツで沸き上がりだす郷土愛	我が器知って楽しむ趣味一途	尼崎市 十	青野菜たっぷり朝の白いⅢ	ムードよし朝の俎板よく弾む	こうこつかもしれぬ一日ぼんやりと	ふわふわと生きているのにくたびれる	ふわふわと今日のわたしは無重力	芦屋市 田	母へメール薬飲んだかもう寝たか生きている証しか息が生臭い	折りの唄に我が節重ね見る	なぜなぜを問うたび透けてゆくわたし 明石市 糀
					藤						市						黒田			
					井中						坪						田			谷和
					宏						武						能			和
					造						臣						子			郎
ありがとう山ほど云って別れ	筆まめな友への返事長メー	春が来たすこし背すじを伸ばそうか	仏壇に線香をあげて生きてます	逝く時に言えるだろうかありがとう		贅沢は庭の桜が咲いてくる	提灯と露店そろって桜まだ	細いけど色気ありますあなたの目	ショボクレて歩きなさんなご同	四月入り燕を見たと妻に言う		さん付けで若い上司が呼び付け	同期会定年過ぎて俺お前	お葬式喪服美人を品定め	胃も老いたランチセットが重過ぎる	親切にされると直ぐに好きに		楽しいな孫と一緒にみじん切り突然に孫も女になりました	間に合わぬ家庭菜園まだつぼ	本読めばあなた持つのも苦にならず加西士
別れよう	ル	にばそうか	します	めりがとう	篠山市	6	だ	なたの目	なご同輩	言う	川西市	呼び付ける	前	B	トが重過ぎる	べきになる	川西市	を見なり	たつぼみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P苦にならず 加西市
別れよう	i	呼ばそうか	こます	めりがとう	篠山市 北	6	だ	なたの目	なご同輩	言う	西	呼び付ける	前	80	トが重過ぎる	な	川西市 大	を切り	たつぼみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9苦にならず 金
別れよう	'n	所ばそうか	こます	めりがとう	Щ	6	だ	なたの目	なご同輩	言う	西市	呼び付ける	前	8	トが重過ぎる	な	西市	ん切りた。	たつばみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ф
別れよう	ル	はそうか	ます	めりがとう	北北	6	だ	なたの目	なご同輩	言う	西市山	呼び付ける	前	B	トが重過ぎる	な	西市大	ん切りた。	たつばみ	金
別れよう	ル	rばそうか	てます	めりがとう	巾北澤	6	だ	なたの目	なご同輩	言う	西市山口	呼び付ける	前	Ø	下が重過ぎる	な	西市大	ん切りた。	たつぼみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	金川

		30	,				
奈良市	过内	H	けんえい	V	香芝市 大	内	朝子
豆腐の角目指して柔に生きる僕					桜さくら生きて来年また会うね		
文句言い言い返されてシュンとする					正直を積んで仏に近くなる		
挨拶されご近所さんとフト気付く					もう年やいやまだいけるヤジロベー		
卒業と言って断る飲む誘い					年なんて忘れる春のウインドー		
同窓会なぜか賑わう古稀の年					精一杯生きる命の現在地		
奈良市	Щ	本	昌	代	奈良県 安 福	福	和夫
手をつなぐと昔むかしがにゅっと立つ					町内会性善説のコミュニティー		
手の甲をなでて去年のことなどを					若き日の栄光披露場はしらけ		
口出しは出来ぬ他人と云う垣根					リーダーの上意下達は最小に		
飛び跳ねてごらん小さなことと知る					独断はオカルトを生む元となる		
指折ってみんな良い人温い人					大小を問わず社会に和は要		
奈良市	米	田	恭	昌	奈良県 谷 川	Ш	憲
戦中戦後耐えた老舗の土性骨					逃した夢いっぱいつまる万華鏡		
下町を歩き昭和に迷い込む					妻の留守家事言いつかり忙しない		
シナリオの想定外が面白い					先輩にただ感謝のみ偲ぶ会		
脛に傷ここは黙って耐えておく					甲子園負けた球児に温かい		
ベビーブームの再来祈る内閣府					診察券目耳歯内科ほかも持つ		
生駒市	飛	永	ふりこ	ځ	奈良県 中 佰	原	比呂志
桜散るひたひた本音折り畳む					チャンスだと腕を伸ばした蜃気楼		
お人柄耳を欹て見極める					救急車私の胸の活断層		
胸を張れ飛鳥大仏から教示					過労死と聞いたは超勤夜勤明け		
桜花毛嫌いなどはエトセトラ					素通りをされても頭下げ募金		
脆いから胃袋すぐにパンクする					メーデーの列にポケモン紛れ込み		

読書してわたしの森を深くする 恥を掻くたびに懐深くなる 人間に近づくほどに黒くなる	結論がどんどんこの手から離れ 相 原 夕煩悩を洗う写経で背筋伸び	- - -	和歌山市 上 田 紀 まずりに大業のパパはしっかり家事育児大業のパパはしっかり家事育児	お静かに娘の羽化が始まるよに含を貫き通しひとりきりになるいのちに娘の羽化が始まるよ	奈良県 渡 辺 富
	胡	5	子	雄	子
執 フ ポ 相 お 着 ァ イ 席 節	武肩	塞空 昨	順誕や順少		
執着をせぬから桜惜しまれるファッションも手頃な値から売れていくポイントをちゃっかりゲットしたブーム相席で持て余してる間の悪さ	和歌山市 武 本武器持てば強いと錯覚する愚か	なく	和歌山市 坂 部順番が知らぬ間にきたトップの座脚と日の主役を待っているワイン順調に年を重ねている丸さ順番が知らぬ間にきたトップの座	和歌山市 楠 見 若い子が甘い管理に散る命 意味の無い質疑時間の無駄遣い 曖昧に暈かして逃げる永田町	和歌山市 喜 田
れてブー	武	‡ ,	知らぬ間にきたトップの座の主役を待っているワインの主役を待っているワインの主役を待っているワイン	のことは気楽に批判するのことは気楽に批判するのことは気楽に批判するの無い質疑時間の無駄遣いの無い質疑時間の無駄遣いの無い質疑時間の無駄遣い	歌山市 喜

安全の運転信じすぎました 自分では愚かと思わない怖さ 長官も大統領も戦好き	難い今日もノル引くゆとりに風ないの奥をからいて心の奥をからい風があった暮らのいて心の奥をからいい風がある。	もりを確かめたくてドアノいていた孫をスマホに奪わいていた孫をスマホに奪わいていた孫をスマホに奪わるなことどうでもよいの目	和歌山市 土 屋 起春の海あれは悪夢であったのか インとメモ 間嚢がいくつもほしい春の膳間理師の腕前見せる今日の膳間の腕前見せる今日の膳
	子	摘	起世子
ぶらぶらとヒント求めて遊歩道備金はしたくないから頑張れる満足度充たしてないが幸せだでとないが幸せだった。	会話の中で希望もらった日のかり、遅れ微妙に振り子揺れて少し遅れ微妙に振り子揺れて少に遅れる領	のた歳も今下日をあ日	濡れてよし桜はさくら楽しまんですがある。 ですがある。 では真っ赤な花で埋めましょうがある。 でする。 できる。 でする。 できる。
を を を を を を を を を を を を を を	日の温み岩出市	今日を切り抜ける もある生きてれば 歳を知る た日の感謝 の下見来る	100 to 100 to 100
を を を を を を を を を を を を を を	の 温 み 岩 出 市 藤	きてれば 松	100 to 100 to 100
を を を を を を を を を を を を を を	の温 おける 岩出市	きてれば 和歌山市	2002 100 00

恩人を思い出してる夜の雨口下手が意外に持てている不思議口下手が意外に持てている不思議横文字に苦手な父の日記帳	コンビニで独り暮らしを補足する 一切を胸に納める宮仕え 鬼の手と握手泣いたり笑ったり 鬼の手と握手泣いたり笑ったり	世の役に立てよ立とうと母子鷹世の役に立てよ立とうと母子鷹世の役に立てよ立とうと母子鷹	下では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	海南市 小 谷 小
	子	子	女	雪
さくら咲くそんな知らせに泣いた春間米で育った子供警官に留米で育った子供警官に見栄張らず等身大の道を欠く	田辺市 岡 本 昇思い出がひとつ土佐路は花の頃 田辺市 岡 本 昇思い出がひとつ土佐路は花の頃 と摺の椿歓迎するように	起の川市 辻 内 次 根原ましく目刺し二匹の朝ご飯 連休もテレビに守りをされている 連休もテレビに守りをされている 車座になって本音を語り合う	紀の川市 山 東 日出男が見るの涙とまらぬうちに揉め味気ない女の部屋にある句集味気ない女の部屋にある句集	紀の川市 楠 原 富 香

橋本市 石 田 隆	彦	鳥取市 岸 本	3.5	孝	子
間ありすぎてお尻が重くなる		きれいごとだとは思うが聞いておく			
と康な時にはゆとりできている		ミサイルも黄砂も降ってくる日本			
、敗をするたび知恵がふえてくる		米をとぐ幸せ思う戦中派			
動のことば呑みこむひとり旅		呼ばれたら真っすぐ向いて返事する			
みある野菜育てる雪だるま		ワンサイズ落ちたとはしゃぐおばあさん			
鳥取市 池 澤 大	鯰	鳥取市 田 中	- E-2	天	翔
たが攣る手の指が攣る心ゆれ		手離せぬ母の汗知る袋帯			
一寿今五本の指が揃ってる		畳紙に眠ったままの袋帯			

甘感失健時

傘 足 五本指の靴下はいて靴をはく 爪だけは体調不良よく伸びる コーヒー 付き合いもほどほど喧 攣る足を指圧つづけてなだめてる が飲める背伸びの変声 嘩 せぬ程度 期 鳥取市 加 藤 茶 人

人生の金メダルとる夢を見た タキ五歳元気でいたいあと十年 (タキは柴犬) 鳥取市 棚 田

美し

い七色の帯じょろ

0

歩こうと誘ってくれる犬もいる

大雪が欲しい嫌だと勝手よな 0点をもらった時代懐かしや 先手また後手も大事と喝入れる 記憶なしその言い逃れどんと増え

骨壺に入らぬほどの嘘を言い

健康の薬句作り寄席通い 趣味も度が過ぎて苦痛の裏表

歳時記に背い

て春に菊咲

かす

取 市 岸

本

宏

鳥取市

谷

П

「ブラタモリ」見ているような僕の旅

章 現在と未来に生きる過去のこと 何もかもボ ウォーキング昨日も今日も同じ道 逝く友に募る寂しさまた一 ケのせいだという台詞

聞いたよな甘い台詞をアリガトウ

壊すのが惜しい砂丘の砂像群 飛行機を浮かす空気の力持ち 憧れた街で味わう都市砂漠

大

— 37 —

息してる内は楽しい夢を追う	穏やかな日差しに予定クリアする	冬ごもり日差し嬉しいうつが消え	マイ茶碗割って不吉な日を過ごす	足跡を辿って見れば阿弥陀さま	鳥取市西	拷問を受けたドカ雪陽に解ける	言い合って母に敗れてホッとする	生きのびる為にコロコロ団子虫	星だってホシと呼ばれりゃ悪になる	ハエ叩くほどの殺気は抱いている	鳥取市「夏	無い袖は振れぬがサプリだけは飲み	地下水が澱み人間まで濁り	ゴミの山踏んで勅語を諳んずり	切り取った写真が過去を呼び戻す	古稀の坂だんだん空が低くなり	鳥取市 中	見栄ひとつ掲げて明日の幕開ける虚しさを笑顔で包み一人住む人間の力補う犬の鼻	若い日の貴方の手紙読み返す	受券)コニニ周が、こ、以下) 鳥取市 永
					川						月									
											н						村へ			原
					和						_						金			昌
					子						粋						祥			鼓
買物難民村にコンビニやって来た	触診で今をしっかり生かされる	無意識に齢を聞いて	指輪交換見守る祖母の走馬灯	賑やかに咲いて静かに散るさくら		捨てなきゃごみ	捨てなきゃ逝っ	俯いた鉢花カーテンも開かず	俯いていたら	視るが良い時		大臣の軽い	AIが選ぎ	無理しない	花一杯棺の	一〇三歳眠		死ぬ程の思い	老後の介護明日	
ーやって来た	生かされる	ても恥とせず	母の走馬灯	かに散るさくら	鳥取市	捨てなきゃごみ屋敷にも成りかねん	捨てなきゃ逝ってからまで恨まれる	- テンも開かず	いていたら逃がしたジャンボくじ	視るが良い時の体現象の群れ	鳥取市	大臣の軽い言葉に泣く庶民	AIが選者をするか近未来	無理しないの顔には嘘と出ているよ	一杯棺の亡母にありがとう	〇三歳眠るが如き逝った亡母	鳥取市	の思い浮かばぬ福祉社会ルの外す的ならねらい打ち私の噂弾み出し	の介護明日は我が身かもの薄いスマオを持ち堪え	鳥取市
ーやって来た	り生かされる	ても恥とせず	母の走馬灯	かに散るさくら	鳥取市 吉	屋敷にも成りかねん	てからまで恨まれる	- テンも開かず	逃がしたジャンボくじ	の体現象の群れ	鳥取市 古	言葉に泣く庶民	日をするか近未来	いの顔には嘘と出ているよ	の亡母にありがとう	るが如き逝った亡母	鳥取市 山	い浮かばぬ福祉社会がす的ならねらい打ち	円は我が身かも	
ーやって来た	り生かされる	ても恥とせず	母の走馬灯	かに散るさくら		屋敷にも成りかねん	てからまで恨まれる	ーテンも開かず	逃がしたジャンボくじ	の体現象の群れ		言葉に泣く庶民	自をするか近未来	いの顔には嘘と出ているよ	の亡母にありがとう			い浮かばぬ福祉社会がす的ならねらい打ち	明日は我が身かも	鳥取市
ーやって来た	り生かされる	ても恥とせず	母の走馬灯	かに散るさくら	吉	屋敷にも成りかねん	てからまで恨まれる	テンも開かず	逃がしたジャンボくじ.		吉田	言葉に泣く庶民	目をするか近未来	いの顔には嘘と出ているよ	の亡母にありがとう		Щ	い浮かばぬ福祉社会がす的ならねらい打ち	明日は我が身かも	鳥取市 平
ーやって来た	り生かされる	ても恥とせず	母の走馬灯		吉田	屋敷にも成りかねん	てからまで恨まれる	テンも開かず	逃がしたジャンボくじ		吉	言葉に泣く庶民	日をするか近未来	いの顔には嘘と出ているよ	の亡母にありがとう		山 下	い浮かばぬ福祉社会がす的ならねらい打ち	明日は我が身かも	鳥取市 平 尾

※い恋仕切りなおしはやめとこうごれからは笑える終り見つけようこれからは笑える終り見つけようこれからは笑える終り見つけよう		何でもないものにとらわれ過ぎていると悪魔が寄ってくる出世した友達の名を借りていると悪魔が寄ってくる。	昭恵夫人国会辞職させそうだ 関恵大統領なぜか代々逮捕され 韓国大統領なぜか代々逮捕され なことから不仲バレ 皇太子さん両手に花も苦労有り	倉吉市
後		Щ	牧	猪
藤		中	野	Ш
宏		康	芳	由美子
之		子	光	子
桜背に金を数える屋台店 エアコンとテレビどっちを先に消子について誰にも話せないでいる が次ルを持てば空気が冷えてい が、でいるを表に消がないでいる。 が、でいるを表に消がなっている。 というでは、 というでも、 というといるとも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 とっとも とっとも とっとも とった。 とっとっと。 とっと。 といる とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと	日本一低いタワーを自慢する照れと意地外して同居うまくいく朝夕に体温計る自己管理駅りこけパワー充電出来ました	労れば五臓六腑がつけ上がる断うほどに昭和の人になって酔うほどに昭和の人になってかと思い出す墓のことのとのであります。	まサイルが銀河鉄道破壊する 生き方を支える背骨丈夫なり 生き方を支える背骨丈夫なり	
桜背に金を数える屋台店といいて離にも話せないでいる子について誰にも話せないでいるがって鼻毛を抜いていざ歯医者がつべルを持てば空気が冷えていたがいがかる。	まくい ました	※子市 がいてふと思い出す墓のこと 馬車馬を辞めても夢で馬車を曳く 所がであると思い出す墓のことがとつだけ争い続く星がある	道破壊する が惚れ薬 が惚れ薬 がなする 米子市	米子市
を 先 に い で い で い て い て い ろ こ て い ろ こ て り に り に り に り に り に り に り に り に り に り	ました ました く く	がつけ上がる 米子市 中 かつけ上がる 米子市 中	東温疎を縫う 神米寿 が惚れ薬 が惚れ薬 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	米子市 後
を先に消すを先に消す	ましたといく	 市	米 子 市	
を先に消す おんぱん おんぱん そんじん かんしん そんしん おんしん おんしん おんしん おんしん おんしん おんしん かんしん か	ましたまくいく	中	米子市 竹	後

世のブームどこ吹く風とマイペース思い出をときどき食べて生きている果しかったこと思い出し独り笑む楽しかったこと思い出し独り笑む	十分ほど歩けば波が足洗う 十分ほど歩けばまだ平和 高取県 ボボカ の時代はまだ平和 日本海僕の時代はまだ平和 自本海僕の時代はまだ平和	よいは傷が怖くてマシュマロで を入れたくて一冊捨てる 無言でも二人しあわせそうに見え 無言でも二人しあわせそうに見え をないは素朴で純でナチュラルで がある。	高取県	鳥取県
	西			石
	谷	信	尾	谷
	悦	照	くにこ	美恵子
	子	彦	2	学
正当な話に狂えないでいる年前の時カボチャの馬車とすれ違う年が丸くなっている根性なし背中が丸くなっている	先手打つ段取り決めて場にのぞむと手打つ段取り決めて場にのぞむと出ると出るが繋ぐ家族が同じ癖米櫃は常に満たして戦中派	鳥取県特別のたり行く男雛女雛の桟俵急流に会い岩の影視払う桜散るまで飲む仲間をいるのではない世間のたり行く男雛女雛の桟俵	で会うで会うで会う	鳥取県
	石	川	松	細
	橋	下	Л	田
	ar.		4	
	芳	節	行	裕

男

花

子

Ш

瞑想の余白を散ってゆくさくら 南無南無と唱えておれば日が暮れる 南無南無と唱えておれば日が暮れる するでは生きるぞ今日をエイエイオー では生きるぞ今日をエイエイオー	山市 月 下	ゲンスト女独りの艪が軋むみ込んだ愚痴みぞおちをこぼれ出るばくろが今年も来たよお亡父さんばくろが今年も来たよお亡父さん	戦中派あの苦しみは忘れない 哲学は何かと思う京の旅 嘘の字があって世の中面白し 嘘の字があって世の中面白し ないはいい人間それで成長す 雲南市 松 本	老いたれどやはりタイプの好き嫌いありし日のマドンナよいしょどっこいしょパトカーへちょっと会釈をして通るパトカーへちょっと会釈をして通る質けばたんぽぽ土筆にっこりと 雲南市 菅 田 、
	凱 夫	寿美	昌	か つ 子
廃材を集め自信の句を作るパキパキと大黒柱音がする快適な温度を保つ夫婦愛快適な温度を保つ夫婦愛	あの花もこの花も好き蝶は霊場を巡りて癒える身と心	ら衣着てさも巡礼とお経読む 時々は独りもいいと町ぶらり 困っても独りじゃないよ家族いる 岡山市 前 田 恵美子	千の風追うた日もある遠霞岡山市 藤 成 操 江中の風追うた日もある遠霞0中の風追うた日もある遠霞0日間自答こたえは出ぬがまあいいか0日間自答こたえは出ぬがまあいいか0日間自答こたえは出ぬがまあいいか0日間自答こたえば出ぬがまることがより出ぬがまるいかか0日間にないまないからいからいまないからいまないからいまないからいのもののできないからいまないからいまないからいまないからいののできないからいまないからいないからいののできないからいのできないのできないからいのできないのできないからいのできないのできないのできないのできないのできないのできないのできないのできな	夏大根すこし辛味のアドバイス隠し事していませんと葱の花隠し事していませんと葱の花に遭うされて私の恥部が出る。 現ぜないで鬼が一匹棲むグラス 岡山市 永 見 心 咲

か の座 8 る 岡 Ш 県 池 \mathbb{H} たか子

失明は覚悟さくらが美し 草の名を覚え抜けない仏 夫には言える愚痴だが子に言えぬ の芽吹き朝夕たし

ていねいに生きねば容赦ないカル テ

喧

もなかった共稼ぎ

山県 髙

出

茂

子

じ

<

子は巣立ち脱皮できずに親もがく のミサイル発射とどめた春の夜

老いを舐めあいはげまし合って友とい 「うそ」でいいやさしい言葉まつ椿 <

っさり嵌められた 岡山県

ル旅を掻き立てる

Ш 縣 のぶ子

清

7月23日 (日)

水」るか」

「あべこべ」

む

粧」

「は

「弾

化

「浴 びる」

広島市

岸

本

弱者

へは外方を向いている総理

防衛相自己防衛におおわらわ

第48回

題

日 時

人間

のずぼらに牙を剥く大気

飲み友は監視

カメラに笑顔する

衣替え兼ねて断捨離大執行

山頂のぜんざい目指す登山

靴

奈良新聞川柳大会

10時開場

瞬だが最高峰が輝いた

桃色のトンネ エイプリル

フー

i にあ

の神孫が時

一个連

れて来る

何 年後の私 色 0) 彩を溶いている西の空 想像したくない

竹原

市

岩

本

笑

子

私は私 ツルを折る今日一日を浄化する だけど何時まで生きられる

は取るものですか 彼岸花

玄関 肩書きは置いて出かけるクラス会 の絆故にほどけぬ糸もある ちゃんに似て右 に鍵がなか った良き時代 ば かり向 総理

血

奈良県文化会館 小ホール TEL 0742-23-8921 「ニュース川柳」 小金澤貫 選 居谷真理子 選 紀子 選 大楠 柾子 松本 選 藤原 一志 選 高士 阪本 選 山田 順啓 選 新一 選

れい」 田中 出句締切 11時30分 2句 3000円 (昼食・発表誌呈) 出席申込み 7月10日まで 下記へ

〒630-8686 奈良市法華寺町2-4 奈良新聞社文化事業部「川柳大会事務局」係 TEL 0742-32-2115 FAX 0742-32-2774

1000円(切手不可)同封下記へ 欠席投句 〒639-1101 大和郡山市下三橋町323-61 阪口 幸若

7月10日(当日消印有効) 主 催 奈良新聞社 田 実 男

宇部市

平

血圧上下する

きている証

— 43 —

川柳塔の 川柳讃歌 (150)

そんな内容ばかりで番組を埋めた。つまりは さんは一人ぼっち。お父さんには夢がない。 お父さんは淋しい。お父さんは虚しい。お父

存在感のなさを強調したのだ。だから博さん、

上方芸能評論家 木津 JII

計

むつかしい転け方しはりましたなあ

長生きできますよ。そりゃあ嚔も時に出ます。 望みなら昨日でつかい切りました

昭

い切っても光はあると信じることです。 もこの伝でいきましょう。望みは昨日でつか 拾い上げた永さんのすばやさである。昭さん りませんが、ひかりはあります」。うまいなあ。 た。列車を聞かれた駅員が「のぞみはもうあ 子』『夫と妻』…。確か『無名人名語録』だっ それに名語録を数々編んだ。『大往生』『親と を向いて歩こう」「遠くへ行きたい」……。 望を一杯与えてくれた。「明日があるさ」「上 8歳で昨年亡くなった永六輔は私たちに希

体を運ぶのではない。上体が倒れるから足が

ろを見ると操り人形の足どりだった。足が身 江戸川乱歩はパーキンソン病で「歩くとこ

俺の背を見て育ったらそんなとこ

くも膜下出血で乱歩は71歳で逝った。義さん、

に書く。むつかしい転け方をときにしながら すぐ転んだ」と山田風太郎は『人間臨終図鑑』 いる。そうして横へ曲がると、自分一人では、 前に出るのである。つまり上体が足を運んで

者を呆れさせる転け方に気をつけて下さい。 まさかパーキンソン病ではないでしょう。医

嚔しか存在感のない私

に劣らぬ力弥が大白痴…」憤慨した力弥の槍 所存もなく、遊興にふけり、放埓なる身持ち、 らあった。ご存知『仮名手本忠臣蔵』九段目 日本一の阿呆の鑑、蛙の子は蛙になると、 子・力弥を罵る。「主人の仇を報わんという 山科閑居の段で加古川本蔵が由良之助の息 蛙の子は蛙」の言い慣わしは江戸時代か 親

たのは話術もさりながらコンセプトに

〈可哀

をわざと受け、本蔵は覚悟の死を遂げる。修

ん

73年から39年間も続けた。長寿番組になっ オでの人気番組「小沢昭一的こころ」を19

話術の達人だった小沢昭一は、TBSラジ

想なお父さん〉を置いたからだった。即ち、

の毒。 子でした。この句川柳的ですが、ご子息が気 さん、力弥は父と共に討ち入った出来のよい

おいしいねと言える相手がいる夕餉

見舞いに行った帰り、脳出血で倒れた。最愛 おいしいねと言える奥さんをどうか大切に。 娘二人と孫七人に囲まれて逝った。昇さん、 実篤は食事をなにもとらなくなり、喋らず、 の妻も死んだ。その死を知らさなかったのに 子供のように涙ぐんでいた。また病院へ妻を のテーブルで箸を持ったまま、母親を失った 道的作品でファンの多かった武者小路実篤 夫人がガンで入院すると妻のいない朝食 お目出たき人』『幸福者』など楽天的、

言わぬ手もあったと後で悔いている

落とした、ばっかりで皆さんどうもすみませ こんな句があったか、しもたあーっこの句も は毎号の「川柳塔鑑賞」を読んで、ええーっ うてばっかりのこの欄が一五○回になった。 た。その通りで、ゴジャゴジャゴジャゴジャ言 田頭良子さんに言われてこたえたことがあっ ジャゴジャゴジャ言うて、ズルイ」と番傘の 一歩さんは「口は災いの門」を悔いるが、僕 「あんたは川柳よみもせんくせにゴジャゴ

柳鑑賞 (64)

麻生 路郎

平凡の凡をこつこつ歩かんか

人生行路はそうラクではない。 雨もあり、 緑之助

歩くことを悟ったのである。その道も亦ラ うようになったのである。 いた人であろう。遂に平凡の凡の生活を思 風もある。社会に揉まれて、悪戦苦闘が続 急がば廻われで、あせらずにコツコツと

クでないかも知れないが……。 頼りにしてまっせと冗談めかしとき

のである。なかなか芸のこまかいところに のように言った女の心のうごきを詠んだも のでなく、自分の愛人にこの流行語を冗談 たので、この句の場合は夫婦善哉を詠んだ りにしてまっせ」という言葉が流行語となっ 弁が、ピーンとお互いの胸に響いたので「頼 げ「頼りにしてまっせ」の親しみある大阪 や淡島千景の映画化でウンと人気をもりあ 織田作之助の「夫婦善哉」も、森繁久弥

味があると思う。

本心を出しそびれたで助かった

と、肌に寒さを覚えたと言うのである。こ 働らきの一断面を切りとって見せた手際を れだけではどんな内容か判らないが、心の ごろはすべてがブチ毀しだったことを思う 面白く感じさせられた。 いる。うっかり本心をブチまけていたら、 気の弱い人間の心の動きをうまく詠んで 方 今

患例になると犠牲を一人出し

う穿ちの句である。 より手がないのでギセイを一人出したとい らないのである。気の毒だが、辞めさせる ならないのかという人が出て来ないとも限 たのに、私の場合には何故辞めさされねば しては、あいつの時には問題にされなかっ んというのはそちらの考え方で、こちらと こんなこと位で辞めさせるのは怪しから 助

二丁目に住んで一丁目も知らず

にどんな人が住んでいるのかさえも知らな ころか、都会生活のあわただしさは、隣り 考えれば馬鹿々々しい話であるが、それで のである。 一丁目に住んでいて、一丁目も知らんど 志

だと言えよう。

あるが都会人の人生がのぞいていて面白い。 というのである。何んの変哲もない表現で

いて結構自分自分の殻を護って生きている

断ると言って表彰待って居り

海園

もそっけもない話だが、それでも勲章一つ 章でごまかしているのだと聞かされたら味 やかでないのである。 え言って来てるんだからなァ」と心中おだ なものだ。俺より後輩の誰れそれクンにさ と言うが、その実、「何んとか言って来そう 勲章でもないよ、やると言ったら、断わるよ りがたいものに違いなかろう。「イヤ、 で老人の顔の皺がのびることを思うと、あ 勲章ばやりである。金がやれないから、 文化勲章だ何んとか勲章だと、近ごろは 今更

空壜を大事がる癖まだぬけず

もう十幾年にもなり、今では空壜がなくて 壜を大事がる癖が抜けないというのである。 も買えるようになったが、それでもまだ空 空壜を非常に大事にしたものである。戦後 持って行かねば売って呉れなかった。それで たしかにそんなところがある。軽い穿ち句 戦争で物資が不足した時代には空壜を

小

島 蘭

幸

温

暖の差にうろたえる旅

がカバ

>

鳴き方の予習ウグイスあと先に

夕桜タイムスリップした妻と

の珈琲大阪城と向かい合う

妻が反対するの

は理由にはならぬ

で会う妻は小さくて可愛くて

ビー

婚

妻の小さな手が好きだ

雄

ダイエットせんでも先は知れている あるがまま一人あるきのツクシン 天国で愛でる義弟の通り抜け

ボ

小

西

K

年金で食べて近ずく五十年 陛下より私も隠居したい年

カラオケの会長だけど鐘一

0

斉

藤

劦

百歳がくる戦争の生き残り

争の話をするとみな黙る

ポ

風

都

倉

求

芽

快晴を仰げばゴミの日のカラス 風みどりあなたの森で眠りた ケットでふっと笑った春 0

日本を甦らせた稀勢の 病院へ行く道さくらの

曲

h 角

土 橋

温

もりを抱き合っている二

一黄卵

心一つすっきり抜けていく花野

生涯学習川柳と書を学ぶ

へ花見今日

はよい天気

花より団子愉快ではない

たっぷりとお食事付きの介護され

たっぷりと墨つけて書く芸もある

詰が救ってくれ

たのは

0 5

ダム底に昔栄えた村がある

段を昇る祈りの姿して

螢

津 守 平成の次ははてさて何だろう

モー

ツァルト好きなニワトリ卵生

くちばしは黄色ハートは茜色

コンビニのおにぎり齧りお留守番

門を外しなさいと桜咲く

柳

伸

む

新 家

完 可

十三回 乳牛も聞き惚れているシューベルト 飾らない外面が好きラフランス 刃傷もかくやと思う手術跡 本 看板揭揚半頭狗肉共謀罪 \mathbb{R} 特売場イクメン会に占拠され 議事堂を巧言令色占拠する 昭 ユーモアが少し足りない春嵐 積ん読が溜まりに溜まり春が往く 飛ぶように月日が過ぎてゆく怖さ 神創造科学解明 安倍内閣主権在君極右翼 日本語を占拠したいかカタカナ語 女子会のツアートイレを占拠する 小宇宙占拠病室だけれども 舐めて舐めて頑張るヨイトマケ 和の殻脱げずモタモタ生きている いようで有り有るようでない時 性が垣間見えます身八つ口 基準司法追随再稼働 命 日四 月薫風師 里塚 間 西 前 Ξ 宅 部 出 保 たもつ 74 州 楽 郎 忙しさに紛れ乾かしている涙 遊びごころ次々ころげ出す季節 八十歳のスタート点の花盛り 年齢に逆らい若返るこころ さくらんぼ笑って生きることにする ヒトだって百のこころは百の色 二人で植えた木犀やがて銀に咲く 葉陰から黄蝶白蝶現れて 眩しきは白 夢に出る僕はいつでも若いまま 傘寿過ぎ期限を付けて役受ける 頬が痩け口笛音を発しない 身体中音立て壊れゆく予感 友人は次々黄泉に移住する 怪我のない八起きほとけの御力 魂を売らぬ作業服 ルールみな守って呑めばほとけさま 老いるとは年齢でなく光ること 糸絡んで適当遊んでる 百人百色 の翼にも似た花びらよ 花の名は問わずとも 0 ルール 八 村 宮 Ш 本 上 木 旭 希久子 玄 + 弥

也

生

あと一 花を折 春 桜咲く苦労話はもうしない ポ 封 宝 です 筒 くじ 本営勝 ケ 乱 0 婚 尿 裸は H " 0 気味 届 0 伝 1 る人 ね昼寝 中 つ足りない 0 コ 出 0) 舌に 枚買 形状 続 0 のコンニャクたのんます 0 0 す " 汗が た勝ったと言うてはる 間 鬼は家系図から外す 窓 きは ブ が少 見 記 刺さっ 0 П 流 7 てた赤トン 憶 糖 棺 が いた信 を 0 れて海になる しとうな 明 ている小 かる過ぎ 言 中 で書 い聞 ボ か

板

尾

岳

母

JII

F.

大

ものが分からな し長くなる

木 本 朱

夏

す

両

III

洋

K

小

出

智

子

集の森

立ち直れそうな五月の 友達と一 失った指輪のように忘れよう 真夜中の振 幸せな女にふだん着が似 月見草ひとりの 女と妻のあいだで好きな彩を着る 夕立去る人に訣 気に入らぬ髪で一日落ち着かず 緒には死ねない夫婦茶碗 っとした処に置いてあるみか の瞳にこの母鳥も苦労性 を 緒に齢をとってゆく 枚敷くと私の 子は遠い日を刻 湖をも れがあるように 風 つひとに 席 合う 0 かな 中 2

平成元年7月1日発行

0

世 1

1

へ行くのは少し淋

Vi H

に病院があり寺があ

桜観

に帰ってこな 憂し行く方定め

息子たち

P

葉桜のみどり鬱鬱老いるとは

桜闇

ょ

Vi

と襟髪つ

かまれ ぬ

花筏

11

4

に父母

と咲き

0

7

11 る る

桜

遠

n

しよう涙が乾くまで

方の

違

言

葉

0

重 切るのと、

み、

を考えるとき

n す

は 表

だろう」と言

Vi

、「だろ

か

2

暈

ったの

7

あ

る

JII

柳に

慣

用 違

語

使

2 な

7

は

0

ては

な

Vi

で

は

あ は

る

が

品

格 なら

P

重 な 0

違い

ではなく三字の

Vi では

0

か

30.2

かなど考えてみる必要はあろう。

確

か

うと思うの

0 0

あ

る

観

な

0

か

ろか自 麦彦の て詠 は が 特 暗 2 攻 穴埋 テ 合 だ 句 口 句 0 で先 白 80 0 が掲載され Ш あ 爆 柳練習 でと I だだろう自 行 る 句が ŝ 昨 帳 あ 年

る

と指摘 檸檬抄

され

た。

 \mathbb{H}

ば わ 0

0 0

0 口

秀

選 合

句重

自

爆

テ

を

ね

口

善

信

居

ていると言うの

泣き上

手

手くす

母さんと叫

2

だだだ

中

のに、 が降る ろうし 用 とすると慣用語 0) 全然違うのである。 だろう」と「だろか」 れて 語を辞 詞ウの る言葉」 いではある。 0 かに比 いる語 広 はっ を 辞 付 書で引くと「一 0 などとある。 指定の助動詞 苑にも電子辞書に けて推 べてみると 正し V たもの、 とある。 だがしかし頭に入るニュ として使わ い語法に 量を表す、 新村出編の広辞苑を引 体言、 の違いである 「う」と「か」 般に 0 続 か n 未然形ダロ なっては 13 \$ 習慣とし T T 欲 用 いる 無い 語 L だろ の終 Vi のは 0 0 Vi か K であ ٤ な T だ il: 本 7 使 3 0 形 推 13 くと うう。 を探 わ る 量 > が れ 0 スは 字 慣 助 0 だだ T す 雨 詞 助 0

故 知 新

高がき 鬼 遊 11 柳 句 か

単身赴 西成 九官鳥 でほち 読む 駅裏の 死刑 たん Vi 直 阪神が負 福 いつまでも 来語 0 線 0) 0 0 金 0 世 本 囚 神と動 13 で 街 や噂 までが んをぶ 辞典 天 は 消 が 任 酒 ほ 0 を it ED は 残 雨 妻 たくさん 屋 へを借 かか て楽し h U P が 少女では 0 らも 父の傘 、歩道 さし 切 情 私 0 族 が あ をお つが K 死 緒 h 0 h つけてガラスだとわ たビ が らうう 何 です 生 て遺書を書 あ 2 いはずが Vi きて 渦に だ今 通 が 風 ボ Vi 0 0 と呼ぶ 罪が T あ n を 1 な 収 な 死 3 バ 朝 違 0) Vi 知 ル な る スタ 証 ね あ 0 0 7 ま 記 る しています せ 才 事 11 h ル る か



四 出 楓

楽

選

バッシング耐えて真価が問われ出す ふさぐ日はシーツに香り足してみる 大阪市 小 野

雅

美

片付けが苦手で客を呼べぬまま しっかりと骨まで守る皮下脂肪 透明のネイルで淑女演じ切る

席外し変わった人と噂され

高知市 Ξ 谷 松太郎

久しぶり紙飛行機を三機折る

孫の靴大きくなって頼もしく この地球青い丸形守られ ょ

好天気座布団五枚天日干し 赤ヘルよ今年は屹度日本一 雨あがり桜満開ありがとう

昼食後深い居眠り十五分 音をはずす人ほどマイク離さない 叶うなら記憶の回路みがきたい

偉くないが元気がとりえ何よりも ごろごろと出来る野菜はいやがられ

空しいと言わず普通に感謝する

生きて来たアドリブだけで逃げている

雷雲が僕のゆく手を阻んでる 雪解けの日差しの合間蕗の薹 寝ころんで句作も忘れ花曇り 野暮もまた粋の一つと負け惜しみ ミヨちゃんに捕えられた鬼ごっこ 端からは三番目辺心地いい 明日もまた一人芝居のその続き 生一本捻くれもんのそこがいい

弘前市

髙

森

吞

この手からポロポロ落ちる福の神 女の句読点妻は昼寝ばかり 突然に不安にさせた不整脈

德

竹原市 六 田

倉吉市 田 中 けいこ

50

世の中は少し判らぬほどが良い阪神が勝って夜更かし朝寝する横綱に必死が見えた春相撲	選上の魚覚悟は網で跳ねた時 要る前に浮かんだ句メモ電気つけ 歩行器の夫誰にもねぎらわれ 歩行器の夫誰にもねぎらわれ がである。 がである。 がでいる。 はでいる。 はででいる。 はでいる。 はでいる。	要に の方面を 第二日市 三田市 平凡な日々で幸せ唄もでる 三田市 でんしょう しょうじん かんしょう こうしょう かんしょう こうしょう かんしょう しょうしょう しょう	表の手を引いて人主やの章 ほらごらん世界平和は夢の夢 国鳥のキジはハーレム良く守る 国鳥のキジはハーレム良く守る なぎらいの酒に息子の愛を知る なぎらいの酒に息子の愛を知る ないの酒に息子の愛を知る	まず::::::::::::::::::::::::::::::::::::
生		東	橋	尾
田		内	本	畑
和			7	
之		美 智 子	整	なを江
ゆったりと臨むためにもまずトイレ老け顔も今見りゃ若い写真立て「仕様が無い」ふっきり丸くなる眠り妙薬は無理せぬことと知る加齢	きどき噎せた	まぶしいな空が高いよ背伸びする春が来た上衣脱ぎすて深呼吸またひとつ年を拾ってふり返る亡き人の面影追って夢の中	信吉市 堀 かずこ一旦めがね世の中みればダーク色一旦めがね世の中みればダーク色一旦のがね世の中の世の中で踏んばらにゃせちがらいこの世の中で踏んばらにゃせちがらいこの世の中で踏んばらにゃける。	米子市 田 村 周 子 ネタ元の生きが気になる押し問答 ゆるキャラも背負ってランドセルが行く非舗装の道はなけれど過疎がある

敗戦の日が記念日に成る不思議カラオケの昭和の歌が減って来た幾百萬昭和の民は死にました	問き漏らす事が増えてる遠い耳 思い出が夜汽車の音で甦る 一端の口をきいてる十五歳 長時間働き蟻にない希望 京都市 櫻 崎	新東はしないと決めた酒の席 とりあえずビール飲むのは高齢者 とりあえずビール飲むのは高齢者 ドローンよもっと活躍できるはず	大筋で意見一致にまだ不満 豊橋市 小 松 胸騒ぎパドック歩む人気馬 埋渡りの下手な息子がドジを踏む 埋渡りの下手な息子がドジを踏む がいかい かんしょう かんしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう しょうしょう はいしょう はいしょう はいしょう はいしょう はいしょう はいしょう はいしょう はいしょう はいしょう しょう はいしょう はいじょう はいしょう はいない はいしょう はいしょう はいしょく はいまいく はいしょう はいしょう はいまい はいしょう はいまい はいまいまい はいまいまい はいまいまい はいまいまいまいまいまいま	江南市 脇 田
	篤	紀 美 代	く み 子	雅
	子	代	子	美
うなずける父に良く似た子の仕草一度だけ笑顔が良いと誉められた座布団を出された為に長話座布団を出された為に長話	ゆら桜の海に溺れゆく うに悲しそうに泣く赤ん がながあれば腹立たず で食い物の名が出てこな	大阪市である。大阪市である。大阪市であるがんばらなくていいんだよべかのキラキラネーム良い返事であるがんばらなくでいいんだよがあるがんばらなくでいいんだよがある。	を見舞う優しい嘘を用意して を見舞う優しい嘘を用意して を見舞う優しい嘘を用意して を見舞う優しい嘘を用意して を選び来る	大阪市
	宮	梅	田	髙
	村	里	中	杉
	満 寿 恵	南 天	ゆ み 子	力

日曜日モデルハウスで子がはしゃぐメルヘンな回送列車星の夜つらいとき昭和歌謡を口ずさむこの子はと夢をもったが普通の子	悪役をこなして味を出す役者 地田市 太 田 省 三懸力をにらみ牛丼を掻き込む しいよのぞみ号 がパングも乗せて欲しいよのぞみ号 悪役をこなして味を出す役者	<u>ь</u>	平 井 美 智	大阪市 森 廣 子
菜っ葉服技に誇りの町工場取説もネットで見ろと老いを切り見栄メンツ省いて軽く生きている見べなどないよ一緒にいたいだけ	で母はなお先達となり老いの坂子育では思えば遥か耀いて は思えば遥か耀いて は思えば遥か耀いて は思えば遥か耀いて は思えば遥か耀いて はいかに急テンポ	穂	原能	泉大津市 助 川 和

1 1 2	市松永庄	お世話さまなんてうわべはつつましくこの世相弱味を見せた方が負け弱い者の味方だなんて格好つけ 堺 市 羽田野 洋 介	以下余白そんな幕引き出来るまで笑ったら肩のしこりが溶けてきた幸せの記憶集めてチャージする幸せの記憶集めてチャージする。	乗客のするどい視線豚まんに乗客のするどい視線豚まんに乗客のするどい視線豚まんに	堺市梅木澄空
â	Ξ	介		牙	仝
鬼部長また方言で尻叩く 、大十になってはじめて限度知る 、大神の待つ故郷に親は無し 、大神の待つ故郷に親は無し	体力も金も使わず今日がゆく	うっかりと飲んだコーヒー長い鏡見て今日も綺麗と自惚れる病んだ身に友のうれしいお節介	首の皮ジャバラのようで齢を知一食を抜いてでも寝ていたい一食を抜いてでも寝ていたいす遠ところ	酒とあてどちらか足りずもうひとつ 技露宴飲み放題と勘違い 春場所も我が家の番付変わらない 桜より春を感じる花粉症	
į		か 介 豊中市	n o w	高槻市	吹田市
		夜 豊 中		高 い と	吹田市 岩
I	八尾市	变 豊 中 市		高槻市	市
I š	八 尾 市 田	变 豊中市 貝		高槻市 三 谷	市岩

雨降れば畑忘れて指を折り	食卓の菜花いかなご春を盛る	初鳴きの鶯音符まだ読めず	錆びた脳柳句作りで悦に入る	春畑に定年はなし種を蒔く	大阪府 畑 土	ロボットに恋もするのと訊いてみる	温泉もいいがやっぱり家の風呂	少しずつ怠け始めた前頭葉	指切りをしたことだけは確かだが	花粉症春より秋が好きになり	大阪府 神 昭	紅葉マーク居場所だんだん狭くなり	世相との段差に言葉ひっこめる	世話掛けぬつもりいつまで続くやら	年金と呼吸合わせて買物し	古着にも知恵足し気分変えて着る	大阪府 小 云	単線の窓に旧暦鯉のほり	いただいた電話でごめん長話	兄ちゃんの株があがった逆上がり	旅立ちの子に赤飯が蒸しあがる	イカナゴの未来をつまむ春の味	箕面市 中 小
					中						野						柘						山土
					節						千恵子						こずえ						春
					子						子						え						代
失恋を笑い話にする未練	煽てには乗ってみせるも処世術	受け皿が忖度し合う天下り	大口をたたいて乗せた京唄子	お互いの惚け責め合って共白髪	尼崎市 永 田 紀	気が置けない友とマクドに外風呂に	舌鋒で大物小物斬りまくる	思い付きレシピが不意の客に受け	イカナゴも薹が立ったら売れ残る	海北友松の龍の目に凄まれる	尼崎市 清 水 久美子	老残に居場所うれしい生まれ郷	廃線の駅で花見す亡き母と	桜散る姿忍びず道変える	染井より好きだよゆかし山桜	花散らしぼくの心も吹き抜ける	神戸市 近 藤 勝	しがらみの鱗を捨てて楽になる	ぐち小言抑え飲み込み好好爺	深読みをやめて気楽に生きてみる	焼き鳥の串を突き立て小言聞く	日本にっぽん湧き上がる渦胸に住む	神戸市 輿 水
					惠						夫子						正						弘

ユー モアの医師は病を癒してる 尼崎 市 H 雪 菜 また会おう施肥して誓う花じまい 弛んでるわけではないがうとうとと 和 歌山

おトイレのバラー輪が人を恋う

今日もまた輪ゴムで締める菓子袋 気掛りの義理を果たしてよく眠れ

それにしてもついうっかりが多すぎる

伊丹市

延寿庵

野

やりきった飛び散る汗のさわやかさ 風見鶏風をつかんだ跡がある

前向きに歩くと夢が増えてくる 笑い皺増えて人間丸くなる

結び目をほどくと漏れる笑みひとつ

三田 市 馬 場 貴美江

記憶ない逃げ口上もほどほどに 医者嫌いまさかの病打つ手ない

医者通い地獄極楽模索中

あれそれも昭和一桁通じ合う 亡き夫が手招きするがちと待った

和歌 ili 県

よりこ

日 パープルの春のドレスは着ずじまい 日生きてゆくだけ八十路

自分ファースト一人ぐらしを謳歌する 麦こがし思い出しては食べている 八十を生き抜くためのストレッチ

風を聞き砂丘は春の顔になる

洗い髪風に任せることにする 子を離れ新しい日を始めねば

燃えつきる日って本当にくるかしら 除菌した砂場で遊ぶ子供達

普通の事出来るしあわせ噛みしめる 輪の中でどっち向いたらいいかしら

あれそれで通じる事が多くなる 待ち合いに病気自慢の花が咲く

散る時も絵になる桜和の心 殿も見た城の桜は誇らしげ

> 市 平 田 元

Ξ

B級品出る頃待ってジャム作り 糠床を混ぜる妻の手何代目

乗っている時多作してプールする

鳥取市

大

前

安

子

巣立つ子よ海は荒れるを知ってるか

子の巣立ち背中一 帯ポンと叩けばみんな過去になる 度に丸くなり

倉吉市

美知

米子市

伊

塚

美枝子

野草摘み懐かしい味戦中派悟しさが向上心に火をつける日々進歩取り残されぬ一歩出すアナログで良しペンを持つことで良し	がン告知よりにもよって誕生日 がン告知よりにもよって誕生日 がン細胞よっぽど僕に惚れている 手術前頑張ってネと言われても という かい	へらへらと甘い話は遣り過ごす 鬼 鬼 鬼 雄あっさりの食事が続く検査前 鳥取県 児 玉 規 雄あっさりの食事が続く検査前に出る	第子市 野 川 宣 子市 野 川 宣 子市 野 川 宣 子市 円 日 再刊 日 日 再刊 日 日 再刊 日 日 再刊 日 日 日 日 日 日 日 日 日	i H
寝て一人起きて一人の顔洗う厨にもマグマ眠っているのです条を足して後期高齢泳ぎきる条を足して後期高齢泳ぎきる	手も口も足も達者で元気です 	瀬戸内市 片 島 秀 月明かり窓星が答を覗き込むいい雨だ畑の野菜が手を叩くいい雨だ畑の野菜が手を叩くおお国宝桜と仰ぐ千鳥城	安末市 房 保管児エープリルフール相手が居らぬ独居爺 石見神楽はずむ心が蘇る 春の日へ雪の大山凛として おいまして はずむ心が蘇る	Ā

目から鱗落ちた日客の一言へ変わらんねお元気そうへ笑んでおく変わらんねお元気そうへ笑んでおくが息災なれど歯痒いこの体	伊	善人を隠してしまうサングラス一列に並ぶ日本人の真面目百歳のドラマ筋書などはない	隅っこに咲いているのが私です 手り紙に包んでお気持ちを渡す 信念を曲げずにノーという勇気 指先のひとつが背く下剋上	鴨	尾道市 小
	藤		重		畑
	寿		耕		宣
	子		三	紀	之
下他雑巣春 一 一 作 に が つ 音	野暮が	真もよ過寒のく	札 消 高 町 夕 束 し 齢 内 焼	ロ鬼火シ愚しごのヤか	
下準備手抜きはしない母の味他人には見せぬ嬉しさ分かち合う雑草が一気に庭を占拠する雑立つ子を見送る春の陽の中で	大洲市	真実を暴けばナマズあばれだすもの造り職人の技嘘がないよく見て感じ思いのたけを自己主張よく見て感じ思いのなさけにすくわれる	が 利束の増える手品を習いたい 利来の増える手品を習いたい 大家の増える手品を習いたい が表示している。 が表示している。 が表示している。 が表示している。 が表示している。 が表示している。 がある手品を習いたい。 がある手品を習いたい。 がある手品を習いたい。 がある手品を習いたい。 がある手品を習いたい。 がある。 がる。 がある。 がる。 がある。 がある。 がる。 がる。 がる。 がる。 がる。 がる。 がる。 が	部市	山口市中
手抜きはしない母の味は見せぬ嬉しさ分かち合う一気に庭を占拠する	大洲市 花	を暴けばナマズあばれだす造り職人の技嘘がない見て感じ思いのたけを自己主張	り 去に墨を塗る 松山市 近	部市高	口市中
手抜きはしない母の味は見せぬ嬉しさ分かち合う一気に庭を占拠する	大洲市 花 岡	を暴けばナマズあばれだす造り職人の技嘘がない見て感じ思いのたけを自己主張	いたい 松山市 近 藤	高山	口市中前
手抜きはしない母の味は見せぬ嬉しさ分かち合う一気に庭を占拠する	大洲市 花	を暴けばナマズあばれだす造り職人の技嘘がない見て感じ思いのたけを自己主張	り 去に墨を塗る 松山市 近	高山清	口市中

鏡見てうなずく後期高齢者食卓に沢庵漬けのない不安自給率考えお米食べている日本酒にするかビールか外は雨	エルニーニョ豪雨今にも西の空 塩竈市 木 田 比時間差にまだのろのろと生きている	風	デニー 坂 上	島原	
	比呂朗		の り 子	卓	人美子
平凡を積んで非凡に近づける別と心老いの速度がずれてくる場と心老いの速度がずれてくる	人の世話ばっかりしててまだ独り薬へらしてからが講子いい	るり	を 当り発して思考其 カネネ を と 当り発して 思考 其 カネネ に さい のい 顔を するからあとが続かない いい 顔いているが妥協はしていない	ι るぶみ仏な	ī
	伊		髙	川	
			髙 野 不	川 율 オ良 カ	

誕生日自分ケーキを友も買う 出逢ったら視線外した過去の友 出途ったら視線外した過去の友 明るさが病む身に辛いピコ太郎 月 日 日 美	H H	お 電 に 生 大 で で で で で の な ま と い で 数 腰 み で で な ま と い で 数 形 を の で も に の で も に の で も の で も の に 。 に 。 。 に 。 に 。 に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 。 。 。	若葉風うきうき靴が軽くなる れ歌山市 鍋 嶋 澄 子郵便を待って何度も外に出る 生き生きと暮らせば偶にいいことも	和歌山市 北 原 昭 枝花はな華ぼさぼさの髪やっと切る名人が恐れてるのは芸の慣れと光慣れていつしか買い被る	奈良市 髙 橋 敬 子
土おこし蚯蚓に春を教えたる 友五人孫の話がてんこ盛り 早春に眠り誘われ鼻提灯	H Þ	身仕度を始めたんぽぽ風を待つ 食吉市 大 羽 雄 大少しだけ朱を残して陽が沈む 広げたら飛べる翼になっていた	私は縮み孫達のびてきた 鳥取市 山 野 すみれ私は縮み孫達のびてきた 場で手狭な家へ勢揃い	稀勢の里日本を湧かす綱の意地 窓塚スターになれぬ短い脚 深すのは終宴飾るいい笑顔	鳥取市 津 村 律 子

酒よりも髪が欲しいと嘆く夫仏知れず咲く草花は色競うん知れず咲く草花は色競う化粧するバァバ何歳孫が聞く米子市	衣替え一気に夏を連れて来る今時の子供の名前脳トレだらの子供の名前脳トレだのよびながない。	花見酒わたし飲めない運転手おう行けぬ思い出の旅夢枕おう行けぬ思い出の旅夢枕	終わらないに満開の笑	たい 表札に故人そのまま大家族 まだ若い後三年は言うつもり まの時期はマスク美人が増加中 である。 を持ちまた。 を持ちまる。 をもなる。 をもな。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもな。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもな。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもな。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもな。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもな。 をもな。 をもなる。 をもなる。 をもなる。 をもな	
Л		池	中	宮中	
本		田	井	田村	
美津子		美	虎	風	
子		穂	尾	露毅	
愛もらうきっと必ず返すから嬉々としてしっぽを振ってくれるネコー本のノック受けても下手なままアメリカに平和ボケまで与えられ	句作りもなかなか出来ぬ脳になり元号の変わる頃まで生きるかな金さえあれば一人なんとか生きられ恥かいて夫婦の絆六十年	誕生日知っていたのは暦だけ大袈裟に大手を振って老い飛ば大袈裟に大手を振って老い飛ば塩分に気を付けなさい赤信号	表が来た通い百姓頑張れとおひな様始末はいつも祖母一人おひな様始末はいつも祖母一人	※ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	
れるネコ	なり	鳥取県	鳥取県	子市市市	
れる るネ 松江	なり なられる	ば 鳥 取	鳥取	米子市 見	
れるネコ	なり なられる	ばす 鳥取県	鳥取県	子市市市	

ありがとの笑顔一つで疲れとぶ 三猿になれず口出しつい本音 平成の風にのれずに錆びる脳 夜桜に誘われ生きている至福 一気なく聞いた音楽耳の奥 をがまいポワロになって推理する をが無いポワロになって推理する	行こうか止めようかり頑張ることにして	り 出 す 雲 南 市	日僚がだんだん増える泌尿器科 同僚がだんだん増える泌尿器科 ほとんどが信じて入る美人の湯	松江市
片	宮	永	黒	中
岡	宅	見	目	筋
富	比 佐 恵	安	英	弘
子	恵	子	男	充
桜お雛 起 今 隠 卒 幸 堂 の 味 を あ ま な る 抜	春 花 天 守 閣 か	煮満ズ満	愚安口膨	
量に椅子の御法要 しよう携帯切っている しよう携帯切っている ですったがである が食店も交番も はこつに僕一つ は二つに僕一つ	のブランコ止まらないりあなたと歩む未知の道学き上がらせている桜	が出る市	思かさを笑う峠の石地蔵 日笛を吹けば緑が歌い出す 日部を吹けば緑が歌い出す といびきがある狂い咲きがらんで咲いて十日で散って見せ	岡山県 大
世に椅子の御法要 世に椅子の御法要 の事は秘密の夕の膳 の事は秘密の夕の膳 の事は秘密の夕の膳 が食店も交番も は二つに僕一つ	のブランコ止まらない 竹原市 土りあなたと歩む未知の道	の嘘が出る 竹原市 若	で咲いて十日で散って見せ で咲いて十日で散って見せ	山県大
量に椅子の御法要 しよう携帯切っている しよう携帯切っている ですったがである が食店も交番も はこつに僕一つ は二つに僕一つ	のブランコ止まらないりあなたと歩む未知の道学き上がらせている桜	の嘘が出る竹原市	で咲いて十日で散って見せ で咲いて十日で散って見せ で咲いて十日で散って見せ	山県

恵

武

子

夫

彦

飽食の果てに玄米たべている 松山市 柳 田 かおる 三分咲きわくわく明日の風を待つ 三分咲きわくわく明日の風を待つ かおる 三分咲きわくわく明日の風を待つ	「いく」、	転んだと言って泣く母子に還る絶対と言えなくなった六十路坂桜サクラ真似してみたい散り際を桜サクラ真似してみたい散り際を遅れつつ手繋ぐように花が咲き	音	では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	府中市 田 辺 和 子
間き上手にならねばと思案する お若い声セールス上手でんわ口 病院へ行くバッチリとおしゃれして 赤黄青小花賑わう散歩道		子の住む街の天気予報も見て眠る山や川が育児書だった里がある山や川が育児書だった里がある山や川が育児書だった里がある。	惚れ防止等とは言わぬ好きな道春ショール派手目に齢包みけり目に映る数字の軽さ春疾風目を閉じて音も楽しむ大風呂場	その割れ目見守るだけでいいのです をの割れ目見守るだけでいいのです。 がしい忙しいねと長電話 での下黙って聴いてあげました	松山市 郷
0.02 * .5.	0.04	-		ee.co.	20070
H	松	H		邊	田
さくら	紀	美 恵 子	きばった。	伊津	みめ
6	子	-1		志	P

いたら動くアナログ電 付かずの事片付ける晴 来過ぎた日には付箋を	ほめ言葉ポケットに入れ孫に会う 那覇市 前 川 真	忘れたい過去がついてく影法師君がいる忘れる努力の邪魔をする服買った妻の笑顔何日持つ	本書の音高らかに空こがす 山鹿市 柳 田 白 沙四月なりし雨が続いて気がめいり 孫育ちいつしか我の老いを知る	帯々食婚をにいの	失敗を許さぬ医師のその覚悟 当鹿市 前 田 幸 子どの店も中老年の女客 片付かぬ部屋は己れの影に似て	唐津市 岩 﨑 實
の粒ポトリポトポト数え歌際の夫婦茶碗に茶と花を	朝つみの葉に鈴なりのカタツムリ 沖縄県 宮 すみれ	いけないと知りながらつい長電話あったらね心写せるマイカメラドラフトでお眼鏡叶う駒探し続編が見たい日本昔話	沖縄県 高 良 秀 光こんにちは挨拶交わし首かしげのとうとの母に肩貸し動けずに可愛さに懲りずに孫と鬼ごっこパフェのあと体重計の正味にギョ	冷えて羽ばたく孫の卒い家子供は巣立ち私趣い家身子家族はいつ屋	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	沖縄県 あ ら さくら

夜学の子職場の匂い引きずって 札幌市 斉 宏 子 新学期新たな風が吹いてくる 東京 髙

弥

生

産まれ立て雪解水に芽ぶく春

廃線のレールに汽笛こだまして

、淡く新芽になごり雪

市 富 永 恵

子

さくさくと雪を散らして春を待つ すぎし日の童話は多弁子の瞳

花便りあれこれプラン娘のメール

フォームで箪笥の服に風がおき 男

鹿

市

伊

藤

のぶよし

うまい水のめる幸せやっと知る 俯瞰なら任せてくれと揚げ雲雀

お礼肥無駄じゃなかったデカイ花 もめごとは違うよという言葉から いのち万歳咲いてよし散ってよし 上尾

市

中

村

伸

子

手助けを受けて今年の衣替え

セルフレジ夫はこなしてまだ達者

けんかして黙っておれぬ夫の負け

松戸市 明

子

Ш 下

氷川往時を横浜に ハーバーライト身をまかす

港みらい

船

0

お手軽なマックのランチ和やかに なんとかなる残り時間に羽根ひろげ

床暖でまぶた落ちてるうちの犬

子の人生十八歳まで背負ってく 自分なり生きたいように生きてい 13

ピカピカの孫と桜とランドセ ル

浜市

巖

田

かず枝

学校が楽しくあれと願う日々

健康とお金と平和欲しいなあ 正常と言いつつ薬飲んでいる

買いたいようでちと恥ずかしい 忖度と漢字で書けるようになり 赤パンツ

浜市

長

亜希子

鯨尺まだ買う人がいるんだね

参拝し食べてしゃべって元気出る

伊勢原市

小

H

幸

子

月光を見上げるそばに犬座る どこまでも守り受け入れ介護犬

子犬の目すべての許し請う瞳 寛容と介護の心犬に知る

すばらしい自然と出逢う幸テレビ 手を合わす今の幸せ生きること

岡市

渡

辺

芳

子

サプリメント沢山のんで今の幸

日を大事に暮らし月日過ぎ

- 65

(老人の原宿巣鴨3句

今日こそは不用な物をダイエット支えられ支えた人が今は亡く	失敗恐れ決断せねば先見えず	孫のアイデアじいちゃん持ちでディズニーへ	*	春が来たお祝い続き諭吉去る	義父の知恵四角四面の明治人	意欲ある物の見方が次を生む	年かさね何をするにもひまかかる	*	お疲れ様ご苦労様と真央さんへ	入学式やはり桜がよく似合う	遠い日にウキウキ父の肩車	テストの夢目覚めてホッと息を吐	<i>*</i>	仮の世の仮の衣で夢うつつ	蛇口ひねる今日のいのちが踊り出	桜咲くただ一瞬の平和です	掌で包めば人も溶けてゆく	给	盗撮の片棒担ぐのもスマホ	百均のどこ眺めても手ごろ感	世渡りへ顔色を読む風を読む	運命と恨まれたくはない手相	典
		ィズニ	大阪市					大阪市				<	大阪市		す			鈴鹿市					豊橋市
		1	中					田					磯					小					藤
			島					中					島					河					田
			栄					廣					福貴子					柳					千
			子					子					子					女					休
お彼岸のお墓参りももう大儀搦手から破れるためし世にあまた	生と死が唐草模様の中に在り	こんなんでようもここまで来たもんだ	交野市	文楽の人形の動き神業か	著名人相次ぐ他界昭和去る	祝日は旗は出さずに休むだけ	政界は昨日盟友今日は敵	大阪市	ええ人を演じきったら風邪引いた	ポイントはシビアな友に差し上げる	チン電に乗るだけの旅今日も暇	タンポポを踏まないように行く小径	大阪市	政治屋よ国民なめていませんか	残酷なニュースに慣れてゆく怖さ	生きるとは耐えることかと被災民	忖度が焦点ぼやけさせている	大阪市	地球生かす燃える太陽休まない	相撲界力の変わりが見えて来た	春が来て杉花粉過ぎ桧の番	稀勢の里闘魂見せた優勝旗	大阪市
お彼岸のお墓参りももう大儀搦手から破れるためし世にあまた	生と死が唐草模様の中に在り	こんなんでようもここまで来たもんだ	田	文楽の人形の動き神業か	著名人相次ぐ他界昭和去る	H	政界は昨日盟友今日は敵	吉	ええ人を演じきったら風邪引いた	ポイントはシビアな友に差し上げる	チン電に乗るだけの旅今日も暇	タンポポを踏まないように行く小径	市横	政治屋よ国民なめていませんか	残酷なニュースに慣れてゆく怖さ	生きるとは耐えることかと被災民	忖度が焦点ぼやけさせている	市松	地球生かす燃える太陽休まない	相撲界力の変わりが見えて来た	春が来て杉花粉過ぎ桧の番	稀勢の里闘魂見せた優勝旗	市前
お彼岸のお墓参りももう大儀搦手から破れるためし世にあまた	生と死が唐草模様の中に在り	こんなんでようもここまで来たもんだ	田岡	文楽の人形の動き神業か	著名人相次ぐ他界昭和去る	H	政界は昨日盟友今日は敵	吉田	ええ人を演じきったら風邪引いた	ポイントはシビアな友に差し上げる	チン電に乗るだけの旅今日も暇	タンポポを踏まないように行く小径	市横山	政治屋よ国民なめていませんか	残酷なニュースに慣れてゆく怖さ	生きるとは耐えることかと被災民	忖度が焦点ぼやけさせている	市	地球生かす燃える太陽休まない	相撲界力の変わりが見えて来た	春が来て杉花粉過ぎ桧の番	稀勢の里闘魂見せた優勝旗	市前川
お彼岸のお墓参りももう大儀搦手から破れるためし世にあまた	生と死が唐草模様の中に在り	こんなんでようもここまで来たもんだ	田	文楽の人形の動き神業か	著名人相次ぐ他界昭和去る	H	政界は昨日盟友今日は敵	吉	ええ人を演じきったら風邪引いた	ポイントはシビアな友に差し上げる	チン電に乗るだけの旅今日も暇	タンポポを踏まないように行く小径	市横	政治屋よ国民なめていませんか	残酷なニュースに慣れてゆく怖さ	生きるとは耐えることかと被災民	忖度が焦点ぼやけさせている	市松	地球生かす燃える太陽休まない	相撲界力の変わりが見えて来た	春が来て杉花粉過ぎ桧の番	稀勢の里闘魂見せた優勝旗	市前

残された命の限り前向きに 豊中市 荒 木付け焼き刃口を開けばはがれそう 豊中市 荒 木	三度めの説明なのに感心しケーキ食べ生きててよかった言う五歳女子力という名のばあちゃん知恵袋空見上げ進路を決める雨やどり	歴生のよろこび痛みすぐ忘れなる今独りなる今独りなるのかしくなる今独りで行け	評論家で謝罪した人未だ見ず 堺 市 近 藤語論家で謝罪した人未だ見ず	母親の口真似うまいおしゃまな子	河内長野市 中 島
郁		早	治	14	
子		苗	子	修	彌
いつの世上 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	真実を明か荷を積めば座ってばか	投げたゴント 大阪万博	食べるだ がぬ時は小 だながないない。	遠き日に コマーシ	
元 てが 京 気	真実を明かせば屹度嫌われる荷を積めばぐらつく自転車と歩く新聞も手紙も来ない無聊の日座ってばかり足腰ついにガタが来る	富田林投げたゴミ ポンと入って良い日だた大阪万博に期待をしてる百二歳旅行保険入り安心する旅行	食べるだけ消火器官はまだ確か死ぬ時は動きが止まる電池切れ死ぬ時は動きが止まる電池切れを吹く私は何に咲くだろう	恵き日に郭公という喫茶店 要曇野の語感にひかれヨーグルト で会野の語感にひかれヨーグルト	豊山
人元気	真実を明かせば屹度嫌われる荷を積めばぐらつく自転車と歩く新聞も手紙も来ない無聊の日座ってばかり足腰ついにガタが来る	市	豊中市	ルト切る	豊中市
人元気	せば屹度嫌われるぐらつく自転車と歩くも来ない無聊の日	市	豊中市 市	ルト・切る	荒
人元気 ・	せば屹度嫌われるぐらつく自転車と歩くも来ない無聊の日り足腰ついにガタが来る	市 。	豊中市木藤	ルト・切るのた切る	
人元気	せば屹度嫌われるぐらつく自転車と歩くも来ない無聊の日り足腰ついにガタが来る	市	豊中市 市	ルト・切る	荒

] 	受の手をそっと差し出す募金箱 八尾市 前 田 紀 雄誉め上手子は伸び伸びと成長し 親の手を振り切り友と初登園	対士にもハンサムがいる勝つを待つ新社員バッジが光る目がうるみ りかった はいりが かんしいり はいり はいり はいり はいり はいり はいり はいり はいり はいし いり はい	豊かさの海で少年溺れそう 枚方市 坂 本 ミヨノ要全は妻のうしろを歩くこと	を で遊びの為に働く七十代 で遊びの為に働く七十代 で遊びの為に働く七十代 で遊びの為に働く七十代 で遊びの為に働く七十代 で遊びの為に働く七十代
ر برا	桜咲き春がまた来た八十回 加西市 山 端 なつみ顔色も空気も読めぬ新社員失言に首を切れない自民党	サード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	熱燗で休肝明けを丸く呑む 神戸市 玄 番 美恵子 立父に酒亡母にヤクルト彼岸明け 古時計才走ったり怠けたり	大阪府 髙 木 道 子紅手毬まーるい桜にネーミング朝の詩父の形見のルーペ持ち朝の詩父の形見のルーペ持ち四阿を確保して待つ花見酒

·									Lore						· · · · · · · ·					inte	-	
とりあえず一晩眠って考える若者が義理人情をゴミに出す下町に育った人情今に生き	三猿になって現世を渡りきる		いつ飛べる平和の鳩は待っている	何もかも自分で出来るこのままで	しばらくの孫の成長春うれし	春風が孫へ合格プレゼント	are a	世の中は春日遅々でいいんだよ	超豪華走るホテルの超人気	老齢車何れが兇器か病気かな	時は春花の下にて我酔うぞ	Anti-	そら豆が畦で育ってもうけもの	夏野菜植える準備に忙しい	寒さ過ぎ日ざしやわらか春うらら	よく走る運動会は花形だ	Artic	多事多忙豊かに生きる老いの坂	口だけは元気になって退院日	勝つよりも負けから学ぶ相撲取り	花も実も落としてからの人間味	
		三田市					篠山市					篠山市					篠山市					川西市
		九					藤					長谷川					永					日野岡
		村					井					Ш					井					岡
		義					美智子					善					かほる					和
		徳					子					輔					る					之
がんばるぞ悔いを残さぬ一日にハラハラもドキドキもせぬもう後期理想的夕べ飲んでた歌ってた	平和でも長く続くと綻びる	宝塚市	何事も密にと策し成就せぬ	古漬けの味醸すよな老い二人	東京は桜も先陣きって咲く	満開の桜陛下を誘い出す	三田市	梅の後桃が咲く庭桜呼ぶ	土手歩き土筆見つけて歩を伸ばす	祖父と孫干支が同じで良い関係	降る降らぬ血圧不安雨模様	三田市	最近の小学生の受け答え	我が夫婦全てにギャップでもOK	ウォーキング休み休みで数稼ぐ	雨戸の音思ってたより気にならず	三田市	あっしい君今は免許の返納期	信じます今までついて来た夫	東西でギャップかかえる土地がらみ	三年目向かいの空家に灯がともる	三田市
		太					松					辻					宗					幸
		田					本										福					田
		としお					ゆか					開					清					厚
		お					h					子					司					子

背を おー 耐 用 木 昂 お座 知 テ 老人会役員 政世 疑 兀 年生 水路 ボ とペン探してる間に句を忘れ ľ えてきた冬の 鶏 札 禅 ることが 気そう言 治 0 似 晴 0 0 花 鼻 \$ 達 L ドンも 餌 た心生け Vi 家を罵り自己を正当 5 背中 なか て心 でも ち ば が 鳴 たまに逗留 1 し歩幅 X を p V の溢 夫婦 心を育 h 0 は 7 0 + わ 間 釣 確 花 鏡拭 K 年もうええか 臭を嫌 n 雨 カ X 2 n か れる園に咲く 寒さに ダ 15 揃 た お 自 る 12 L ンも他人事でな 8 \$ ち 2 0 力 か L Vi て 分もそうか 玉 る 2 おどっ 悪する かり てみ ため T 負 T 0 3 0 D 民 とり持 勝 仮 2 馬 Ut 凸 Vi か 七千 ては ず ま 住 る 鹿 登 X 0 せ てるた にする 露 ま る塔 天風 歩 Vi Vi な 西宮 宝塚 宝 姬 呂 一木市 路 市 市 市 市 岸 福 丸 Ш 中 野 田 Ш 久 IF. 孔 万 子 彦 彩 忠

川柳水流会 第13回 誌上川柳大会

課題と選者

「喋 る」 しめの 選 福村今日志 選 「舞 う 中野 六助 選 荻野 浩子 選 「沈 む 小島 蘭幸 選 劇 赤井 花城

投句要領

各題1句(未発表作品に限る)

所定用紙または原稿用紙・便箋1枚に各 題1句を列記。〒・住所・氏名・電話番 号・所属結社を明記。

投句料 1000円 (発表誌呈・発行8月31日) 賞 各題特選1句・準特選2句に賞状 及び賞品贈呈

投句締切 6月30日(金)当日消印有効 送付先 〒670-0884 姫路市城北本町9-15 濱邉 淳 宛

主 催 川柳 水流会

第5回「ふるさと」川柳募集案内

課 題「 荒 」 2句・12人による共選・

複数応募可・清記選 選者 伊藤 寿子 渡辺 松風

選者 伊藤 寿子 渡辺 松風 加藤ゆみ子 岡本 聡 石橋 芳山 米山明日歌

梅崎 流青 浅利猪一郎 他平成29年7月31日 (消印有効)

投句料 1000円(切手不可・小為替等使用のこと) (誌上大会用用紙他便箋等使用・

(配工人芸用用紙他便愛寺使用・ 2句を記入のこと)

賞 最優秀賞 1点

(樺細工色紙掛·仙北市産品) 優秀賞 1~9席(仙北市産品)

発表 柳誌「湖」(平成29年10月発行予定)

問合せ 浅利亥一郎川柳事務所まで 電話/FAX 0187-48-2236

投句先 〒014-0602

秋田県仙北市ひのきない字長戸呂85 浅利 方

第5回「ふるさと」川柳事務局

風 句 抄

『橘高薫風川柳句集』 平成十三年発刊)

手を汚さな 男らしい足に ボ 子 乳 ス が 飲 泣 今日は ます顔は尊し () て , , 縫目だんだん粗うなり 子の親として並ばされ 踏まれ 生 活が ふとさびし 猫さえも た 霜柱 11

聖 テ 呼 鈴を 夜 口 1) 0 餐 ス 大言海 1 神 父 神 0 0 明 上 靴 12 10 は 加 常 護 載 0 祈 t ま る ŧ な 1)

special security and security security security

説

法を終えた教祖

0

菊

いじり

金

地

霊 孝 荘 行 1) 柩 厳 0 スマ 車 世 0 : 仕 や サ 辻 方 嬰児祈 を 棺 曲 兄 10 1 つ 打 弟 マトの ら てから 5 4 ず 込 な 違 む 赤も異宗 神 速 1) 釘 に近 ŧ あ 1) 8 4

> 香 棺 生 煙 縷 譜 R 柳 は 日 のち惜し R 0 風 を見 めというごとし す

0

出

1=

あとの

タ焼

見事

なり

春 春 春 惜 風 孤 L 0 独 4 帷 眼 お 12 鏡 吹 1) は くごとき縣 ず V せば と言で事 な お かい 想 孤 足 か 独 1) な

柑 0 0 鴦 は 果 鳥 皮 7 を 0 0 食 よちよち歩 如 わ 山 る 頂 る を 四 引 き卒 月 き 返 馬 袁 鹿 す す

X 苑 学 畳 を 歩 < 新 b 0 靴

妻よ 草 子 魚 0 屋 寝 0 子 よ水 顔 魚 汝 11 並 かい 3 0 .;; 11 深 父 さが 母 ろ妻 多 < かい 臍 あ 病 を 0 越 縁 や 4 ま す てり

0 苔 前 0 刻 母 去 0 るまま 目 ŧ 11 10 かい 去ら 娘 10 う むる 1)

墓

掃

餅

^

墓

を

る

死

語

誹風柳多留一二篇研究 48

吹 和 男 山 栗 田 清 昭 吾 夫

細石 井川 夫子 小

清 博 美

395 きせるをば土蔵のは入り口に置

396 順風に板の帆が来ていやがらせ

伊吹 た。そのため堂内での喫煙は禁じられている。 野広小路の常楽院は、たびたびの火災に懲り 阿弥陀堂を防火のため土蔵造りにしてい 江戸六阿弥陀詣での五番目にあたる上

だから参詣人は土蔵の入口に煙管を置いて、 お参りをすることになる。 しかられて土蔵の口へ置っきせる

る。

天五義1

清

小栗 賛。常楽院が禁煙であったという文献 六あみだ土蔵作りが仕廻ィなり 1i.3 397

禁煙で、礎稿の記述は少々不自然。 があればご教授下さい。 五番目は、江戸市中にあったから、当然 一般の土

蔵を詠んだ句と思う。

ことに好ましいものだが、糞尿船が追いつい 伊吹 てくると、その臭いで順風がかえって仇にな 辞典』)。追い風の順風は船の運行にとってま るところから)糞尿を運ぶ船(『日本国語大 板の帆は、 (船の周囲を板で囲んであ

板の帆を見るとそま、はなに袖 安三仁4

花を見すてるとうたひてむこ帰り

れは越路我はまた」の文句取り。花見から遊伊吹「謡曲『熊野』の「花を見捨つる雁のそ 里へと友だちは楽しそうに行くのに反し、入 『熊野』の「花を見捨つる雁のそ

> 謡を唄いながら帰途につく。 り婿とは哀れなもので、桜もそこそこにして 入りむこのつらさ花ならはなつ切 = 20

清

398 伯母さん/\をじやまがる宿下!

くるので、邪魔に思うのである。 伊吹 宿下りをすると近所の子供たちが、珍しがっ て「小母さん、小母さん」とまとわり付いて この句の場合、親戚でない小母さん。

伯母さんか来たと薮入とりまかれ

小栗 清 小栗説賛。甥や姪の類でしょう。 賛。兄の子ではいけませんか。 明三宮4

399 道ばたにすわつて母をねだる也

伊吹 だっている。 のがあるので、子どもが道端に座って母にね 現代でも見かける光景。何かほしいも

出 子供もいる。 賛。 下ひたがき餅屋の前てつるさかり 二八四 賛。座るどころか、道にひっくり返る 第三者からは、 躾けの悪い子供に見

える。

400 大津絵の生きてはたらくかる井沢

る。軽井沢の飯盛り女が、大津絵の鬼念仏の ようだというのだろう。 絵。鬼念仏・槍持奴・藤娘・瓢箪鯰などがあ りで売り出されて流行した、素朴な味わいの 大津絵は、 元禄のころ大津の追分あた

ぶこつなるけいせいの出るかる井沢

安二仁6

田田 下がるようだ。 かいいものもあるが、これはどうやら時代が 賛。大津絵でも 「藤娘」など、 なかな

401 生ヶもりをもちかへすのハそゝう也

伊吹 右手から左手に持ち替えて直している。その 途中でずれたりした粗相があったので、 を運んでいて、初めから盛付けが悪かったり、 返すは、持ち替える。調理場から客室へ生盛 生盛は、刺身などの生魚の料理。 持ち 皿を

出田 いけ盛りへ寄れなとしかるりやうり人 生盛は「なますの一種で、魚介類を 明四仁4

からぬ。

他いろいろな粗相が考えられる。

と読める。即ち、最初から十分に配慮されて 清刺身の類の盛りつけを直すのは粗相だ、

る

れほど理屈っぽい句ではなさそうだ。よくわ いなかった結果……、と解釈も出来るが、そ

清

賛。

盛り合わせ、つまやけんを添え、 の」(『図説江戸料理事典』)。だから下手に運 味酢や煎酒を注いで器の底に溜めて供するも 数種別々に随意の作り身にして、器の中央に わきから調

に持ち替えて、直している」とされるが、こ う。礎は「持ち返す」を「Ⅲを右手から左手 ぶと、汁をこぼしたり、形かぜくずれてしま

報復と同意だ

... 再びよくする」(「日国」)で単に途中粗相が れは「①思わしくない状態や事のなりゆきを あったので直している図ではないかと思うが

小栗 れる通りと思うが、句意がよくわからない。 「持ち返す」の意味は、山田兄のいわ

白いかわからない。生盛に限らず、全ての料

める。生魚を用いることに関係がありはしな いだろうか。 盛だけは持ち返すことは粗相である」とも読 一般に料理は持ち返すことが可能だが、生 理にあてはまってしまう。句の構成からみて、 なら、「そうですか」という外なく、何が面 「粗相があったのでやりなおす」というだけ う。 2? 小栗 伊吹 て刺身を食う客。 402 石川 返しであると。例句は主題句のあと、割り切っ 分だけに食えと言わないのは、見下げた意趣 判らないが、他の人には刺身をすすめて、自 と思う。この二人にどんな経緯があったのか 刺身をすすめないというのはどういうこ 意趣ハ意趣さし身ハさし身けちな奴ッ けびたいしゆさしみをくへといわぬ也 この句の場合の意趣は、 不明。どういったストーリーなんだろ 別に初鰹でもないのですね。

403 針箱をさがすと女房とんで出る

伊吹 いると、見つかっては大変と女房が飛んでく るのを知らずに、その亭主が鋏などを捜して 女房が針箱を臍繰りの隠し場所にして

針箱へお針ちくく一銭をため 針箱ハ臍くり銭の文庫蔵 五九26 九四20

傍三4

73

新家 完司選

岡山市 投句 291名 永見 心咲

瑞風の客はプリンの上層部 (評)二泊三日の旅に二人で二百五十万。ポ

なスーパーリッチ。まさにプリンの上層部。 ンと出せるのは富裕層の中でもよりスイート 米子市 竹村紀の治

便利ですコックピットのような部屋

て機能的なマイ・コックピットになった。 チョイと手を伸ばすだけ。いつの間にか極め (評)本もノートもペンもリモコンも酒も、

もつれ糸たどりこじあけ誤解とく (評)「誤解を解くのは面倒!」 などと思えば 沖縄県宮すみれ

それっきり。「あなたとはずっと友だちでい たい」という熱意と誠意は必ず伝わる。 三田市 多田 雅尚

辞書を引く速さで負けぬアナログ派 れる。「あかさたな」と繰るのも頭の体操。 紙の辞書はあちこち開いて思わぬ知識を得ら (評)電子辞書は携帯に便利だが画面が狭い。

> いけずする子が来て犬も猫も逃げ 西子市 西田美恵子

いたらスタコラ。君子危うきに近寄らず。 いる犬や猫。「あっ、ヤバイ奴!」と気が付 (評) 危険を察知する能力は人間より優れて 長野県 丸山 健三

指示どおり妻のカートを押している

頭を使わなくてもよいので休息にはなる。 指示通り動くのがルール。充電にならないが (評)マーケットは妻のテリトリーなので、

気象病ハワイに行くと良いそうな 大阪市 笠嶋 惠美

気圧や雨の影響が少ないハワイが良いらしい (評)天候が悪くなると調子を崩す気象病。

が…。さて、冬期三か月滞在で幾らほど?

大阪市 裕之

言い訳に使った仮病いま持病 それが今では持病とは天網恢恢・天罰覿面。 いのでしばしば使われる仮病は頭痛と腹痛 (評)翌日ケロッとしていても不自然ではな

多国籍なかよく並ぶ調味料 角。タイのナンプラー。イタリヤやフランス (評)韓国のコチュジャン。中国の陳皮や八

河内長野市

原熊知津子

ハスの花もいいが此の世は今さくら のオリーブオイル等々。調味料だけは一流。 (評)あの世ではハスの花が美しいらしいが、 寝屋川市 籠島 恵子

この世では桜が満開。桜の次は牡丹、ツツジ 等々。なかなかあの世の番にはならない。 昇

席取りを労るさくら七分咲き 木下

敏子

桜咲く道をゆっくり歩数計 吹田市

華やいでお重広げた花の下 松戸市

渡辺

富子

上

明子

若づくり競い合ってる花の下 奈良県

夜桜を愛でる歌人のふりをして 東大阪市 大阪市 藤原千恵子 佐々木満作

あ〜あ満開平和な国がピンク色 弘前市 高森 一吞

満開のさくらと走る人力車

桜満開七人家族だった頃 富田林市 中井 アキ

吟行でなくてのびのび花の下 河内長野市 紀の川市 山東日出男 木見谷孝代

富田林市

片岡智恵子

巴子

満開の桜の下で雨宿り

私だけ淋しく見える花の中

花びらを浮かべ今宵は名残り酒 広島

まなうらにしっかり桜閉じ込める 寝屋川市 富山ルイ子

ほろ酔いの課長の横が空いている	爪切りをさぼった罰を受けている	沖縄県 森山 文切	砂かぶり表情変えぬ美女がいる	沈黙は計算高い金である	橿原市 居谷真理子	うれしさもわずらわしくもある情	添加物たっぷり摂って生きてきた	弘前市 髙瀬 霜石	ほめられた角度が好きな自撮り棒	忖度と言うもやもやを許すまい	箕面市 中山 春代	忖度が招いた結果凶と出る	羽曳野市 永田 章司	忖度がひとり歩きをしています	八尾市 村上ミツ子	忖度とおもんぱかるを辞書で引く	大阪市 宇都満知子	脇甘い総理の嫁に赤切符	河内長野市 渡邊 修	いいのかなあスマホも使えないままで	大阪市 大川 桃花	優先席スマホが長い脚で居る	河内長野市 山岡富美子	魑魅魍魎スマートフォンに跋扈する	京都市 清水 英旺	スマホ繰る何度も孫に訊きながら	麋井寺市 若松 雅枝
大会で一句抜けたらホッとする	鳥取市 田中 天翔	鳥かごで自由に詠う五七五	神戸市 近藤 勝正	CTに写る川柳依存症	大阪市 平井美智子	入門書だけはきっちり何冊も	堺 市 羽田野洋介	うっかりと「川柳しませんか」に堕ちて	橿原市 安土 理恵	宗派にはとらわれませんペット葬	葬儀にもパック商品ございます	鳥取県 児玉 規雄	ツンデレで時々帰る猫が好き	日本の旗もメダルも背負ってない	岡山県紫しめの	居酒屋のバイトで社会垣間見る	明石まで来ましたたこ焼きを食べに	大阪市 髙杉	錆びそうで緑いっぱい吸っておく	ストレッチしたのに背が縮んでる	松山市 柳田かおる	コンサート眠気を覚ますフォルテシモ	朝なのにコンバンハああ再放送	米子市 成田 雨奇	私でも迷わず選ぶ金の斧	なんとなく悟った顔をする鏡	佐賀県 真島久美子
トラクター僕の背中は真っ直ぐか	府中市	さりげなく肩を叩いてゆく挽歌	青森市	若冲の鶏にあやかり胸を張る	大阪市	お化粧で補ってます年齢差	鳥取県	裏切られ騙されてまだ化粧品	大阪市	帽子買う若いセンスと煽てられ	奈良県	雄 色っぽい女を演じきるつもり	神戸市 1	今はもう水府も知らんミナミなり	松原市	全没句供養の案内状届く	枚方市	カ マスクしてポストへ急ぐ締切り日		締め切り日雑巾絞り肩が凝る	八尾市	作句にも俺とは言ったことはない	京都市	奇 昨日今日笑いの種が拾えない	鳥取市	川柳で哲学目指すことがある	枚方市
	岸田		守田		平賀		中		栃尾		長谷川崇明		松井		森松まつお		丹後屋		上垣キヨミ		前田		都倉		西川		寺川
	武		啓子		国和		節子		奏子		崇明		文香		つお		肇		田三		紀雄		求芽		和子		弘

		遺言を書けば長生きできそうだ			一円玉ばっかりですわ貯金箱	イス	やわらかい日差しのようにアドバイス
捷也	横山	和泉市	正和	堀	三田市	後藤 宏之	米子市
	こう	あわよくばメッキの剥げぬ間に逝こう			人間がこわくていつも施錠する		笑顔でも眉間に走る縦のシワ
增美子	鴨谷瑠美子	藤井寺市	岡﨑美知江	岡藤	倉吉市	小野 雅美	大阪市
		空腹になると悪知恵湧いてくる			生きてきた証に嘘もついてきた		生きるとは誰かに噛まれ誰か噛む
宏章	岸本	鳥取市	一彌	中島	河内長野市	伊藤 良一	福井市
		のどぐろは値の高さまで味の内			雨の日は汽笛が耳に心地好い	みる	地獄絵をパステルカラーで描いてみる
古今堂蕉子	古今常	大阪市	9 利子	能勢	神戸市	山野すみれ	鳥取市
		オドオドと買い物デビュー妻の供		会	ほなまたと別れたままのクラス会		墨絵描く雪の白さも墨で描く
旅人	森田	河内長野市	里 黒兎	水野	豊中市	松尾美智代	豊中市
		好きだったあの横顔も疲れ気味		独居	賞味期限に追いまくられている独居		善人の音色と悪人の音色
ひとみ	上田ひとみ	三田市	启 五月	矢倉	堺市	鴨田 昭紀	三原市
	:: #S	横向いただけでにんげん隙だらけ		ア	卒園式泣いているのはジイとバア		調子良いようね大根の銀杏切り
義	谷口	大阪市	吉村久仁雄	吉	羽曳野市	小谷 小雪	海南市
		説教寺和尚のテープ止まらない			歯に衣着せて私は平和主義		折り畳み椅子で世相を傍受する
蜂朗	坂本	唐津市	石 洋子	川名	八王子市	松山 芳生	青森県
	~	検査値マル今日は何して遊ぼかな			逃げ足は速いがかけっこは遅い		暗闇に光 冷蔵庫がくれる
葉子	山田	長岡京市	田武人	藤田	大阪市	斉尾くにこ	鳥取県
		切るだけの床屋で丁度良いアタマ			平均と勝手に思い生きてます		ポン菓子のポンを探している初心
政勝	菊地	横浜市	久保田千代		三田市	笹重 耕三	三原市
	ル	凡人も目いっぱいあるスケジュール			弁慶の名で破れ鐘が重文に	いている	ブロッコリー ブーケのように咲いている
加代	坂本	防府市	和和宏	上田	神戸市	小松くみ子	豊橋市
		後戻りできぬ人生カタツムリ			悩み事観音様に会いに行く		ゆるゆると村の時間はコマ送り
省三	太田	池田市	ももと	禱	沖縄県	石橋 芳山	松江市
		今日の悔い歯間ブラシが弾き出す		ψ,	並びがいあったお店はあまりない		キジの巣を横目に今日も畑仕事
飛永ふりこ	飛永	生駒市	江島谷勝弘		大阪市	森下よりこ	和歌山県
	15	「先生」と呼び合う気持ち悪さかな			長い列バカにならぬと並べない		金がない他に憂いは無いけれど
柳歩	相見	松江市	緒方美津子	緒古	西宮市	奥澤洋次郎	神戸市

転んだのはお前のせいと酒嗤う	羽曳野市 中	口で負け体力で負け酒で勝つ	鳥取県 竹信	酒を注ぐどうもどうもでもう仲間	松山市 郷田	古稀過ぎて飲み放題はクエスチョン	高槻市 松岡	人肌の燗で省エネしています	和歌山市 楠見	タバコやめましたお酒が増えました	藤井寺市 鈴	酒好きの母の血筋をちゃんと継ぐ	大阪市 若本	感謝感謝三食昼寝酒二合	弘前市 稲見	父の歳父の酒量も超え元気	札幌市 三浦	水割りでいつもの愚痴を薄めてる	那覇市 前川	丸くなる背へ気合の酒を飲む	香芝市 大内	居酒屋の傍聴席で一人飲む	三田市 北野	ひとり鍋ひとりで呑んでひとり言	鳥取市 夏目	鍋で煮て鍋で食している独り	弘前市 福士
	中川ひろ介								兄 章子		鈴木いさお						湘 強一								_		
小	介	鈍	照彦	贈	みや	女	篤	होज	子	犬	お		安代	空	則彦	マ	Ξ	お	真	損	朝子	٧)	哲男	家	粋	猛	慕情
小気味よい子等の身軽さ歩道橋	鳥取県	鈍臭い奴と呆れる絆創膏	高槻市	贈答品バラ売りの時期待って買う	豊中市	女子会に負けてなるかと爺の会	広島市	雨降りは赤い帽子と花の傘	大阪市	犬猫で母性本能満たされる	橋本市	お好み焼キャベツはあるが烏賊がない	倉吉市	空模様気になる何もしないのに	岡山市	マイペースです布団をたたむ正午です	寝屋川市	お元気ね亡者見るよう労われ	八尾市	損を承知で完璧主義がする仕事	高槻市	いい人と言われたいから無理をする	宝塚市	家族みな阪神フアン合わす僕	鳥取市	猛虎愛六甲おろし丸暗記	笠岡市
	門村		初代		貝塚		岸本		内田士		石田	ない	田中は		丹下	です	森		髙杉		片山か	る	田中		池澤		藤井
	幸子		正彦		正子		清		内田志津子		隆彦		田中けいこ		凱夫		茜		千歩		かずお		章子		大鯰		智史
「ん」の文字の役目 尻取り終わらせる	明石市	八十路坂気を付けごっこして暮らす	鳥取市	両乳房取られて九年妻元気	和歌山市	鼻歌がもう止まらない明日は旅	河内長野市	軽い恋スパイスにして出る元気	池田市	白酒を雛より先に味見する	八尾市	古稀にして戦争危機は初めてや	篠山市	核実験止めてと核を持った国	大阪市	難しい記事は三行飛びで読む	西子市	自分では背中に貼れぬサロンパス	枚方市	人間が物に埋まって泳いでる	倉吉市	腹立つが息子はわしにそっくりや	宝塚市	秘密です私のハートピンクです	瀬戸内市	薫風を走れば涙すぐ乾く	鳥取市
らせる	糀谷 和郎	らす	吉田 弘子		磯部 義雄		大島ともこ		上山 堅坊		山根 妙子		酒井 健二		榎本日の出		黒田 茂代	^	海老池 洋		山中 康子	1/2	太田としお		宮宅比佐恵		土橋 螢

共選欄

K, K

(薫風書、カットとも) 役句 358名

沖 安 土

惠

選

海ゆかば沖の水平線が哭く

ミサイルを気にしながらも沖に出る 三陸の沖へ捧げるレクイエム

沖に出よう約束一つ守りたい 沖はるかもう親の手は届かない

風雲急日本海沖きな臭い ほたるいか富山の沖はファンタジー 離岸流に乗ってしまった笹の舟

三田市

村田 長高

博

大阪市

俊雄

則彦 富香 わこ

長閑だな沖で白帆が霞んでる 垂涎の豪華客船沖に見ゆ 犬掻きで強くなろうとめざす沖

沖縄の海でジュゴンが泣いている 沖縄の辺野古の夕日美しい

羽曳野市

三好 山﨑

武彦

三田市 八尾市

谷口

修平

前田 堂上 稲見 松岡

紀雄

遥かなるチリからやって来る津波 三陸沖地震有る度思い出す

ニッポンが見えたと沖のかえり船 軍人と言う名で沖に散った亡父 海ゆかば沖の水平線が哭く 知床の沖で叫んでいる領土

和歌山市

平田

茨木市 三原市 神戸市

正雄

雲南市

菅田 藤井

かつ子

三陸の沖へ捧げるレクイエム 今日は凪鎮魂の海母の海 岸のゴミに沖の彼方の国の文字

> 弘前市 高槻市

則彦

海南市

泰女

3・11沖を眺めて立つ老女

大海へ刻一

刻の大落暉

富田林市

寿シ

奈良市

米田

枚方市

海老池 畑中

大阪府

節子

金波銀波沖は詩人で沖は絵師 落日の沖は地球の絵の具皿

沖

北

野

哲

男

選

沖の船灯台の灯を見る安堵 潮を吹くクジラ見に行く室戸沖 沖釣りの鯛ぶった切り漁師飯

沖からの無線噂を待ち詫びる

河内長野市 鳥取市 豊中市 平尾 村上 村上

岡山県 神戸市 大阪市 山口 磯島福貴子 池田たか子

玄也 直樹

紀の川市 弘前市

枚方市

小林

時雄

海南市 茨木市 理

堂上 藤井

正雄

沖までの距離じっくりと話し合う	藤井則彦	豊中市	忖度もトラも忘れて沖の釣り	
眼裏で波立っている父の沖	吉岡修	四條畷市	沖合に九万トンのパラダイス	
沖遥か領海線は入り乱れ	岸本 宏章	鳥取市	わが子見るように灯台沖を見る	
沖の波拉致幾年の花むなし	小野 雅美	大阪市	沖見える場所へと母を眠らせる	
沖縄の歴史に基地がへばりつく	近藤 治子	堺市	里の墓沖を望んで建っている	
わたくしのモーゼ探して沖へ出る	細川 花門	神戸市	散骨を沖のカモメに見守られ	
見た目より遠いぞ沖の宝船	髙野 不二	佐渡市	漁師には宝の山に見える沖	
ノーモア津波沖に祈った震災忌	松本昌	雲南市	沖津波我が古里は離島なり	
東南海沖に潜んでいる地震	奥時雄	堺市	ミサイルを気にしながらも沖に出る	
忖度もトラも忘れて沖の釣り	久保田千代	三田市	沖の灯に帰らぬ拉致の子を想う	
日本海沖にミサイル飛ぶ恐怖	菊地 政勝	横浜市	沖だけを見つめ待ってる拉致家族	
日本の国境すべて沖にあり	矢倉 五月	堺市	沖めざす危険は知らぬアンビシャス	
赤鬼の顔がチラつく辺野古沖	酒井 健二	篠山市	沖を行く小船は背筋立てている	
泥舟に乗ってあなたと沖に出る	居谷真理子	橿原市	雲読んで沖の機嫌を知る漁師	
沈み陽に思わず合わす祈りの手	七反田順子	西脇市	未だあった女人禁制沖ノ島	
沖に出てもう引き返せないふたり	生田 和之	米子市	着弾の沖に海産物が泣く	
沖へ出たカモメは島を振り返る	緒方美津子	西宮市	沖にカモメ大漁旗を準備する	
海鳴りに還らぬ御魂待つひとり	大島ともこ	河内長野市	沖漬けが封印の酒呼び戻す	
沖の船団妻には見分けつくらしい	山本 昌代	奈良市	沖漬けを肴に父の独り酒	
海の絵の沖に鯨を遊ばせる	富田 美義	高槻市	龍馬像なにを睨むか土佐の沖	
廣重の富士山を見る波の上	上山 堅坊	池田市	明日の沖信じ佇む龍馬像	
沖に出るまでは大きな夢を持ち	太田扶美代	藤井寺市	海の絵の沖に鯨を遊ばせる	
岸のゴミに沖の彼方の国の文字	村上 玄也	堺市	潮を吹くクジラ見に行く室戸沖	
	-			

父の沖 乱れ の宝船 る地震 にあり ばせる りと話し合う むなし 冲の釣り 飛ぶ恐怖 迎野古沖 と沖に出る す祈りの手 せないふたり を振り返る 付つひとり けつくらしい った震災忌 、ばりつく して沖へ出る 河内長野市 藤井寺市 富田林市 佐賀県 大阪市 八尾市 岡山県 宝塚市 豊中市 大阪市 豊中市 鳥取市 大阪市 奈良市 三原市 大阪市 八尾市 島根県 三田市 大阪市 藤塚 丸山 真島久美子 平井美智子 山根 山野 水野 井丸 藤井 山下 田浦 鴨田 古今堂蕉子 村上ミツ子 伊藤 尾﨑 太田扶美代 紫しめの 大久保真澄 昭紀 孔一 凱柳 寿之 則彦 寿美

奈良市 橋本市 高槻市

宇賀

沖 ほ 俊寛を一人残して霞む沖 沖 人生は沖の小舟に居る如し あ 沖で見る普賢噴火の初煙り 若冲を沖さんずいで記してボツ 空と海別れるところ沖という 未知の国沖へ沖へとコロンブス 人生の四季は沖からやって来る 沖合に関空見える町に住む 沖は時化鍋に熱燗息を吐く 1 戻れない沖で人生振り返る 反省をしたい時には沖眺め 漁り火の瞬きわたし魔女になる 大海に出くわすタンカー動き無し かもめかもめ沖の話が気にかかり 地引き網沖の夕日を連れて来る 人知れず何時かは沖へ出る小舟 意気沖天小池都知事のインタビュ の島総出花嫁着く港 たるいか富山の沖はファンタジー の海の沖の瓦礫を忘れない ロールで大物狙い沖に出る ゆく望み捨てない養殖魚 句 シドニー 和歌山市 寝屋川市 和歌山市 紀の川市 藤井寺市 羽曳野市 貝塚市 一内市 大阪市 海南市 熊本市 加西市 川西市 三田市 明石市 尾道市 伊丹市 弘前市 大阪市 長高 福士 杉野 楠見 山口 坂上 北山 平井 小谷 中川 土屋起世子 大内 平松かすみ 榎本日の出 山端なつみ 髙田美代子 尾崎 糀谷 石田ひろ子 ひろ介 のり子 不動 俊雄 慕情 秀月

少年よ沖でクジラを釣ってみよ 冒険のはじまり沖が待ってい 拉致の子は沖より遠いとこにいる 菜の花の海を列車は沖へ出る 沖はるかミサイル弾がこっち向く 沖見える場所へと母を眠らせる 沖に来てあの日の父を探している どの沖に辿りつくやら夫婦雛 戻れない沖で人生振り返る 鎮魂の沖まで散って行くサクラ 沖へ沖へと鍵穴をすり抜けて 沖めざす危険は知らぬアンビシャス 七年目起きに祈りのまだつづき 沖へ沖へだんだん富士が高くなる 辿り着く沖へ静かに鈴をふる トランペット沖に向って吹いた朝 知床の沖で叫んでいる領土 乙姫に会いたくなった玉手箱 波高い沖へこぎ出す子にエール 正論は沖へ流れた多数決 レイテ沖英霊たちの鎮魂歌 の津波沖の鴎が語り継ぐ る 四條畷市 藤井寺市 寝屋川市 和歌山市 藤井寺市 札幌市 弘前市 大阪市 鳥取県 奈良市 大阪市 米子市 香芝市 岡山市 岡山県 西宮市 横浜市 神戸市 青森県 高槻市 市 川端 髙瀬 吉岡 米田 成田 矢倉 川島 上田 杉本 髙田美代子 古久保和 山縣のぶ子 緒方美津子 斉尾くにこ 凱夫 五月 良子 和宏 雅美 雨奇 朝 義昭 霜 恭昌 子 石 子.

英語 de Senryu66

麻生路郎句集 『旅 人』

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

エキストラ 雲を見てゐるのもまじり

cinema extras some are only looking up at the sky

誰の墓だか 赤い蜻蛉が 飛んで来た

toward an unknown grave the red dragonfly is flying

cinema 映画 extra エキストラ some 何人かは only ~だけ look up at ~を見る toward 向かって unknown 不明の 無名の grave 墓 dragonfly 蜻蛉 fly 飛ぶ

~リバーウィローのため息~世界の川柳・俳句⑥

Stjepan Rožić (1946-) (クロアチア)

ポーランドの古都クラコウで開催された第2回インターナショナル・ハイク大会(2015.5) において、先月号で紹介しました Djurdja Vukelić Rožić と、彼女の夫で詩人の Stjepan Rožić に出会いました。彼は妻の Djurdja と同様にクロアチアのハイク・センリュウ運動のリーダーとして活躍しています。幼い時より音楽に秀で、男性コーラス" Posavac" のメンバーでもあります。彼の心身に浸み込んだ音楽が、リズム感あふれた作品を生み出しています。20 年以上もハイク・センリュウに取り組み、クロアチア内外で多くの賞を得ています。クロアチアハイク協会 Three Rivers(三川)の創設者の一人であり、会長を務めています。クロアチア語と英語で書かれた句集 A Magpie in the Snow 『雪の中のカササギ』(2016) から数点紹介します。それぞれに直訳をつけました。

garden work-/ a woman's breast moves/ to the rhythm of the hoe

(庭仕事 鍬に合わせて 揺れる女の胸)

winter morning/a magpie savors a rat/crushed on the road (冬の朝 道路にたたきつけて カササギが鼠を食む)

Valentine's Day/ a dog in love with/ the postman's leg

(聖ヴァレンタインの日 郵便夫の脚に 恋する犬)

seaside bench—/ a young couple passionately/ cuddle their cell phones (海辺のベンチ カップルが携帯を抱きしめている 情熱的に)

川柳をつくる人をどう呼ぶのか

俳句の場合は「俳人」だ。では川柳をつく いる。同様に短歌を詠む人は「歌人」だし、 る人をどう呼ぶのか、私自身判断がつかず、 川柳家」と総称するのだが、適切とは思っ 詩を書く人を私たちは「詩人」と呼んで

如く、ほとんど専門的職業人ではなかろう 伝」(京都番傘川柳会・藤本秋声)に見る 番傘がいま連載している「京都の川柳家列 数でしかないことを思えば、「川柳家」は 論家」「音楽家」「陶芸家」というふうに。 と呼ぶのは専門的職業人に限っている。「評 大甘な表現で実情に添っていない。しかし、 ところが、職業としての川柳家はごく少 なぜ適切でないのか。一般に「--家

> ないと思うからだ。 までも「川柳家」とは認め難い。 川柳家と認めても句をつくる誌友や初心者 適切と思うのは結社の指導層や同人までは アマチュア、手習い層とは区別せねばなら 指導層と

ある。 柳壇」は「大阪の川柳人にとって重要な投 句欄です」(水野黒兎・川柳塔3月号)と ある。たとえば朝日新聞大阪版の「なにわ いいのか。「川柳人」という呼び方が現に ではアマチュア、手習い層をどう呼べば

ないにもかかわらず「川柳人」は生きてい る。現に佐藤岳俊さんが、『川柳人』を主 れていることにひきかえ川柳人は、ない。 宰しておいでだ。 い。詩人、歌人、俳人が国語辞典に収めら しかし「川柳人」は人口に膾炙していな

け

わないのに川柳だけ作家を付けなければい

かな人たちだった故だ。ところが、私が不 川柳界にあって指導的役割を果す力量が確

流青さんが次のように書いている。

川柳葦群(2017年1月号)でも梅崎

に「川柳家」で括られている

ではなぜ「川柳家列伝」なのか。

京都

0

えているほど大衆は愚かではない の川柳に』との声も聞かれるが川柳人が考 般大衆を『言葉遊びで集めて私たち

調べると「一般的ではない」という。 全20巻(邑書林)も出されたが、ネットで レクション『柳人』なる中堅川柳家の選集 て「柳人」という云い方もある。だからセ は国語辞典が認知していない。川柳人に似 生きている「川柳人」にして呼称として

けっして詩作家、短歌作家、俳句作家と云 と高畑俊正さんは書いているし、同号には すが川柳作家の目は鋭い」(番傘3月号 家が一般的」とネットはいう。だから、「さ しないし、聞きもしない。だったら川柳を つくる人をどう呼べばいいのか。「川柳作 巻頭作家プロフィール」も載っている。 だが、なぜ川柳だけが川柳作家なのか。 確かに、柳人という呼称はほとんど目に

区別していない。 では詩人、歌人、 的な呼称は定まっていないことがわかる。 者でも両者ひとまとめで捉える。 ア、手習い層に私たちは区別しているのか。 こう見ていくと、川柳をつくる人の一般 俳人は専門家とアマチュ 私たちは鷹揚で巷の初心

史と確立されて生真面目な文芸に関わる人 わない。なぜか。詩、短歌、俳句の長い歴 への敬意がアマチュア、手習い層をも大甘 人だからなあ」と云い、初心者であっても 歌人」「俳人」と呼ぶにはほとんどためら だから夢見るような人物を「あの人は詩

れない文芸が正当に評価される訳もないの ればこそ川柳への敬意は育たない。 陶冶の詩」とは程遠い川柳まがいが横行す の「本格川柳」や麻生路郎が掲げた「人間 からだ。岸本水府が目指した文学として 浅さと、生真面目な文芸一色とは云えない を総じて「川柳家」と呼べないのは歴史の 手習い層を区別するのである。川柳する人 な呼称で呼ばせる。 結局、 川柳だけが指導層とアマチュア、 敬愛さ

と。同感である。 しい限りだ。せめてその数をもっともっと」 家が十数人であることを述べ、「何とも寂 流青さんが日本文藝家協会に所属する川柳 に論じてきた。 柳葦群第四十号の「河口のほとり」で だから私もその旨をつと

嘆くばかりでいいのか自問もする。 を川柳家や私のような応援団が批判 が、文藝家協会の視野の狭さや認識不足

> 川柳家が国語として認知されていないとい 語辞典が一切収めていない、ということは ても、それをつくる人をどう呼ぶのか、 文藝家協会の立場に立てば、 川柳はあ 玉 0

うことに他ならないのだ。 正式に認知されていないのである。川柳は いわば川柳家は非嫡出子のような存在で

のだ。これでは文藝家協会もどの呼称の人 バラで、どれも国語辞典に無視されている 柳作家、川柳家、川柳人、柳人などとバラ あってもつくり手の呼びようがないから川

ある。

ば「趣味」は収められて当然だが、一般に くというものだ。 流布する「趣味人」はどの国語辞典にもな 日本の国語辞典には不備が多い。 たとえ

家が少数なのもそれ故と解すれば納得がい 物を受け入れればいいのか判らない。川柳

明らかにするために私は『〈趣味〉の社会学』 使っているのだ。なぜ収められないの 私たちは意味不明のまま、「趣味人」 かを を

のこれからの動きに注目する。

て、どう反応してくださるか、私は日川

称が生まれないのかを、 (日本経済新聞社刊) という一書を上梓せ 社会学』なる一書で明らかにせねばならな ねばならなかった。 それと同じく、なぜ川柳家の一般的な呼 あるいは『川柳の

> はない いとも思うのだが、もはやその体力が私に

一般的な、 統一された呼称が生み出され

なかったことについては川 としてこの国文芸の中を漂流しているので しく、いわば短詩型文芸の中のホームレス ば、川柳は本籍はあるが現住所がないに等 で国語辞典に認知されているのに比べれ 策が大きい。他の短詩型がそれぞれの呼称 柳陣営の無為無

のこの拙文も目に留めてくださる筈だ。 風柳さんだ。風柳さんは博捜家だから、 措いて他にない。会長は私の敬愛する大野 一名称を収める働きかけをいたすことだ。 苑をはじめ、 いつまでもこのままではいけない。 その役割を担うのは当然日本川柳協会を この国の国語辞典編纂部に統

えることだ。まことに川柳は大きな課題を 詩型に関わる人が敬意をもって眺められ けの役割ではない。既述したように他の短 ような合理的な権威と力量を川柳全体が備 日川協が担うべきは統一名称を定めるだ る

抱えているのである。

葦群 No.41号より転載

路

悪知

姉

もひとりのボ 恵と涙が 角

知

役句 236名

見 則 彦 選

稲

体力を知恵でカバーをする老母 悪知恵は冴えて体力ガタと落ち トランプが知恵を絞って悪さする 悪知恵がはたらく息子誰に似た メニューにも クが悪知恵つけにくる の処世 やし 神戸市 札幌市 倉吉市 大阪市 田 牧野 米田 能勢 出口 小沢 坂 村

[セッ子

四條畷市 男鹿市 鳥取市 弘前市 高槻市 伊藤 津村 福士 片山 吉岡 味のぶよし かずお 律子 慕情

和歌山市 高槻市 初代 土屋起世子 正彦

ほどほどで尻尾切りする知恵もある 哀しいね戦争なくす知恵がない 悲しいねミサイル飛ばすだけの知恵 四季折りの自然の知恵に敵わない うかつには相づち打たぬ老いの知恵

熊本県 大阪市 岩切 内藤 古今堂蕉子

無学

老人力スロー

カー

河内長野市

黒岩

靖博

口

ボ "

やっと出来た小さなチョキに負けてやる 残り物へひと手間入れた亡母の 食卓に春を招いた母の知恵

知 恵

くるくると手抜きの知恵はすぐ浮か

ゆっくりと合いの手入れる聞き上手 人間に忖度させる猫 居酒屋で仕込む世間を渡る知恵 知恵いらんコツコツコ 枯渇したようです知恵の湧く泉 の知恵 ツの底力 岡山県 明石市 奈良市

糀谷

和郎

しめの

淳司

33

守田

かあさんの便りなんども読み返す句会場知恵も授かるパラダイス みんながと言えばサイフを開けるマ 逆らわず何処吹く風と目をつぶる 長老の知恵でまあるくなる会議 7 三田市 池田市 三田市 池田市 豊橋市 堺 上山 坂上 太田 上田ひとみ 小松くみ子 足立つな子

堅坊

知恵の輪のようにあなたを解きほぐす 八王子市 川名

知恵がつく頃が一番可愛い子 分離器にかけて出てきた欲の知恵 電子辞書五百グラムの 秘書である

演歌から恋する知恵とテクニック

知恵の輪が解けて別れの時が来る

和歌山市 紀の川市 大阪市 髙杉 辻内 磯部 義雄

大阪市 京都市

江島谷勝弘

でも父にはあった生きる知恵 ブで勝負 する 西子市 弘前 髙 H

石

茂代

一原市 笹 重

知恵を授けているヒト科

ご町内互いの知恵が行き来する

カラスには負けておれない種を蒔く 知恵よりも汗が尊いボランティア 鎮守の森が災害防ぐ人の知恵 天災後知恵組合せ町おこし しみしわは勲章知恵は年の功

岡山市 鳥取県

桝本

路

男料理コメントなんか求めない 気の利いたことも言えずにあの別れ 試食して「まずいですね」と言いにくい

弘前市

則彦

三田市 豊中市 岡山県

木藤こみつ 一田ひとみ

しめの

横浜市

淡々とただ淡々と主治医殿

コメントはたったひと言よくやった 何時までも師のコメントが光ってる

三田市 吹田市

お利口

「コメント」

工

藤 (投句 千代子 230名 選



テレビ見て解説者より語る父 現場でのマイク嗚咽が強くなる コメントに人の生き様ちゃんと出る 強かにノーコメントを押し通す コメントを言えば傷つく人がいる コメントもシッカリ付いて来た返事 日に何度同じコメント聞くテレビ コメントを避けて多数の席に付く コメントはにこにこにこで茶を濁 コメントはしませんプログ見て下さい よかったヨ」たった一言きたメール で当り障りのない答え 河内長野市 和歌山市 大阪市 唐津市 大阪市 倉吉市 豊中市 奈良市 高槻市 米子市 米子市 牧野 山本 笠嶋 上田 谷 生田 川島 松尾美智代 久美子 昌代 良子 雨奇 美義 和之

> ライバ 端的に言えと奥歯が叱られる 神仏はノーコメントで拝まれ 褒めすぎた意見に群れる誤字脱字 何時聞いてもいいイチローのコメント 家族会姑のコメント三番 ひらがなのコメント後で効いてくる コメントに春一番が吹き荒れる コメントが邪魔だ湧き出す深い味 コメントでだんだん謎が深くなる ルを気遣うコメントが温 句 る Vi

責任のないコメントが軽過ぎる お日さまのコメント外でよく遊 コメンテーターは何でも喋るシャボン玉 コメントはいらぬハグするだけでよい アンティーク家具です窓際のわたし 紀の川市 三原市 伊丹市 弘前市

鳥取市 福西 笹重 辻内 延寿庵野靍 髙

耕三 次根

満開 立ち直る藁一 コメントはちょっと飲んだら始めます 0 桜コメント要りません 本の声を聞

四條畷市

吉岡

修

佐賀県

真島久美子

鳥取市

田

中

天翔

コメントはあとからまずは昼ご飯

三猿主義ノーコメントを押し通す

鳥取市 櫃原市

居谷真理子

時間喋り最後は「任せます

Vi 藤井寺市 岡山市 丹下

コメントは荒い吐

息を聞

いただけ

おばちゃんコメントがきつ

奈良県 長谷 太田扶美代

三田市 奈良市 三原市 尾崎 鴨田

和歌山市 豊橋市 三田市 藤田 北野 川崇明

池田市 大阪市 上田 田中 土屋起世子 大久保真澄 -ゆみ子 千休 堅坊 哲男 子

- 85 -

青森県

石

人一方教室

題

居 谷 真理子

きました。実物の傘をしっかり見てみるのも 相合傘」「核の傘」「父の傘」 が多く出て

着想を得る手段の一つでしょう。 (原は原句 参は参考句です

参 せめて傘派手な花柄さして出る 原せめて傘派手に花柄お気に入り (門)

子

原恋人と相合傘で雨上り

参母さんが教えてくれた月の量 原母さんが教えてくれた月の傘 参番傘を開く油の香と音と

参恋人と相合傘のぬくい雨

参 にわか雨日傘でしのぎきりました

原にわか雨日傘を拡げ峠越し

(畑)

子

原雨の日が待ち遠しいと黄色傘

参 梅雨明けてクルリ日傘がご挨拶 原陽ざしあびクルリ日傘がご挨拶

澄

子

原 パラソルの白い横顔見え隠れ

(前)

洋

子

雨の日を黄色い傘が待っている

句が少し変わりますが

参一人旅影と相合傘をして 原影と行く相合傘の一人旅

真

原喜寿傘寿川柳界は未だこども 参 パラソルの白い横顔盗み見る

紀

雄

「こども」とはいくら何でもネエ。

原 気に入りの傘からなくしくやしがり 参 基地置いてアメリカさんの傘の隅 原 基地置いてアメリカの傘期待する 治 こみつ 子

くやしがってるのは誰ですか。ご自分のこ

参よかったね晴れましたねと傘忘れ

原

晴れて良し帰りは傘を置き忘れ、水安

子

原ビニールの傘の花咲く無味無色

(山)

明

子

参 無味無色ビニール傘の花が咲く

参川柳界担う若手は喜寿傘寿

ととして詠んでみましょう。

参 気に入りの傘から消えていくようだ

原過ぎて行く何といい風傘の中

洋

参 伝統を今日につないで傘踊り

原傘踊り長い伝統守り抜く

(田)

廣

子

少し力を抜きましょう

原ひとり旅雨宿りする傘がない

英

男

原雨の中さしてあげよか迷う道 参 気持ちいい風が通っていく日傘

参 さしかけてあげよか迷う雨の道 (あさくら 参

雨宿り傘も持たないひとり旅 五・七・五とブツ切れの感じがします。

律 子 原兼用の傘が鞄で場所塞ぎ 兼用の傘が結局出番なし

開

子

原パリパリと番傘ひらく油の香り

子 原殿にのこのこ出て来りや傘が無い

高道

子

(貝) 正

ももと 原曇り空保険の為に傘を持つ 参殿をつとめて出れば傘が無い

原傘借りて小さな緑が出来た今 参曇り空これも保険と傘を持つ

くみ子

原 傘借りて小さな緑が出来て今 雨上がり処分に困る忘れ傘

美枝子

原 参 捨てられず貰いもできぬ忘れ傘 思い出の傘は時々日干しする

原 参思い出の傘を時々開いてる 百均の傘骨折れるまで頑張らす

百均の傘とことんのご奉公

大安

子

美

穂

こずえ

86

(高)

生

参虹が出て黄色い傘の騒ぎよう	原 黄の傘がワイワイ騒ぐ虹が出て 里子	参親の傘出るに出られず反抗期	むを得ない場合以外は避けた方がいいです。	「出れない」いわゆるラ抜き言葉ですね。や	原 親の傘出るに出れない反抗期 敏昭	参雷と雨に追われて傘もなく	原 帰り道雷雨傘なし走ります ミヨノ	参 雨上がりおんな蛇の目の粋と往く	原 雨上がりおんな蛇の目の粋が往く 和 之	参 俄雨傘差し出したのが出逢い	原 俄か雨傘差し出した出逢いの日 隆子	参 心まで濡らしてならぬ傘をさす	原 折れた心濡れじと傘が差しかける 紀美恵	参 厚化粧だった傘の下の美人	やはり美人に見えます。	「夜目遠目笠の内」といいますが傘の下も	原 厚化粧傘下の美人と誉めそやす つばき	参飲屋には忘れてもいい傘で行く	原 飲屋には古い傘からさして行く 紀美代	参のしかかるアメリカの傘外せない	原外したいアメリカの傘外せない 秀光
参 雨傘の中にすっぽり一年生	原 雨傘にすっぽり入る一年生 角宏 子	参 寄り添わぬ相合傘でずぶ濡れに		通り抜け相合傘に花が散る		が パラソルの黒を味方に炎天下 がラソルの黒を味方に炎天下	パラノレは黒朱万二つける後天!! 風向きか変わり都知事の傘の下		ためらいのしすくを切った赤い傘	少し句を強めてみました。	原 ためらいのしずくを払う赤い傘 雅美		原 相合傘二人の世界どこまでも 福貴子	雨上りたたんだ傘を杖にする	原 雨上りたたんで傘を杖にする 雄大	参傘寿会世間知らずを教えられ	原 傘寿会世間知らずを今に知る 満寿恵	参 傘の柄に手と手重ねた人がいた	原 傘をさす手と手重ねた彼は今 東美智子	参山里におしゃれな傘の案山子さま	原山里で洋傘さして案山子さま 勝治
ぼんやりと大きな傘の中にいる 富永 恵子	終電車傘だけ乗って車庫に入り 丸山 孔一	傘立の傘もカラフルコーラス部 梅木 澄空	【今月の推せん句】	雨上がり忘れて帰る傘の恩 俊雄	傘立に杖も竹刀もある暮らし 一 彌	百均で百円じゃない傘を買う 由 美	くな雨崇	旅	コンビニの傘一括りされ土間の隅 敬子	お帰りと言わず傘はと妻は聞く 勝正	傘に入れてあげてわたしの方が濡れ 亜希子	雨の日に忘れた傘を思い出す 風露	運動会前の日傘が邪魔になる 見温 子	絵日傘が開かず泣いた初舞台 厚子	[佳 句]	参破れてはいても大きい父の傘 みつ子	次の句をご参考に。	同想句多数。奥田みつ子さんの奥行きある	原父と言う大きな傘に守られる 昭 枝	参夫婦傘独居の祖母も仲間入り	原夫婦傘となりの祖母も仲間入り 山久 子

同 人 吟 矢 倉 Ŧi. 月

―5月号から

音もなくドアがひらいて始まった

ちょっとやそっとでは詠めないだろう。 使って読者を自在に遊ばせるこんな句は、 だ。「ドア」というたったひとつの具象を が始まった。暫し空想の世界を楽しん が浮び上がり、人影が動きはじめドラマ 読して私 の胸の中にモノクロの画面 木本朱

唯々感服してしまった。 あるんだね愛した罰というものが

谷 真理子

ばする程苦悩がつきまとうのが人の性。 生主軸は愛だと思うけれど、深く愛すれ すんなりと罰があるのだと言ってのけ 人を愛し生き物を愛し、自然を愛し人

られているが、実は途方もなく奥深い 志みんなネオンにくれちゃった

も挫折もネオンに吸わせ再生して来た。 人生を達観した男の句。 過去の苦しみ

黄昏ないように喇叭もたまに吹く

岡 富美子

来るだけ元気でいたいものである。 しい。たまにと言わずたびたび吹いて出 **叭を吹いてみると、本当の元気が出るら** 昏時。でもたとえ空元気だと思っても喇 理よなどと弱気になる事が多い人生の黄 ともすればもう歳だからとか、もう無

雑念がよぎった時に誤嚥する

端思いがけぬ不祥事が起こる事がある。 炎など起こされませぬように…。 起こらない失敗も、ふと集中を欠いた途 何事も慎重に物事に集中している時は 仕事でも大変だけれど、実際に誤嚥肺 野 光

雪は消えたよ魂よ起きなさい 松本文

子

節目の応援歌かも知れないと読む。 実感なのかも知れない。 雪多い地方では雪解けは本当にこれが あるいは人生

花は律義咲いた順から散ってゆく

そうとは限らないけれど、花のように確 かに律義に順番を守れたらいいのだが。 て納得させられる。人間も動物達も必ず そう言われてみて当然の事ながら改め 﨑 ひかり

笑う日がやっと来ました処方箋

にかなりの事だったと思われます。 どんなご病気かは存じませんが、「やっと」 この先もお元気でご健吟を…。 そうですか、それは良かった良かった。 脳トレも老いの日課の大仕事

ボケぶりを笑った後の切実さ 山

ないと諦めず髪を染め外出し、 脳トレに励み朗らかに暮したい。仕方が 脳の老化はなかなか難しい。 体の不調は治療も回復も可能だけれど 本 出来るだけ かつ子

物忘れは笑い飛ばして元気を出そう。 よう。作句は何よりのボケ防止。少々の 話を楽しもう。ショッピングにも出かけ あるがまま老いてはおれぬ髪を染め 人との会 まみ子 洋 子

た若者が多い昨今、何だか嬉しくなるよ スマホに夢中で碌に会話もしなくなっ 好

き合っている作者が少し羨ましい。 キラキラした瞳で話す。そんな若者と向 うな句に出会った。将来への夢や希望を

茶柱がもうひと花とそそのかす

のかされてひと花もふた花も咲かせよう。 を持つ高齢者(?)が居る。大いにそそ

もう若者ではないけれど、ここにも志

あら、そうだったんですかと思わず笑っ

隣からリンゴを連れて戻る皿

お裾分けしたお返しにリンゴをいただ 雄

とそのユーモアに拍手です。

急かされて思わずハイと返事する

を派手好きと評した人が居たとは、驚き の句を下敷きにしての作句ですが、これ てしまった。勿論「願わくば花の下にて…」

かつ今もご活躍の川柳塔のお宝みたいな いた。良きご近所付合いがしのばれる。 ここにもふた花もみ花も咲かせ、なお

壇次の百句をめざしてご健吟の程を。 この齢で貢ぐ相手はもみじの手

方がいらっしゃるのが嬉しい。なにわ柳

はどなたに貢がれたのでしょう。今はも 思わず頬がゆるんでしまった。若い頃 弘

みじの手のあどけない笑顔が返礼です。

いい顔の親子に出合うシャボン玉

藤原大子

虹のように光り乍ら空中を飛ぶシャボ

作り笑いや愛想笑いでは決して涙など

本物や涙流して笑ろてはる

ン玉に、キャッキャとはしゃぐ親子の姿。 て、見ている方も思わずいい顔になり、 屈託の無い幸せそうな笑い声も聞こえ 体に本物と擬い物を見分けようという作 に涙が出る不思議。笑うという行為を媒 出ない。心の底から大笑いした時は本当

まるごとのあくび平行移動する

者の心が読めてくる。

小さな幸せをもらったかも知れない。

西行は派手好きらしい花の下

は移るもので、誰もが経験のある事と思 次々と隣へ移って行く。不思議とあくび ない仲間内だから無防備なあくびも出、 ここにも飾らない素顔がある。気兼ね

したと思える。

古里に左回りの時計あり

う。まるごとと平行移動の表現が功を奏

静かにおとなしくしているのに、やいや でももう仕方がない、頑張りましょう。 い急かされついハイと言ってしまった。 あるあると、つい共鳴してしまった。

落ち込んだ男演歌に癒される

人の心に響くのです。癒されるんです。 の哀愁をおびたメロディーと歌詞は日 男だけではありません。女だって演歌

> 時間が逆行したような思いに浸れる古里 幼い昔に還れるような古里を持つ幸せ、

高速道路村を跨いで行ったまま

のある幸せが匂って来ました。

だが反面高速道路が置き去りにした村

居つかず廃村が視野にあるのも現実です。 が、だんだん過疎になって行き、若者が

89

水煙抄鑑賞

―5月号から

竹信 照 彦

本当の事は裏面に書いておく

ズバリと書くとはばかりがあるので、 岡 﨑 美知江

裏面にそっと本当の事をメモる。相手の 気持を思いやる、優しさでしょう。

介護ロボ退職金で買っておく

ど気楽でしょう。ただ人間味があるか? たい。老々介護や介護施設より、よっぽ 万能の介護ロボが出来たら、私も買い 長生きもむつかしおすなあ呆けが出る

そう言われると難しさも和らぎます。 *むつかしおすなあ、京ことばが光る。

老々介護ギックリ腰でリハーサル 吉 道 あかね

を得ています。わが家でもやりますよ。 ギックリ腰でリハーサルとは、将に当

アロハポーズ慣れた頃にはもう帰国

ハワイへ私も行きましたが、二~三泊

がせいぜいです。アロハに慣れる頃には ては、そんなもんでしょう。 帰国です。物足りないけれど一庶民とし

漢字にはあってもいいよ男偏

ましたが、所詮、脇役なんでしょう。 男は国盗り合戦が始まってから強くなり 同感ですが、女性は子孫繁栄の主役。

さからわず軽い笑顔で従わず

句の一従わず一でとどめ。お見事! も無駄と思った時、サラリとかわす。下 多数決で負けたり、この人に反論して 目を洗うまだまだ明日が見たいから

まだまだ目は閉じられません。野鶴さん 虹を食べたり、墨痕が跳ねたりする命、 延寿庵 野

過ぎし日も来る日もみんな大事な日

の益々のご健吟を……。

窓から外を見るだけの日もあったけど、

人の世話が出来てマルという、みんな大

たいい句です。

事な日なんですね。真面目な人柄が表れ

知識が豊富で視野が広い。私も単純で視 善人は単純ですが、腹黒く見える人は 腹黒い人に生き方学んでる

夜の底掃除しているホーキ星

野が狭く、腹黒い人に憧れます。

ロマンティックでスケールの大きな発想 ホーキ星が夜の底を掃除するなんて、

です。因習を破って佳句を……。

変人を個性豊かと言い変える

人…一言いって近い仲になりましょう。 言い換えて…正解でしょう。変人は賢

流星に見せて掃除の宇宙ゴミ

想が、素晴らしい。衛星など人間が汚し たゴミも、どんどん流星にして欲しい。 流星が実は宇宙ゴミの掃除だという発

モンゴルのお蔭今ある相撲界

を中心とするモンゴル勢のお蔭です。 今の相撲界になったのは、白鵬 山端なつみ

同感。

断家完司のせんりゅう飛行船



重箱の隅を見る

い文芸にとっては得意のテリトリーです。 重箱の隅っこは、17音そこそこで表現しなければならな人は嫌われますが、川柳の素材としては面白いものがありま人は嫌われますが、川柳の素材としては面白いものがありま 「重箱の隅をつつく」と言うのは皆さんご承知の通り。 どうでもいい細かいことにあれこれ難癖をつけることをどうでもいい細かいことにあれこれ難癖をつけることを

のこと。科学の進歩は注射針まで細くしてくれました。 すりこ木の減った部分は腹の中 森口 昭子 すりこ木の減った部分は頂の中 中居 善信 を表表の椅子がフワフワのクッションで「いい気分」だった 教会の椅子がフワフワのクッションで「いい気分」だった 教会の椅子がフワフワのクッションで「いい気分」だった 教会の椅子がフワフワのクッションで「いい気分」だった 教会の椅子がフワフワのクッションで「いい気分」だった 教会の椅子がフワフワのクッションで「いい気分」だった 教会の椅子がフワフワのクッションで「いい気分」だった 教会の椅子がフワフロのクッションで「いい気分」だった 教会の椅子がフロなどと一緒に腹に納まったに違いありません。 本知 由美

上記の作品は重箱の隅にあった「物」ですが、自分の周囲

セントの穴の長さも「あっほんとだ」とビックリー

にいる「人」もまた仔細に眺めると小さな発見があります。 「大郎を切っている遊りですが、右は、偶然に 大郎を切っているライバル。右耳がピクピクしたときは近寄ら はで食っているライバル。右耳がピクピクしたときは近寄ら ない方がいい友だち等々。デティールから全体像が見えます。 よく喋る人はマスクをしていない 門田 浩 お盛んなメールやりとりみな猫背 藤塚 克三 お盛んなメールやりとりみな猫背 藤塚 克三 お盛んなメールやりとりみな猫背 藤塚 克三 お盛んなメールやりとりみな猫背 藤塚 克三 おいたなメールやりとりみな猫背 藤塚 克三 たます。 おいたがいりたけ詰めてもらえば座れそう 大隅 克博 たほどの四人は作者が知っている人ですが、右は、偶然に

言われてみて初めて気が付くことも多々ありますが、コン

、たいがいは同じ穴。それを「いつもの穴」とは愉快。満腹まで食べたときはベルト穴をずらすことがあります

地下鉄の駅で拾ったいちょうの葉

茶柱が立ってうれしい二、三秒

霜 哲 男

ベルト穴いつもの穴が広くなる

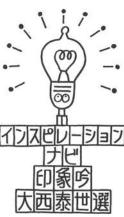
左の穴が少うし長いコンセント

西原

慕情

居合わせた人たちや街角で見かけたひとたちです。

— 91 —



(投句222名)

たり、もう大変です。 大り、もう大変です。 たり、もう大変です。

ばせれば、と思います。では…。 せめて川柳で一矢報いるように笑い飛なってしまうのです。 なってしまうのです。 あの人たりの顔を見ているとゴハンまで不味くちの顔を見ているとゴハンまで不味くちの顔を見ていると

父の日は知っているかと念を押す 豊中市 藤井

則彦

いとプレゼントもありえません。 薄いことか。何度も念を押すぐらいでな(評)母の日と比べて、父の日の何と影の

なことが意外とホントだったりします。(評)現実にはエッと絶句してしまうよう信じてはもらえないけどホントです「量がです」では、「カー・酒井」真由

相手にどう信じさせるか、むずかしい。

(平)亡しい寺、あるいは諸かって落とし穴あると思えぬ絶頂期

思い込んでしまうのです。など、いつまでもこの状態が続くものと(評)忙しい時、あるいは儲かっている時

われてもねエ。 (評)とうとう国民に付けられてしまった (評)とうとう国民に付けられてしまった 死ぬまでは付きそいますとマイナンバー

うのです。〈小ぬか雨〉だってそう。 日本語の美しさと多様さには驚いてしま (評)雨やら月やら、色彩を表すにしても 小ぬか雨会いたい人が居るのです でも、出来を表すにしても のです。〈小ぬか雨会いたい人が居るのです。

大学 17 大学 17

わせぶり笑いにも惑わされます。れ考えてしまいますが、ウフフという思(評)芸当、それも絶妙の、とは。あれこ絶妙の芸当出来ますかウフフ

後退りできない汗をかいている倉音市 大羽

雄大

(評)真摯な様子が伝わってきます。〈後(評)真摯な様子が伝わってきます。

(評)いつ当事者になりかねない身近なこ他人事じゃないが他人事だと笑う 佐賀県 真島久美子

ヒトゴトで済ましてしまうのが人間。とも、自分の身に降りかからない限りは

力

(呼)マペコミン最った。まごて脅・ 臆病な奴ほどたまに無茶をする

れる話もよくありそうです。 でなくても、エッあの人が、なんて驚かさでなくても、エッあの人が、なんて驚かさ

で時間をつぶすしかないのかも。(評)最近は、あの世へ行くにも生きているうちから忙しいことですね。あとは遊んないだが、最近は、あの世へ行くにも生きていていた。

あっという間だった父の肩車 青森市 守田 啓子

あと少し僕の季節がやってくる 寝屋川市 籠島 恵子

里なら午前中には軽く着く 岡山市 永見

若いのよ恐いことなど何もない 枚方市 小林

わこ

続けることの凄さを見せつけるつもり 高槻市 片山かずお

テリトリーだからハミングして通る※子市 八木

千代

首はもう洗っていますご自由に 和歌山市 磯部 義雄

心咲

小判バラ撒く大臣がいるそうな 八尾市 宮崎シマ子

この坂を下れば見えてくる花野 矢倉 五月

神戸市

山口

光久

終着へもう走らない慌てない アンテナを張り颯爽と闊歩する 河内長野市 山岡冨美子

時時は口の体操あいうえお 黒田 能子

割り切ってみたら案外軽い荷だ 弘前市 三田市 髙瀨 野口 霜石 晶子 確実に足跡残し生きている

箕面市

出口

[セッ子

ヒー

ローでいたくて付ける万歩計

あした吹く風を信じて一歩だす 大阪市 井丸 遠山 昌紀 唯教

これが蓄音機というものでござる 春ですよそこのおばちゃん春ですよ 西宮市 緒方美津子

都会には私の居場所もうないの 大阪市 石橋 直子

未だ来ないきっとくるはず青い鳥 鳥取市 谷口回春子

絶世の美女が楽屋で髭を剃る 三田市 修平

田中

わたくしの得意は下り坂なのよ

野に伏して明日は何処か山頭火 大本 和子

石橋 芳山

ご安心を竹光だから大丈夫 胃粘膜あんた以外に強いんだ 大阪市 江島谷勝弘

安宿で十分バックパッカーズ 坂上 淳司

喪が明けるゆっくり息を吐いてみる 大阪市 小野 雅美

君臨を支える民の血が滲む 米子市 和之

スローライフ アンバランスなヒマとカネ 河内長野市 高槻市 梶原 島田千鶴子 弘光

恋ダンス刃の上で火の上で 奈良市 大阪市 大久保真澄 原田すみ子 自分流通して傷を深くする

宅配便何度行っても留守ばかり のんびりもいいけど崖っ縁ですよ 和歌山市 平田 元三

明るくをモットーにして生き上手 豊橋市 西郷紀美代

櫃原市

居谷真理子

にくしみを埋めて大きな石を置く 名刀は常に眠るが如くある 七反田順子 夏目

別れても好きな人です逢いに行く

のろくても信念だけは折り曲げぬ

武本

碧

佐々木満作

居眠りが止まぬ国会議員さん 鳥取市 土橋

螢

生と死は夢まぽろしの中にあり 前田 洋子

山峡の郷は電波が届かない 真夜中の掃除るんるんマイペース 紀の川市 辻内 次根

旬野菜テンコ盛りしたカート曳く 大阪市 米澤 俶子

古き良き時代奏でるオルゴール 鳥取市 福西 茶子 強

トラックにペットも乗ってお引越し 和歌山市 貝塚市 土屋起世子 石田ひろ子 天敵に遭遇したら蹴ってやろ

のろくても桃源郷に辿り着く 河内長野市 大島ともこ

来世こそ生まれ変わるぞ俊足に

8月号発表 (6月15日締切)



麻生路郎読本』余滴 (40)

また、路郎の著作見つかる

桒 原 道 夫

返し』『金色の魚』『黄金の斧』『湖水の白鳥 冊になった。 めて、路郎の著作で判明したものは四十七 の四冊の童話に触れたが、今回の一冊を含 つかる」で、新たに見つかった『子鼠の恩 平成24年8月「余滴」(10) 「路郎の著作見

目のものである。 月三版)、『日々間に合ふ 現代模範女子美 的候文』(大正11年6月三版)に続く四冊 間に合ふ 現代模範美的候文』(大正11年6 子大学所蔵のものである。路郎の童話とし 兵士』(大正11年3月)で、東京の昭和女 ては一番古いものであり、著作としても、 川柳漫画 懷手』(大正9年10月)、『日々 今回見つかった著作は、『お伽噺 一人の

イント。総ルビ付き。頁の書式は、24字× 188×127㎜ (四六判)。本文の活字は12ポ

たいために記念にもと出版することにな までもく、一種の親しみを持/つてゆき 『お伽噺 一人の兵士』の表紙10行。二二七頁。図版2枚。



改行を示す。 序、 目次、 奥付を記録しておく。 ノは、

私は世の多くのこども達と共に膝をまじ こどものこ、ろほど美しい純なものはあ 伽の國に住で/ゐるこども達と私と何時 ゐるや/うなこ、ちになりました。 お伽の國にもあまい虹のやうな夢を見て ひたつた時には、何時でも私/自身が、 へて、その美/しい純なこ、ろのうちに りません。 この小さなお伽集は私と一緒に清いお

> こどもも、もう一度私を憶ひ出すために あります。私からこの話を聞かさ/れた 全譯ではなくて私/の話よいやうにして りま/した。話は西洋のものばかりです。 讀みかへして下さい。

大正十年の初冬 萩の茶屋にて

◈王様と智慧比べ………… ◈名人の寄合ひ…………… ◈狼の喰べ過ぎ………… >麥の穗の由來………… 一人の兵士……………… 話童 人の兵士目次

◈ロシヤの一寸法師…………一九九 ◆豆の上に寝た王女…………… ◈附 >三錢のお給金…………… 刃…………一六九

大正十一年三月廿五日發行 【定價五拾錢】 大正十一年三月二十日印刷

發行者 著作者 大阪市南區日本橋四丁目四十番地 生 勘 路 郎

94

0

大阪市東區博勞町一丁目三番地

の題名を、『完訳

グリム童話集』(金田

巻き付けた。そして、その網を驢馬の尾

印刷者

风

(元 谷文界)堂 大阪市南區日本橋四丁目四十番地

振替大阪六一三一七番

前までは汝十牛り古書店が書ら並んでいた。街として知られているが、第二次世界大戦書店だと思われる。現在の日本橋は電気屋書店だと思われる。現在の日本橋は電気屋

とあり、〈それから親類の人やらを大阪へとあり、〈それから親類の人やらを大阪へした。谷貫一、末吉、末松という三人兄弟で〉した。谷貫一、末吉、末松という三人兄弟で〉した。谷貫一、末吉、末松という三人兄弟で〉した。谷貫一、末吉、末松という三人兄弟で〉した。谷貫一、末吉、末松という三人兄弟でいた。前までは数十件の古書店が建ち並んでいた。

谷勘七ではないかと思われる。で二十軒までが谷一族の一人が、谷文界堂のの二十軒までが谷一族でございました〉と呼び寄せまして、あの三十七、八軒のうち

童話を翻訳したものである。参考にそれぞあるように、これらの童話はすべてグリム序に、「話は西洋のものばかりです」と

一人の兵士→青いあかり一人の兵士→青いあかり一人の兵士→青いあかり

麥の穗の由來→麦の穂王様と智慧比べ→ちえのある百姓むすめ名人の寄合ひ→六人のけらい

三錢のお給金→いばらの中のユダヤ人

ロシヤの一寸法師→おやゆびこぞう 豆の上に寢た王女→えんどうまめの試験附 燒 刃 →旅にでる

えている。ここでは「王様と智慧比べ」でシヤの一寸法師」などは、原作を大幅に変シヤの一寸法師」などは、原作を大幅に変シーの一寸法師」などは、原作を大幅に変きた、序に「全譯ではなくて私の話よいまた、序に「全譯ではなくて私の話よい

変えた部分を紹介しておく。

脱いで裸になり、魚を捕る大きな網を体にかを着ず、裸にならず、馬にも車にも乗らず、道を通らず、また道の外へも出ずに来が、道を通らず、また道の外へも出ずに来が、道を通らず、また道の外へも出ずに来が、道を通らず、また道の外へも出すに来が、道を通らず、また道の外へも出すが、「着いいで裸になり、魚を捕る大きな網を体に

ずに行ったので、王は娘を妃にした。面を踏んだので、道を通らず道の外へも出馬は轍の中を通り、娘は足の親指だけで地結びつけて引きずっていくようにした。驢

「王様と智慧比べ」では、娘の名は麗子。「王様と智慧比べ」では、娘の知恵を借りて、煮豆に言った。親は、娘の知恵を借りて、煮豆を地にまいて「煮豆に実がなる世じゃそうを」と言った。王は「煮豆に実がなるわけな」と言うと、親は「煮た卵から瞬るのだから、煮豆に実がなるかもしれません」と答えた。

王は、娘に「一切れのボロから船の帆を作れ」と言った。娘は「小さなボロから帆作れ」と言った。娘は「小さなボロから帆作れ」と言った。娘は「少しの麻屑で国中の河に堰をした。娘は「少しの麻屑で国中の河に堰をした。娘は「少しの麻屑で国中の河に堰をして下さい」と答えた。さらに王は「遠い所にいても聞けるものは何か」と尋ねた。娘は「雷と嘘です」と即座に答えた。

— 95 ·

本 补 五 句

◇五 月 八八日 月 午 後 時

T

ウ

1

1

+

大

阪

快 0 の参加で開催された。 1 H Ŧi. 一月句会は一 初出席は岡山 五名 (投句

企図することが必要と考えている。高齢化な 更にフェイスブック、ツイッター等の活用を 柳塔社や弊社のホームページ・プログの他、 積極的に検討すべき。既に開設されている川 蒙や普及にパソコン・スマホ等SNS活用を も登場している今日では、特に若年層への啓 報発信は今後も当然必要であるが、電子書籍 から提言がなされた。雑誌など書面による情 るにはどうすればよいか、雑誌発行者の立場 知られる新葉館出版代表の松岡恭子氏。題は 県から誌友の大杉敏夫さん。 「これからの川柳」。川柳愛好者をもっと広め 今月のお話は雑誌 「川柳マガジン」 発行で

席題 吹 < 河内 月子 選

高知まで潮吹く魚見るツアー 世界中に風を吹かせたボブ・ディラン 逆転の六甲おろし止まらない ライバルにひと泡吹かせ意地立てる 笛吹けば踊る準備は出来ている 北野 藤井 山崎 長髙 哲里 宏造 武彦

頂に立てば四方の風が吹く 16連勝吹いても飛ばぬ駒らしい 右寄りの風が激しく吹いている 花吹雪追っかけているランドセル 花吹雪五月早くもクールビズ 大ほらを吹いてすかっとしてみたい 神ってる風阪神に吹きました 吉岡 藤井 川端 石田 指宿千枝子 山本希久子 中川ひろ介 宏造 隆彦 修 北

おばあさんはどこ吹く風で生きている

谷口

吹いてみると案外上手いハーモニカ 王将の風を吹かせた藤井棋士 さやさやと吹く風に聞く初夏 吹く風を栄養源に鯉のぼり 熱燗の程度を知らぬ下戸の 吹く風に生命を任せ風媒花 酒二合重い空気を吹き飛ばす いざとなれば神風が吹くあわてるな 薫風を吸い込み昇る吹流し 夕の彩 萩原 上山 水野

花吹雪いいなと見てる落ち椿

靖鬼

嵐など起こす気のない白い雲 老木も生きているぞと芽吹いてる ハーモニカ吹くと昭和の兄が来る 靍田 海老池 加川 石田ひろ子

吹く風に背中を伸ばす花が好き 揉めさせてどこ吹く風で飲んでいる 六甲おろし心地よく吹く甲子園 私の風を吹かそうピンク着て 友達がどんどん増えるシャボン玉 澤井 内藤 太田: 太田扶美代 山岡富美子 扶美代 憲彦

が吹いて阪神絶好調

ヨッシャヨッシャ草木の芽吹く凄い声 つむじ風の中にときどき父がいる

前 小島

たもつ

蘭幸

中里はこべ 鴨谷瑠美子 黒兎 狸月 堅坊 神風 敗れたが吹き出る汗は本物だ 新しい風に吹かれて立ちあがる 父ちゃんが呼んでくれてる口笛 黄砂なら仕方がないと思います

坂上 吉岡 鶴田 よしみ 廣子 都合よい

ぼり」を全員で合唱した。

(正彦 「鯉の

(司会―蕉子・真理子)

(脇取

一五月・まつお (藤井寺市)

断捨離の風が未練の音で吹く

小心が法螺を吹いても知れている 夕風に吹かれよろよろ千鳥足

いい風が吹くまでは寝て待つとする

西出 山野 大杉

憲彦・万紗子

月間賞は

太田扶美代さん

いる中、大変参考になるお話であった。 どによる川柳人口減の歯止めが課題となって

最後に司会の蕉子さんのリードで、

酒井 岩佐ダン吉 柴本ばっは 紀華

誕生 初夏の風いい日になった墓参り 190本も吹き消した 神風なんてありません 井上 内藤 宇都満知子

憲彦

筒

寿シ 敏夫

二 三枚瓦が落ちて風が止み

-96

肥山

文

江島谷勝弘

珍 石田 選

珍名のおかげで弾む初対 生きている内に逢いたい宇宙 人という珍種が地球食い荒らす 国会は春の珍事がうようよと 珍しいねばり出てきたタイガー 爺婆は珍問答で日日平和 百歳が珍らしかったのは 昭 和 渡辺 島田 山﨑 江島谷勝弘 上垣

富子 公輔

珍芸で宴会部長地位不動

キヨミ

好文

珍しくはない甘党の酒屋さん 珍しい料理食べると下痢をする とっときのワイン抜かせた旧い友 ガラクタを集め珍重するマニア 安田 安土 升成 居谷真理子 理恵

居ながらに山海珍味お取り寄せ

山根

妙子

奏子

タレントの珍回答も芸のうち 連れ添うて珍道中の五十年 あのひとが身銭切りはる明日は雨 旅先で勇気を出して食う珍味 珍客へ張り込みました上にぎり 黙っとこか不味いと言おか珍メニュー 珍獣が外交担う強かに あの人が百円入れた募金箱 山田 山本 栃尾 大内 藤原千恵子 内田志津子

おそるおそる端を舐めてみる珍味 大臣がまともな答弁しているよ 中岡千代美 奥澤洋次郎 小野 たもつ 朝子 廣子

妻の

珍しく悲惨な記事のない紙面

初対面珍しい名のインパクト 妖怪の声ときどき届く縁の下 こんな早よ帰ってくるてクビかいな 旅立ちの朝の卵に黄身二つ

ファッションショーの衣装奇妙にしか見えぬ 珍しいものを分け合う両隣り 珍問に珍答返す政治劇 採点で珍答案は肩ほぐす 珍しくて一度は来るが二度と来ぬ 村上 三宅 西川

列のスマホ車 評は「珍味」 中に読書の 夫の 初料 娘 理

夜の菜園招かぬ珍客来る Vi 言葉だラップしておこう

珍し

珍しや昭和も遠く丸ポスト 珍品に焼けた大きな飯茶碗

> 海老池 島田 誠

珍品は三日も見ればガラクタに ないことに嫁が一緒に来るという 孫にだけ眩しい笑顔見せる父 寝ても覚めても珍奇な寝言言うてはる 孫が出す珍回答がおもろすぎ 桝本 上出 山本 金川 奥澤洋次郎 原田すみ子 宇都満知子 森松まつお 宏子 和宏

珍味もう味わい尽くし凝る茶漬 娘の料理三大珍味より珍味

片山かずお 柴本ばっは 玄也 保州

葉子

山野 寿之

藤井 水野 文代 黒兎

> 兼題 ほ ぼ 桝本 宏子

> > 選

ほぼなんて通用しない宮大工 ほぼ勝った思った時は負けている 心療内科ほぼ愚痴だけど聞いている 今年の春闘ほぼ満額が出るら 口喧嘩しても妻にはほぼ負ける 無口ならほぼ満点の妻なのに Ĺ

初代

川端

藤井

宏造 正彦

則彦

英夫

野口

ほぼ加齢わかっているが医者に行く おでん鍋どうやら明日は留守らし マイナンバー覚えるなんてほぼ無理だ おばあさんはほぼこんなもんです 海老池 谷口 松浦 藤井 田中ゆみ子

世界中ほぼ旅をしたBSで 堀 正和 靖博

ほぼ毎日飲んで海馬に活入れる ほぼ互角切り取り線の上にい ほぼ毎日妻に指示され生きている 人生のほぼ半ばだと古稀元気 る 西出 山岡富美子 片山かずお

降板と不倫で稼ぐ週刊誌 ほぼ区別つかんAKBも乃木坂も わたくしの体はほぼ使い切りました あの痛みほぼ忘れてる二児三児 カーナビでほほ近辺にたどりつく 島田 津守 森松まつお 井上恵津子 楓楽 柳伸

挨拶で上司の機嫌ほぼ解る 献立で家計のピンチほぼ解る ほぼ解けた答案用紙念を押す 丹後屋 谷口 石田ひろ子 石田ひろ子 義

太田扶美代

生き恥は多分あなたとほぼ同じ

ほぼ出来るとこまで姿見せぬ君

山田

「もれる」 いさお 選

紀恵

子が自立親の役目をほぼ終る

結論はほぼ料亭で出る会議 七勺をほぼ一合と出

ほぼ出来てから奥さんを起こします 引っ越しもあらかた済んだ頃にくる ほぼ互角一度敗けても諦めぬ ランチ席ほぼご婦人が占めている 九分九厘あと一厘に悩み抜く 計るよりほぼの手先で味加減 ほぼ全快神も仏もありました 完璧で無いがみんなの汗が良い 澤井 山根 金川 山根 水野 松岡 宮崎シマ子 黒兎

家事全般ほぼの時点でやめておく 古今堂蕉子 居谷真理子 妙子 妙子 宣子

頑固さはほぼ似ていますわが息子 ご近所の飲み屋さんまでほぼ百歩 半分ほど寝ている半分ほど飲んでいる 赤穂義士四十七名ほぼ言える ほぼ結果出てる根回し効いている 新家 矢倉 石田 中岡千代美 森松まつお 五月 完司

この案でほぼ決まりですあとは金 人肌の燗を覚えてくれた嫁

三宅

保州

吉岡

修

ほぼほぼは羅漢の顔だ日 本人

免許返納ほぼ決心がついた事故 上田

和宏

忖度がもれたかヤバイ事になる

森松まつお

左遷の地飲み屋のママが知っていた 雨漏れをうけるバケツのドレミファソ がせねたを洩らし攪乱図る北 もらしこぼし 老人らしく生きてます 尊厳はかなぐり捨てるパンパース 老いるとはどうやらもれることらしい アンテナの人からもれる嘘 退化した羽根からもれる熱い汗 宇賀 村田 上垣 古今堂蕉子 キヨミ 史郎 柳伸 英夫

苦い過去の嗚咽がもれてくる日記 地球から阿鼻叫喚が洩れてくる 通夜の席ほとけの過去がもれはじめ 再稼働もれた水処理出来ぬまま 汚染もれ線量計は休めない 焼酎の湯割り耳から漏れている 酒井

雨漏りは直らず句会ボツ続き 悪人を作って忖度を守る お隣は新婚さんに違いない

復興相本音が漏れて首になる

内緒話もれてだんだん尾鰭付く 木もれ日が季節おしえてくれました 資産家を漏れた小銭を奪い合う い口もれて大きな染みになる

合掌の手からこぼれている懺悔

お隣りへ夕餉をもらす換気扇 澤井 山崎 中里はこべ 敏治 武彦

澤井 渡辺 井上 三宅 太田としお 敏治 富子 保州 紀華 台

新家 川端 完司

安田 山根 忠子

正方形少しもらして注ぐお酒 何がもれたか会場が騒がしい 壁伝い良からぬ噂もれてくる

共謀罪やばい話はやめにする 靴箱の隅から洩れてくる吐息

鴨谷

超美子

朱夏

ロダン吉

黒兎

封切るところりと笑い声漏れる 針ほどの孔から運に逃げられる わが名まで記憶から洩れ母百寿 海老池 岩佐 水野

この人ならもれると信じ喋ってる ジーパンの穴から若さもれている 原子炉の軛にもれている喘ぎ 脳味噌が少しずつもれ老いてゆく 西出 伊達 荒川 江島谷勝弘 原田すみ子 郁夫

楓楽

事務局長がみんなもらしておりました 明かりがもれる待っててくれる人がいる 風呂場は水漏れ頭は記憶漏れ 仏壇の中から鋭い眼光 新家 井上 小島 松尾美智代

遠くなる耳から洩れている孤独 五七五の隙き間を洩れる虎落笛 太田 扶美代

失言は本音がもれただけのこと いつからか記憶装置の液状化 西出 岡富美子

楓楽

抜けた歯の隙間をもれるサシスセソ

いじわるな姑が初の当り役 華だった女優ただいまケアハウス 本気で叩いて下さいと女優怯まない ゆるキャラの中でヒロイン目差してる 売れない女優きのう見ました吉野家で 鼻水を出さず女優が泣いている 女優のつもりらしいマツコデラックス 熟れ過ぎた女優カンカラカンと生き 見たくなかった婆さんのオードリー ネコは女優鳴いて甘えてかみついて 矢倉 米澤 桝本 野口 森松まつお 山野 中岡千代美 太田としお 居谷真理子 大久保真澄 寿之 宏子

飯田蝶子を知る知らないで歳を知る 真知子巻き遺して去った岸恵子 天秤棒母と女優を測り兼ね 売れないとだんだん脱いでいく女優 女優から女に戻るサングラス 呪文かけ女形になってゆく役者 水野 前田 井上恵津子 島田 海老池 原田すみ子 黒兎 紀雄

ウソ泣きの演技を女優から盗む 笑いとる喜劇女優の肥満体 良妻の仮面の下にある殺意 一本の薔薇を女優は引き立てる 生涯で四つの役を演じ切る スッピンの女優家では鍋磨き 金川 桝本 藤原千恵子 セッ子 宏子

> アイシャドー好きな女優と同じ青 歳月を語る女優の首の皺 えっほんま!女優やったんお母ちゃん 柴本ばつは 鴨谷瑠美子

小百合だった妻も菅井きんになった 黒柳徹子さん入れ歯の具合悪そうな 地下鉄の吹き出し口に居ましたね 白川和子僕を大人にしてくれた 女優のようにすぐに泣けない笑えない いかがわしい女優が昼ドラで光る 七十歳越えたら毎日が女優 右顔は決して撮らせぬ大女優 藤井 村田 升成 新家 山田 木藤こみつ 宏造

女優さんのようだが男かも知れん 森松まつお

スカウトされましたAV女優です

安土

理恵

短足が女優気取りで足を組む モンローの声優会わぬほうが良い 右頬で泣いて左頬で笑う 清純派女優はオナラなどしない 永田 西川 宇都満知子

よちよちがオムツのお尻ふっている カメラがとらえた女優の大欠伸 山岡富美子

中里はこべ

たもつ

八千草薫も僕もそのうち紙オムッ 非戦語る女優あの日のむぎわら帽

ご近所のグレース・ケリーまだ独り 娘役楽屋で乳をふくませる 新家

口がでかすぎる紫式部役

兼題

手間うれし山菜ごはん木の芽和え バラが咲く心を寄せた人思う 植物があるなら他の星がいい 母の命日忘れずに咲く夏つばき カラフルなみどりを浴びて深呼吸 渡辺 上垣キヨミ

緑とは縁ないビルの森に住む 植物の勢い借りる5月です 土筆んぽ虚無僧のごとぬっと立つ

食べられる物しか植えぬうちの 梅実るふと厳寒の日々のこと

ひこばえの生命力に拍手拍手 タンポポの綿毛のように生きたい 野菜食う肉ほど罪の意識なく

連休にズラリと植えたナスキュウリ 病む人を助けてくれた桜草 野菜好きの孫は元気でガッリガリ 内田志津子

杉桧去って目鼻にやっと春 山笑う中に竹だけ渋い顔 タンポポも縄文杉も芽を出した

森

完司 芽を出してみれば厳しいアスファルト 子どもの絵みどりいっぱい天守閣 水を下さい精一杯咲きます

油谷 克己

> 小島 蘭幸 選

荻原 河内 立藏 澤井 村上 岩佐ダン吉 狸月 正和 玄也 宏造

能勢 安土 理恵

山野 新家

野の矜持四季には四季の花咲かす 天国に伸びる実のなる木を植える 山野 宇都満知子 今井万紗子 上田ひとみ

菜の花が喜ぶほどの雨がいい

樹木医の患者の中にご神木 雲間から母の手拍子田植歌 すみれたんぽぽやさしくなってゆくわたし 松尾美智代 サボテンの棘 盾なのか鉾なのか 吠猿が啼くアマゾンが消えていく 人間の心を持った桜の木 山菜に夢中で車上ドロに遭う さくら餅桜の葉っぱだけ食べる 花図鑑持って淀川散歩する 農政が牛の米しか作らせぬ 記念樹が昭和のぼくを抱いている 合歓の木に生まれ変らん樹木葬 栃尾 太田 井上 井上 今井万紗子 鈴木いさお 扶美代 恵津子 耕治 哲男 敏夫

必 燦

坂上

居谷真理子

郁夫

八十の記念にスマホ買いました

百合子

岩 崎 眞 里子

四月句会を読む

た美しさにゾクッとしたが、何万回と刺すうちに凪いでゆく心 トンと腑に落ちた。仕返しを考えながらする刺繍の凄みを帯び

言葉だが、毛穴からだと直接細胞に刻まれるな…と思った。 して歩き出そうとする方に浮かぶ師の言葉。全身で受け止めた る四隅。父母の気配は、守られているという実感。気を取り直 も見えてきた。先ずは心の平和を…という躾こそ賜物と思う。 順調な時は忘れているが、前に進めなくなった時に立ち上 私の四隅に父母が住んでいる 白寿へとレースの下着買う傘寿 のろのろと山のあなたへ消えた夢 耳で眼で毛穴で聴いた師の言葉

作者の大らかさを感じた。そして一斉に散り始めた桜の花びら から『仏も昔は人なりき…』と聞こえたような気がした。 青いレモンであり、何歳になっても飛翔は明日の夢である。 何だか歳を取ることが眩しく見えてくる。生きている限り人は ゆっくりと遠ざかった夢に替わって出現した具体的な目標 梁塵秘抄の一節『遊びをせんとや生まれけむ…』が浮かび、 詠うために遊ぶ飲むために歩く 「レモン明日は鳥になるつもり

薔薇と私 写してくれたのは妻だ

百万本のバラより君という野バラ

海老池

洋

赤ちゃんのクシャミ牡丹の花揺れた

太田扶美代

さるすべりするりと後期高齢者

谷口

義

植物図鑑ひらかぬままに朽ちていく 忖度をしてるサクラが未だ散らぬ 米の生る草を陛下も植えられる 百花繚乱の北海道へ四季島で

酒井 伊達

中岡千代美

品のサラダはベランダの緑

世の中を騒然とさせたマイナンバー。「刺客」と言われてス

としお

刺繍しながら仕返しを考える マイナンバーあれは刺客に違いない

最大の躾は平和守ること

いたが、活力をいただいていたのだと、この句から知らされた。

今年も桜の弘前公園を歩いた。元気のバロメーターと思って

活きる意欲老いた桜からもらい

100



たします。 載毎 月24 で誤字のないようにお願い は原稿到着順となります 日 締切·35句以内 一厳守

近藤 正報

合コンにわくわく顔を引き締める

遠

野

いつまでも大樹の影にいる自分 ATM触れると預金減るばかり 歩幅少し伸ばしてみよう春だから 何もかも忘れて人は丸くなる 積雪の山は本音を伏せている わくわくする嘘を待ってる四月馬鹿 川柳と謂う怪物へ果たし状 榮 志 昭坊

ガラ系自慢ウラを返せばメカ音痴 転ぶたびこころだんだん丸くなる 春が来たただそれだけで胸が湧く たもつ 千恵子 高 歩

満月があまりに綺麗妻を呼ぶ 初恋の面影今も胸の底 胸わくわく五体輝き門くぐる

古傷に塩塗りに来る妻の乱 カラフルな噂あちこち行きたがる 触ったら怒りさわらぬから怒る

修

じゃんけんぽん目に物言わせ勝負する

合格の朗報を待つちらし寿 勝てません兇器の並ぶ台所 琴線に触れてハートが出す音色 帰ろかな出稼ぎ先は辛夷咲く ごめんなと言えず母の背に触れる ほっこりと丸い空気へ里帰 占いを信じて出向く競馬場 大物が掛かった竿がしなり出 披露宴ないが仲良く共白髪 菜の花の海 童心の立ち泳ぎ 稀勢の里危機一髪を投げとばす す

うれしいと影も笑顔でついて来る あの人は丸く収めるのが上手い 少しだけ触れてみたいな君の過去 風光る芽吹きわくわく弾む春 前向きにストレスつぶし春謳歌 酔い醒めの水は命の味がする マネキンが着ていた時は良かったが 杁

川柳塔みちのく(青森) 稲見 則彦報 Œ

ずかずかと娘が連れてきた馬の骨 朗報を寝ないで待ってる電話口 夢ひとつ抱いて掴んだ子の門出 企てが見事はずれた負の遺産 さて今日は何して遊ぶ秘密基地 靴脱がず和室へ入る外人さん 井吹美冬慕 鈴 道情生彦

昭子子 御機嫌は 妻が強火で煮炊きする ずかずかと来れる悪友お前だけ 朗報をどっさり詰めて里

のぶよし

洋京

散歩するコースは犬に決められる 瓦礫からむくむくと出るひまわりだ 孫二人の朗報を待つ祖父と祖母 無造作に好きと言うから又ふられ 老母のひと言は揺るがぬ座り胼胝

豪雪のニュースに明日を組み立てる ずかずかと借金取りか靴の音 企てに無いアドリブに湧く画面 子を生んで一言強い言葉出る 雨風に負けぬりんごの樹を育て

つとむ

菜食者なのにワインも酒も好き 合格を知らせ携帯てんてこ舞い 人間をとっても好きでくるカラス きよし

挑戦します ダイエット以外なら 言い訳を聞いて素直に騙される 登りきる虹があるから酒を酌む お米にもランク付けする平和な世 コーヒーを飲むと眠れる天邪鬼 氐加子 ふさゑ 花

柳塔打吹(鳥取 野口

死ぬまでは続いて欲しいこの命 双子ちゃん続いて生まれやっと春 節子報 寬朝

子

俊 節 志華子 あさ子

小とみ

ひとし

里はいい此処は心のユートピア

弘委智 麗

眼圧が下がる私の小正月 するするっと男の神様降りて来て 和香子

久芽代

川柳塔すみよし(大阪) 森松まつお報

はつらつと画布に椿の彩にじむ もう一度出しゃばってみるはつらつと はつらつと就活内定桜咲く はつらつとカバンも踊る一年生 はつらつと子等にも選挙権が出来 火柱をあげる話がまだ続く へぼなりに続けりゃきっと天に咲く 美ッ千 たけ代

騙されておこう嬉しい嘘ならば とまどいもなく踊ってる幼児の絵 はつらつと燕帰った春の空 紀美恵 美知江 公

騙されず騙しもせずに傘寿まで 騙されたままに籍入れ舵握る 騙されてみようあなたのアイラブユー 玲 岳

ウッフフフ誰を騙そう四月バカ

節

騙されて騙してダイヤモンド婚 メディアでの御蔭で座して世界知る のど自慢メディア使って元気だよ いい町だなと思わせる春霞 石花菜

新聞を二時間読んでなお飽きぬ メディアを通じて世界を渡る爺 コマーシャルメディア育てる飯になり くらよしにメディアのおかげ人が来る ラジオから知る開戦も終戦も

陽之助 紀の治

高らかにクールジャパンと言うメディア ケータイに今日のニュースがどんぶらこ どどどっと傾くメディアと大衆 メディアにも解明出来ぬ闇がある くにこ

> 年金へ義理の出費が迫る春 無理難題義理ほど辛いものはない 義理堅く忖度からの大嵐 義理人情忘れてならぬ日本の美

私には義理人情ありません 足向けて寝られぬ人がひとりいる 義理堅く出世話をふいにする

亡き人へ義理をかかさず僧を呼ぶ 妻満点夫零点うまくいく 濁点を打たれてもがくアイウエオ

義理のため命犠牲にした親父

欠点も魅力と思うお人柄

自分史に彩り添える点と線 点と線つなげて今日を生きて いる

点になるまで見送っていた里の母 点滴のリズムに回復の兆し 点々と蛍の宿や里の夜

残酷な血の滴りを見たドーム ヒトデはね星のしずくと幼子が 雪溶けの水がチョロチョロ春の音 スカーフのピンクが弾む春うらら 滴る汗リハビリできる生きている 爪に火を点し続けて半世紀

満知子

釘の意地抜けまいとして錆びていく 大吟醸鬼もころりと寝静まる

風来坊

滴が波紋となって大河なり

Ξ 浦

強

選

ダン吉

シマ子

簡単に崩れる石を積んでいる

拝むよりまずはしっかり汗をかく

私がまあるくなってから無風

お日様と約束がある花の種 反省をするのが遅いキリギリス

肩寄せてサンマニ匹を買っていく B面に触れて優しい人と知る

みつ江

日出男

志津子 福貴子

松

原

寿

子

選

美佐枝

佳句地十選

(5月号から

102

まつお 満足が次の挑戦掻き立てる 生きる意味シンプルに問い組む座禅 賢くはないが必死に生きている

堀冨美子

満寿恵 木洩れ日の小径いいことありそうな 大胆な行動に出る春の猫 肩書が取れて野心も遠い空

惚け防止包丁持つ手言っている 卒業のない晩学の辞書をくる

(寺) 弘

人並みの器用さあって欲張らず

松美智代

こぼれ種大樹夢見て土を割る

相合傘滴るようだうれしさが

凡人の尻にメディアは食い付かぬ

ぽたぽたと雨垂れ拍手竿の先 居てますよ水も滴るいい女

ボ 歳月の ちょっとまって時には辞書と根くらべ は 肩書を捨てて路傍の石になる 菩提寺の石灯篭へ語りかけ 今の幸あなたの石を信じてた 熊本城の石垣耐えていたんだね 八ツ当たり石は石なりわけがあ どっぷりっと心を洗うコンサ 泥んこの顔洗ってた母こいし 洗っても心の染みはまだ残 アイデアが良すぎて部屋が落ち着かず メー 失敗がアイデアひとつ産んでく アイデアを掬う器を持つ上 つまずいた石にヒントがひとつ アイデアに使い果たしたエネル 遣り遂げて滴る汗 ロボロになっても辞書は捨てられず 取りを洗う刑事の感冴える プライズアイデアも枯れ -ルからアイデアぽんと躍り出 - デアが勝負ハート射るまでは 一林亡父の威厳を遺す棚 づくと皺を数える洗面 石はまあるく笑ってる 流れ暮石の字が埋まる 枚書くにも頼る電子辞 大鏡も置いてあ 倦怠期 る 司 古田 る 書 あ 1 太虚報 敬 千代美 廣 ふりこ 芳 ゆみ子 鬼昭節 規輝 蘭 笹 官 H 美俊 の出 寬 德 籬 雄 焼 紀 生子幸 舟 マンホ だまし舟折ったこの手の罪を問う 多色刷りのパズルを埋めて黄昏る 岐路に立ち選んだ道を吉とする 当選のバンザイからが見せ所 溜め息をもらして金の鶴を折 人間のエゴで地球が病んでいる 鬼は外今頃鬼は弱くなり なるようになるを信じて出 最上段にらみを効かす父の辞書 選び方ひとつ変わって来る答 結局は又じゃんけんをすることに 選ぶ程もうないぼくの選択肢 反論を静かにたたむ喉仏 あと僅か旅の白地図ぬり潰す 生き方を選ぶ女の処世術 ひかえ目なパンチが深夜疼きだす 極楽はこんな色かと万華鏡 地に還るまではしっかり善を積む フリー 枚の紙で無限を折りあげる かえ目な女がもてたのは昔 クラ待つぴかぴか光るランド 書を引く知らないことが多すぎる です財布の紐が切れまし i ない道を選んで鍛 歌山三幸川柳会 ルに熱い 句にお世話になる 視線の地 えられ す答え 面女子 ば せ か ル 幹子報 歩 淑 比呂子 起世子 ひろ子 菜次幹 美 史厚栄 TK. 出出男 RE 子. 子. 代 子州 子子恵美 根 香 リス 地面 当選後公約横に置いている 大方の予想外した彼の 頭から蒲団かぶっている予想 予想外と言わず必死に汗をかく 予報士が濡れてコンビニ傘を買う 運命を分ける治療の 紫を選ぶ女の淋しんぼ 四角から三角にして思案する また荒れる余白を残す地平線 草萌えて大地がくれる応援歌 怪しげなトップ選んだ民主主義 ひかえ目でなくほんとうは内気です 予兆する脳裏へ地鳴り止 意地張ってまだ生きてます日向 人生の着地を予想する始発 人界の予想の外に有るあ 満開を夢見て選ぶポット苗 まだ見えぬ世界広がる地平 人薄命長生きしそううちの 7 トラで目論見狂うマイホー [割り春へ雑草躍り出る で行き先分かる縄の の予想光った試 道を歩んでいるのです 選択 一来ませ る まぬ 0 ままま 妻 大久保眞澄報 h ほこ 4

あき子 みつ江 敏

昭

遠

野

知明 美枝子

鶴

子 雄

ね

美智子

文

次 坊

竹信

ともかくもご飯きっちり食べてから 社長業務仕事はじめは謝罪から 始まりは恋の予感のひとめぼれ 鉛筆を持つと始まる小宇宙 始まって余韻に浸るコンサート 読経が始まり居眠りが始まる すみれ 理真 甚之市 なりたくない不自由いっぱい公職夫人 稀勢の里よいしょ一声日本一 あやふやでもママにはわかる赤ちゃん語 あやふやな態度良いのか悪いのか 大好きだからこんなに言葉ドモります h

意気込んだ予想はずれて馬券散る

いタイガー

Ż

ふりこ

関係をあやふやにする無責任 敬老会昔を偲ぶこんぺいとう

外国語と訛あふれる京都駅 園児にはさせてはならぬダイエット ケータイとカメラが送る卒業式 美津子

おたか 惠美子 比呂志 よう子 子 あやふやになると最初に立ち返る 望まない言いつつ待ったカーネーショ 望月も雲と風とに左右され 津波から6年たつの忘れずに 確か今日十時に此処で待ち合わせ 在りし日のロマンを偲ぶ古城 葉 弘宏 元洋弘公 7

欲望を刺激している虚栄心 あやふやに咲いたり散ったりせぬ桜 あやふやな知ったか振りにボロが出る 鉛筆を倒して決めたまでのこと 英泰美光求則北

終章に望むもの有り箸二膳 角界の歴史に残る稀勢の里 あやふやな明日だからこそきょう大事 望郷がつのる街の灯港の灯 健康で金婚式を迎えたい

> 開かない脳こじあけてもこんなもん 大統領開戦前か吠えまくり

終活を誘う葬儀の下しらべ ばあさんに誘われしぶしぶと花見 ショーウィンドー手招きしてる春 春が来て花に誘われ徘徊す 飲むジェスチャーすると両手でデカイ丸 遅くても開かぬ桜ありません の色 美知江 石花菜 由紀子

幸せがはみ出さぬようラッピング 満たすほど中身はみでるハンバー はみ出るとすぐつきささる世間の目 唇からはみださぬよう紅を引く 画用紙が足りなくなった大きな絵 頑張った侍ジャパン天晴れだ 日本にも一振りしたい清め塩 お茶しよう笑い袋も持って客 戦前の勅語で誘う幼稚園 お誘いは近所のおばん断われぬ ガー けいこ 紀美恵 智恵子 日出子

たっぷりの愛をまぶして七五三 無駄骨をたっぷり折った靴の 柳塔鹿野みか月(鳥取)福西 茶子報 身はちぢみ欲ははみ出る八十 年金者はみでる酒は切り詰める

路坂

酔芙蓉

本にあるから日本一

の富士

彦桜

— 104 —

出

神ってる輝き放つ稀勢の里 輝いた日もあったんだ走馬灯

いた瞳恐れるものはない

輝いた父は静かに家族葬

ナーレで輝いていればそれで

V V 色を選る瞳キラキラ明日の画 輝きて胸のメダルは世界一

成

史

食前の薬はいつも余り気味

夫 郎

鶴彬時世の遺句が蘇る

傘寿まだ輝く抱いている絵筆

ひと言の助言で輝きだす卵 いよいよのスタート夢の天こ盛 葉桜が背中を押して呉れるはず

柾

ローン終え私も家もガタがくる いよいよになれば告白いたします

望遠にすれば怒りもおぼろなり

のある文字が手帳に生きている

千賀子

延命地蔵まだまだ先が見えますか

葉子報

ふりこ 子

若き日を偲ぶベルトの穴の位置

万紗子

キッチンのもろもろ裁く惚け防止 好奇心春日の中で動き出す アイウエオアオ信じる者は若返る 日が延びて愉快になってきましたね 姉たちの良いも悪いもすぐ習い たっぷりと愚痴りちょっぴり心晴れ 祓い給え神主さんの弟子になる 自慢した大風呂敷に穴がある 弁当よショッペ卵にふきのとう 飽きっぽい性格習うものがない 大雪へたっぷりな支援待っている コンビニの弁当買って花見する 戦争の話たっぷり聞かせたい 愉快犯そっと気配りおいてゆき 卵焼き入れて弁当ホッとする 長寿には愉快爆笑良い薬 たっぷりの色気に親も気をつかう 愉快になれるお薬を飲んでいる お料理を習う前掛け勇気出す 塩結び父母はいっつも笑ってた 習う気もない若者の現代語 たっぷりの思い出今はまだ二人 利口にも馬鹿にもなって輪の中に 小草鹿文 みさ京子 か敏拓振おき権作 茶実子満 孔美子 弘和美ッチ子子千 菜陽 蟹郎 富久江 妻子 八 恒 満 子美子 重 傘寿越えまだ乗り継ぎの駅がある 見栄はってうっかり乗った口車 隠しても悪しき噂は風に乗る 身勝手と老いる事とは同じこと 先ばかり読んで一歩が踏み出せ 晩酌に命をかけて汗を掻く 星見えぬ空だが胸に亡妻の星 幾星霜経て来たのやら我が先祖 拉致の子も見ているだろう同じ星 やり直し生まれ変わってからにする 欲しいもの敢えて挙げれば若さかな 福耳を貧乏神にほめられる フェイクニュース何を信じてよいのやら 手を抜いて後期高齢乗り越える 雑草に負けてばかりの農をする 大勝負生涯賭けたプロポーズ あれこれの苦難乗り越えきた八十路 満天の星に心を見透かされ 大事なこと星印つけ仕舞い込む 才能を発揮希望の星になる 五年日記だけを残して灰にする 言が足りずボタンをかけ違う 度くらい希望の星と言われたい からないことがあったら星に聞 十一連勝偉業生み 公游真弘子帆 朝温勝子子弘 和一郎眸 まつお 福貴子 かよこ 美世子 みどり 和 ジタバタとせずに新茶をいただこう 蝶蝶の乱舞は春の幼稚園 あきらめずドラマを起こす網の意地 スタートの野心原野に猛ダッシ お水取り半音上げて掴む春 まる一つ描いてもあるんだね個性 あの人のあの言葉だけキープする わたくしの昔に降りそそぐ桜 魂を入れた直球ど真ん中 七十年を経ても桜を愛でられず 人知れず山の桜は咲いて散る ライバルと競い合ってるする研磨 仏にも鬼にもなれる人の性 棚の隅ボトル煤けて独り言 夜桜を朧と照らす春の月 赦す事馴れて大きな輪に入る 今日の悔い恥じて何度も手を洗う 枯木にも枝振りがある見得がある白黒の思いでに入れる朱い墨 記念日を忘れていたが家平和 身に覚えあって反旗をたたんでる 弱みから脱皮しました青リンゴ 貧しても弱み見せない母でした 大丈夫よと弱みを見せぬ里の老母 優しすぎるこれも弱点かもしれ よしみ報

峰

よりこ

田鶴子

美籠

いさお

<u>Т</u>і.

月

よしみ

文

南大阪川柳会

明日のため笑いもりもり貯めておく

もりもりと食べた後から胃のくすり

バイキング元をとらねばと大盛りに 酒ビールあればもりもり元気出る

直

食欲がもりもり近い退院日 孫四人五合炊飯では足りぬ

本の杖が頼りの四苦八苦

なぎさ

ワンツースリーぱっと消されたぼくの影

柳伸報 ポンポンとばらまく日本赤字国

弘委智 步 そこら中輝いてます入試パス 今マスク取れば洟垂れ小僧です セピア色だが火照る想いのツーショ 誘われて嬉しい老いも桜酔い 草笛の音色に澄んでくる空気 春だから靴紐緩く結んでる 裏庭で雨を待ってる花たちよ

地球一周終えてほめたい万歩計 八尾市民川柳会(大阪) 土田

欣之報

凛と立つ出会いと別れ待つ道

背伸びして難儀背負い込むお人好し

安

か

いさお シマ子

実

あや子 鬱蒼の森に滴る青い空 日ごと汗滴らせ地に還る

国勝和弘 伸 匹敵のちょっと油断が身を晒す 花冷えや亡き人しのび茶を捧ぐ 鴛鴦の苦難の道は過去のもの 天空へなんぎ飛んでけシャボン玉

朋

子峰

認知症難儀と取るか楽しむか 赤のれん点滴打とう大ジョッキ 産声に挽歌は遠く及ばない 真珠のように輝いている父の汗 滴の水が集い大河なる

ルイ子

修

ポンポンと荒い口利く反抗期 どさくさで約束反古にした小指 どさくさを治める喝を二つ三つ 得点のたびにあの娘にハイタッチ どさくさに行く先きのないチョコが来た どさくさにへそくり何処か置き忘れ 重心をずらすと視界広がった 身は丹田心は君に置いている 両親が居て重心はたじろがぬ 孫出来て家族みんなが孫シフト 我が家族重心どうもおばあちゃん おかげさま短足なので転けません 重心がぶれて地球にある格差 重心が妻に移った定年後 重心を低くし逆風やり過ごす 大黒柱と父さん家を揺るがさぬ ガリ勉で重心脳に寄ったまま 案を練り重心ぐっと低くする

志華子

この苦楽くぐった白い骨 いの愛が滴る自家野菜

之

年寄りは何も言うなとと先手打つ

博 7

> 柳右子 成

> > Ш

柳ふうもん吟社(鳥取)夏目

おんどれなんか知るか大根まっぷたつ

ット 東遠 ばっは タカ子 風野 補うとメタボの足になるだけさ ボロボロの体それでも金メダル

とも湖

たもつ 金メダルあげたい父の棚田米 四コマ目どんでん返しないように お化粧で補ってます年齢差 障害を越えて捥ぎ取る金メダル

克

食卓にサプリの山がまた一つ 隙間風ふいたら先手打つつもり

天

三千代 文

忘れたいことは覚えている他人 一つしかないから一つ見せておく

妻と喧嘩先手必勝愛の矢だ

回春子 章

美

也 郎

補った栄養全て脂肪行き 補うとプライド傷がつくだろう 何ごとも妻が握っている先手

何故銀でいけないのです金メダル 月に雲吾が弱点をカバーする お祖父さん補欠選挙にまた出るの 振 茶 瑶

私の句選ぶ貴方は金メダル

おんどれへかけた情けが悔やまれる おんどれもしゃっぽが欲しい歳だのう 美恵子

どう補えばこの句が光りだすだろう 破滅へと進むおんどれ見ておれぬ みゆき 金

うしろを向きかくれ泣いてた強い母 書き替えの運転時期に辛さ増す 窓際は数のうちには入らない 註釈を社説につける投書欄 白衣成臨床実習孫成長 近所まで来たついでだと言うお礼 ご訪問最後にしましょ両陛下 金メダル作る孫にも掛けてやり 金メダル見せてあげたい母は居ぬ ともすればややもすればで今の僕 幼稚園お国の為に死ねと言う プレミアムお役所だけの金曜日 あれこれと補うばかり身が細 錆びている脳を補う酒二合 七色の夢が割れそなシャボン玉 運動会カメラ目線がつい我が子 やんちゃな子忍耐切れで角が出る 又今日も怒り募るは子の虐待 真っ昼間どっとシルバーカラオケ屋 先手打ち女房の口閉ざしとく 言が仲間の絆割れる破目 年中割れて痛そう妻の指 輪の花にやさしくなる会話 言を補えば済む思いやり フラザ川柳(大阪 仁部 梶原 四郎報 掻之助 Ŧi. 文和正 美津子 茂登子 ポー 良 節 蜂 高 野 彦 司月 子 子 朗明 郎 ル 優しさをそそぐ愚かな母でいい 了解無しに国が借金背負わせる 思いやりお客に渡す下足札 花吹雪ちょっとセンチになってくる 日本の城と桜でハイポーズ 遠い日の弁当に書いたラブの文字 議事堂で水掛け論の中味とや 愚かだったと地団駄を踏むウサギ 弱点もあって人間しています 要件を台無しにした早とちり 同じ壺かき混ぜるだけの借金 借金を今はローンと軽く言う ポイントを突いても気付かないままに 画竜点睛そのポイントが描けない ポイントを絞って今を描いてる ポイントを掴み損ねた運試 ニイハオの旅行マナーにお付き合い 桜咲け日本の心平和主義 新婚の弁当覗く職場の目 弁当の隙間をうめたミニトマト コンビニの弁当持たせママランチ 売り言葉に買い言葉では芸が無 点を見つめ目標まっしぐら い知恵は無いが日中韓の海 川柳茶ばしら(愛知 柳塔わかやま吟社 卫 関本かつ子報 大輪報 かつ子 美千代 三樹夫 まみ子 久美子 紀久子 日出男 富美子 弘 克保ほ 政 弘 よしこ のか 子 もやもやと味に丸みをかたくり粉 ほめられてやる気のおきるシンプルさ さあ四月君の青春はじまるぞ 急がない今老春のスタートだ 爽快な目覚め再出発気分 諭されて再出発の朝が来る 出発に幸多かれと花の雲 あっさりと出発ロビーさようなら 自然体今日もぶらぶら生きている じいちゃんの両手ぶらぶら孫の華 ぶらぶらと春に誘われ迷子札 イヤリング揺れてピンクになるこころ 人参をぶら下げられてひた走り ぶらぶらとひとり無策な影法師 散策の足が立ち寄るティールー 養虫もぶらぶら命かけている 抜けたどの絵からも顔を出す愚か どう聞けば胸のつかえがおりるやら 診察の結果もやもやまたも増え 母さんの指が赤子をほめている 老木を見事に飾る桜ほめ 新人を褒めておだてて気を遣う 悪口を言わずに生きて友が褒め 愚かですちょっと優しくされただけ れた日それが私の出発点 ほたる川柳同好会(大阪)水野

童

IE

美佐子

桂郁順長

弥坊

黒兎報

まさみ

めぐみ

美

夕

胡

あきこ

マイナンバー心以外は曝される初デイトゴールドカード見栄を切る被産まで人間誘い込むカードを切るが指をドナーカードが急き立てるといて猶輝いているモテている	て流す冬の汗 ドで日本中旅行	輝いて老春楽しむ二人なられるとはマイナンバーで効かぬ嘘がんじんな時にカードが見つからぬない。	度末今年の会計黒字です	原石が輝きを秘め入学式流れ星無明の闇に一直線トランプがカードを切って大いばり	easily 8 N	こつとお金をためて月旅行てもわたし軽石光らないあるのかお金がものを言うらしいある満天の星父と母	はびきの市民川柳会(大阪)永田 章
ち朋高壽光づる子鷲峰男	久 に な と は と	ヨか安身 枝美男喜	真ルク	久 仁 清 子 文	ア ひ み つ こ お	フ登美洋 志子子ー	司 奈津子
気安さに溺れてならぬ話し合いもちろんとなかなか言えぬ巨人ファン百均で新生活の城つくり	もちろんだ踏まれて育つ麦であるもちろん地球の上を歩いてる	君とならいうまでもなく肩組める 愛一途もちろん財布ほかほかで	天皇の猫背ご苦労うかがえる胸張って歩きたいのだガンバロー	姿勢正して天命を待つ八十路真逆の意見一度は受けて見ることに癒すのは自分と気付く長い旅	頑に自分の姿勢守り抜く 人に媚びぬ父の生き方追っている 我慢した分だけ皺が増えました	御仏を拝むと背筋伸びてくるまだ残る脳細胞に活を入れまだ残る脳細胞に活を入れ	サークル檸檬(エ
左 み 注 柳 凉 余 を 湖 歩 子		たけし子	楓みつ子	希智千 久 子 子 代	扶 美 光 久 美 智 八 佐 代 久 雄	昌加た房 おもつ子	智 代 報 司
豊かさを湯ぶねにつかり確める がイエット今更始め何目指す 来る年も会えるか桜去年今年 目ざしてたピョンチャンやめた浅田真央	富士山頂目ざした頃は若かった目ざす道ちがうが二人馬が合う幾つもの青春回顧に桜舞う	足弱り写真で愛でる通り抜け寒がりの桜の蕾せかす人	川柳花の輪(大阪) 岡本	鸛。シャーレで運ぶ赤ん坊鳥になりちょっとだけ雲食べたいな鶯の初音こぼれて世はピンク	別れ際ぽつりひと言悪趣味ね二日目のサイダー君は悪くない君の名は悪女男と女暗いところで悪い事	気づかずに恵みの箱にナイフ入れ恵まれた人が鉄砲持ちたがる恵まれた人が鉄砲持ちたがる	安物も彼女が着ると高級に値下げ品ついついカゴに入ってます安くても料理上手な妻の腕
克 敬昭泰	や す 薫 成	勇あ笑み 太や 助乃子る	薫報	美 ひ 草 智 す 子 い 庵	孝瑞紗芳子人季山	と 久 寿 知 恵 子 枝 代 子	静邦久枝代絵

川柳塔さかい(大阪 内藤 憲彦報

熱熱のピザが急かせるバイク便

揉めごとも包みまとめる母の知恵 揉める程遺産があって悩んでる 始まりはほんの些細な事ですが 揉めごとがあって私に味が出る みつ江 としお 志津子 みつこ ヨシ枝 ごめんねが一言あってノーサイド 明石峡いかなご漁の手際よさ 庭にバイク家族の誰も手入れせず 風邪引かずなんとか来たら次花粉 安倍夫婦家ではきっと揉めている ありのまま生きて行きますてらわずに

国境をつくり揉めだす地球人 あの人が入ると話揉めてくる

揉め事も桜が咲いてお預けに

あの景色いつか見たなと手をかざし

佳 澄

> 錢 空 彦

内輪揉め外には漏らさない賢母 かりん

玲

雅

美 子

也

辻村 ヒロ報

大風呂敷ひろげ過ぎると怪我のもと 嫁のろま姑せかせか愚痴ばかり 割れている意見あっさり多数決 E

仲裁が入り揉めごと三つ巴

揉めへんさかい兎に角ようけ遺してな ブルンブルン睡眠破る非常識

敏

舞 月 玄

Ŧi. 時 忖度があってなんとかものに出来 揉め事を脚色しては売る雑誌 揉めるのは遊戯か隣り楽しそう

一代目のバイク私ももう年だ

自動車免許返しバイクが尚恐い 寝たきりを何とか避けるスクワット

一言を足せば揉めずに済んだこと

さくら

老いて尚もうひと花と飲むサプリ 伴走の妻をなくして歩がゆるむ 誘われて良かった木漏れ日の至福 血統でないけどちゃんと芸はする 和 IE. 博 子

宅配の弁当にすがる気はしない 駅弁の売声長閑ローカル線 なだまんの弁当が出る偲ぶ会 盃に花一片の旨味笑み

車は乗るバイクは乗らぬこけるから

光 八千代

雄

和

一夜明けなんで揉めたか忘れてる

V

教

あっパパだバイクの音を聞き分ける

家計簿で揉める酒代化粧代 激流に揉まれた証 丸い石

好

7

+

運動会三段重に詰まる愛 蜜月過ぎ消えた愛妻手弁当

金でなんとかならない物もあるんです

ゆみ子 ひろ子 若 唯

早弁に見事チョークのストライク

新しい命わが家の天使です 正直に意見を言えば揉めてくる 乗り慣れたバイクすてるには惜し

重箱に春の息吹きが詰まってる

たけし

勲章を与えてほしい盲導犬 女房が生前退位すると言う 内緒話補聴器付ける待ってくれ 勲章のない父母が仏間で笑ってる

輝 ともこ

頂で一番旨い塩むすび

年金の割り算うまく家計簿へ 未練断つ茶碗割る音冴え渡る ほうろくをいくら割っても気が晴れぬ 被災地へすぐ駆けつける手弁当

旅弘正由

美美

美

子 人 世紀子

妙

俶

割れもせず互いに睦み金の婚 **石美川柳会**(鳥取 半 辰

内緒にと言われた途端ばらしたい 勲章はないが真っ直ぐ生きてきた 生きてきただけで旭日大綬章 曾孫とする内緒話はつつぬけだ 天 司 翔 瑶

何気ない言葉が人を傷つける 内緒でも内緒にならぬ異動時期 幾万の命犠牲の金鵄勲章 スリーサイズ喋らなくても見て解る 豪雪に足も手も出ぬ雪達磨 茶 美恵子 公 清 平

何気ない事から運がついて来た 何気なく言った言葉は戻せない 婿取りに農継がすこと内緒にて 蟹 子 郎 da

ひびあかぎれこれが私の勲章だ 遅いけど亡母にあげたい勲章を 何気ないふりして本音吐いている 子安

弘 雅 子 女

よい人と評判もらい甘くなり 内緒には出来ぬあまりのうれしさで 勲章はないがそこそこ幸せだ 髪切って風の形を確かめる 風読んで動いたはずの風が止む 心地よいそぶらの風が肌撫でる 風にのり私を泣かす杉花粉 散り初めの桜来ぬ人恋う風情 北風に煽られながら生きて行く 早よ咲きやそっと背を押す春の風 逆風を乗り越え賜杯稀勢の里 廃校も知らず鶯経を詠む 山里の奥に秘めたる湯の香り ほの字の里でみんなほっこり 懐を去りそうにない寒気団 拉致問題風穴さえも開けられず うぐいすに送られ桜散り初める 勉学の意欲ただよう校舎跡 村の子が甘茶目当てのお釈迦様 草餅の匂い故郷の山にある 甘酸っぱいいちごの香りする少女 初恋を未だに甘く抱いている 自分には甘い仲間でまとまらず 甘い顔すると猫まで付けあがる 性善説たとえ甘いと言われても 岸和田川柳会(大阪 石田ひろ子報 節子 みつ江 喜代志 ふさゑ カズ子 ダン吉 真理子 笑 洋 英 義 和 昭 別れの予感行方知らずの雲に乗る 美人なら無理難題もよろこんで 握り拳父は弱さを曝けない ウメチカを泳いで空気吸いに出る 強い女性が涙ホロリと弱いふり ちょい悪のオヤジを猫は知っている 金槌も三途の川を泳がねば あなたって嘘つくときは目が泳ぐ そわそわと落付きなくす花便り 会える時会いたい人に会っておく 玉に乗るアシカに魅入るトドの 心地いい調子に乗せる今日の酒 死に方も教える様になった医者 コンビニの弁当あてに花見酒 歳重ね暑さ寒さが身にしみる 潮に乗り春と一緒に桜鯛 いらいらは得意のワルツで飛ばしてる 泳いでもすぐにぶつかる金魚鉢 生きていてよかった鶯と逢えて 風向きを確かめている前夜祭 風知草風の行方を読んでいる 春らんまん無心に歩く青い空 百均ばかり食べては泳ぐ空財布 人間の弱さ思わず手を合わす 頑固爺酒と女にゃ腰くだけ 柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報 かずお 歌留多 こみつ ひろ子 ヨシェ 保 鬼 明 鉛筆とは妻より長いお付合い 立ち食いのうどん屋で会うインド人 まつお 古都の春外国人に凌駕され 花見頃外人さんも隣組 外国人たこやき食べて日本通 早かった残りの道も長くない ロングへア東ねて母として生きる 捕まれば話が長い今日はだめ プロ野球延長戦で終電車 おトイレも食事も早く済ませてね サヨナラと長い恋路に来た返事 手と手と手きっとまあるい輪が出きる 母さんの両手はいつも荒れていた 手厚い介護されて長生きしたくなり 手から手へ渡ってややこ宝物 夢の中まだ母の手を探してる 多数決本音がみえる手の高さ あたたかい手だもう離せない離さない 手弁当に舌鼓打つ農繁期 手に汗を握る間もなし負け試合 生まれつき弱いと言って一○二歳 トランプの嫁の方へと目が泳ぐ 湯気上がる大皿の愛母の愛 小さな手みごと大きい方を取る 酔うほどに美人の数がふえてくる 鴨谷瑠美子報 みつこ 美代子 シルク 瑠美子 よしみ 喜代子 いさお フジ子 ひろ介 千賀子 キーキー ひとみ

文 子

長靴と言わずブーツと呼ばれたい	
扶美代	
西宮北口川柳会(兵庫)	
藤井	
宏造報	

ねえし

慌てると鍵や財布がかくれんぼ 順迫る祝辞のメモが見つからぬ 雲に乗り仏の国をちと覗 こ苦労さんお疲れさんと使わ 六甲川柳会 市坪 れる 武臣報 利和 武 郎 化けの皮はがしてみよう根くら

子子宏夫子 怒鳴ってた父の子だからすぐ怒鳴る 叱声が外に漏れてる兎小屋 ダブダブの制服着せて送りだす まっさらの本にも服にも匂う夢 入学式ママも着物でピッカピカ

史夫夫臣 同じこという母さんを咎めまい 平凡を享受してます老い二人 猫だって色っぽい声喉鳴らす すれ違い様にふんわりシャネル 最後まで医師を信じた塗り薬 着こなしたチャイナドレスの色っ 躓いた石に叱られしゃんとする ヘマをした自分を叱る淋しい日 の香 ほ 3 みよし 美津子 秋 伯 千野光健野敦武わ

慌てずにぼちぼち行こか夫婦仲 そう急くな終着駅の灯は見えぬ

春うらら説教に飽き舟を漕ぐ 白昼夢トトロの森に迷い込む

(大) (河) 敏 敏 武

弘

接待をすませた後の手酌酒 大阪弁ふんわり急所突いてくる 知らぬ間に俺は聞き役喋る妻

邦道和盛

代獨久彦

気付かない振りをするのも思いやり

いつまでも空想好きな乙女だよ

じろう 洋次郎 江郎子雄 叱っても女癖だけ親譲 思い出もい ベランダにそれぞれの鉢春の彩 忘れたらあかんにっこり笑う事 いが望みはもっとい

先人の空想今は現実に 日が沈む明日は晴れと信じ切る

みつ子

文

じろう 弘子

パンパンパンふとん叩いて愚痴ばかり

音楽が好きでリズムに直ぐにのる 気付いたら二時間経っていた昼寝 おめでたを妻は娘より先に知る

油

老いらくの恋の微熱を持て余す

空想の夢を描いてボケ防止 慌てないどっしり構え時を待

ネクタイを外して本音対本音

に今日の疲れを置いてくる

桜散る人さまざまの佇まい

わりと迫りはんなり袖にされ も飲む色香変らぬママ

伸

種

胸躍る兆しに水を一気飲み

0 店

老老介護あなたはきっとつかれてる タイムトンネル抜けて果てない夢を追う 慌てんなあの世にちゃんと席はある

美恵子

美

叱られても叱られても母

0

敏靖哲

入学にもう卒業後に親の夢

能

壁に貼る家族の写真もう昔

ふんわりと空一杯の熱気球

散歩会歩きつかれて立ち飲みに 失言といいつつ実は本音です

和保博

へとへとのスーツ眩しい退職日

あなたもう通じない老夫婦

盛

夫

悲しみをこっそり捨てに来た海辺 中

雲海で村をおこした竹田 手間かかる種あってこそスイカなの 袖の下手間暇掛けぬお接待 手間ばかり掛けたね妻の白い髪 手間ひまを包んで亡母の小抽出 留守番は手間のかからぬ梅茶づ ちあき 紀利光恭紀武凉 華子久子恵彦 子

気付いたらロボットに愚痴きかせてた 亭主関白気付くと尻に敷かれてる 胃潰瘍にしては見舞いが多すぎる 私にはあなたでなくちゃだめなんだ ひとみ

リズムよく事が運んで落ちつかず トントンがトトトに変わる不整脈 でで虫のリズム楽しく生きている 加祐歲哲好遠代子康子男文野 キヨミ 子

朝食はパンとコーヒー目玉焼き 若者に一歩譲ればいいリズム レミファのリズムに乗って逢いに行く のリズムが狂う休刊日

窯開けをわくわく待った頃もあり

— 111 —

肋骨でげらげら笑うチャップリ 菜の花の海にひと時おぼれよう ひたすらにトップを目指すカタツム 頂点で輝き耐えに耐えた真央 気が付くとピエロになっていたトップ 喜劇みて憂き世の辛さ忘れてる 舞台は喜劇楽屋は悲劇火の車 悲劇でも喜劇に変えるなにわ人 喜劇だねひたすら民は君主ほめ 信号は黄から赤へと命の賦 気分は黄色アバンチュールの旅に出 黄金の輝き古代展で見る 歳月は流れ黄ばんでゆく 虫食いの脳がまだらに受け答え 力んでる夫にコンニャクトコロテン 花吹雪遠い日ばかり浮遊する ふるさと納税わくわくさせる品選び 旅行社の夜逃げわくわくわやにする わくわくをいっぱい詰めたランドセ わくわくした人生にした生き上手 一番で良い言った蓮舫いまトップ 柳は卒業なしの褒美なし 石を投じ波紋を見ています PSから黄金の輝き ポー ズされそう春のワンピー の好きな人が 佐々木満作報 1) る ス すみ子 希久子 宣順子子 捷和公弘照桃紀 志華子 理 ヨシヱ つな子 良 夫 平 子 子 子子 根の無 1, 手に汗握るミサイル飛ぶ句会 野良猫の知恵には負ける家の猫 根本は南 握ったのはトカゲの尻尾だと気付く 握る手の温みに返すお元気で 邪な夜がぬるぬる過ぎて行く こんもりと春のえくぼに寝てしまう しぶしぶの見合いだったがダイヤ婚 母さんのしかめ面は見たくない 守る人あって生き甲斐ある暮ら 時々が毎度になった物忘れ サラリー 子の未来迷彩色にする不安 ぬるぬるとどじょう掬いが踊れな 手を握ることで始まる人助け アメリカに握られている首根っこ ぬるぬるの思い出スタンドバイミー プレートが潜り込むたび大地震 私より温かい手に握られる 老いという想定外を受け入れる しぶしぶの妥協ぬるい茶飲まされる が生えて八十年の老いの松 大山滝句座(鳥取 本に出合うと得をした気分 を V 歯三本口の中に持つ 無阿弥陀仏空になる マン忖度するの当たり前 のせいにも出来ません って帰って出てこな 完司報 小けいこ 紀の治山 石花菜 美ッチ 寿 みちを くにこ 恭 みつ子 一 げんえい 富 H 0 代 彦 步 出 数足らぬ時だけ誘いかけてくる 花吹雪メモ帳にそっとかくれんぽ 娘の赤字何時も補填をたのまれる しくじりをホットに包む母の微笑 終章へまだとび足らぬマイウェイ 母の味田舎ことばの聞ける店 田 耐え忍び今こそ花になる冬芽 怒ること忘れた父の背な淋し 財布さえ握っておれば大丈夫 老二人喧嘩の種を乾してます 大辞典ひらけば楽し未知の宙 何百年動かぬ里の天狗石 墓まいりだけの田舎になってくる 性根が座れば仕事うまくいく 大正の寅だ まだ根性はある 森友が炙り出したる安倍史観 種一つやがて根を張り実をつける オクラ・納豆パワー全開とろろ丼 握られて握り返して腐れ 大根の白い掟に逆らわず よく見える母の形見の古メガネ 生き方がぶれない大地に根を張る子 舎って稲の香土の香平和の香 やな奴ぐじぐじぐじと根にもっ 次馬が根ほり葉ほりと聞いてくる 柳ねやがわ (大阪 ゆるんだ日々を自覚する 7 恵子報 ルイ子 弘委智 賢郁 かすみ 七熊四郎 規昭幸 コスモス 正 道

子忠男唱

雄

泉

子

おふく	やる時	明仁	恥とい	得意共	妻でた	月一回	感情致	±	_	桜吹雪	大物へ正	怒らず	花の道	直され	人間を	溺愛が	核心に	タイミ	葉ボタ	田舎に	新人が	振り上	嫉妬心
おふくろの味と言われたオムライ勅語とは時代錯誤もはなはだし桜さくら涙の歴史秘めている	やる時は今だいのちが尽える時節柄猫も杓子も花便り	明仁さま美智子さまではダメですか	恥という感情消えてゆく日	得意技はたき込みでは伸びません	妻でない女と揺れる通り抜け	回句会共謀罪やろか	移入ついしてしまう貰	あかつき川柳会(大阪)山本	いのを川中余くこえ	桜吹雪のなかで不安に襲われ	、正面切った細いペン	ずに上手に諭す母の愛	道忖度してる二人連れ	直された赤字手本を見入るだけ	人間を透かせば白い白い骨	溺愛が裏目で頓挫する躾	核心に迫ると鬼は腰を引く	タイミング計って怒る母の技	葉ボタンの花が咲くまで見届ける	田舎には今も自然の花が咲く	が未来に向かい大ジャンプ	り上げた拳に今も残る悔	嫉妬心生まれて恋に艶が出
たオムライス たオムライス	んるまい	アメですか	本	じません	扱け		貝い泣き			われる		友	16	るだけ	Ħ		`	技	元届ける	3	・ンプ	γ ₁	3
満 万 紀 知 子 作 乃	克 久美子	紅	堅	和#	卓	_	朝	昌 代朝	七段	亜	洋	朝っ	美工	尚	壽岭	高蛇	仁	あさ子	さち子	高士		祥四	忠
子作乃	己子	絵	坊	雄		志	子			成		子	江	17	晔	鷲		7	1	志	彦	昭	央
選ぶのは僕です茶々を入れないで豊中もくせい川柳会(天阪)初代 エ	時代には少しずれてる爺詩人世渡りが得意になって振る墓穴	起き抜けの背伸びが得意うちの猫	老いの身に生きる喜びくれた趣味	散る時も風情を醸す八重桜	初孫のしぐさ喜び無限大	酔うために飲んで感情冴え返る	震災の時を止めた掛時計	卒業式鬼の先生目がうるむ	世直しへ世界の河が蛇行する	ボケないと聞いたウナギに手が出ない	喜びに溢れた笑顔みな素敵	胸襟を開く火の玉見て欲しい	五十九発文句あるかと星条旗	共謀罪彬多喜二に問うてみろ	時雨降る彼岸櫻に母おもう	得意の喉聞かせすぎても嫌われる	老いてなお正確無比の腹時計	喜びがよろこびを呼ぶ嬉しい日	ふた回り若く見られてウフフホホ	上得意には揉み手する招き猫	泣き落としこれは男に出来ぬ技	核禁止へ白い折鶴置きざりに	まあまあと一杯飲ませ落着かす
正彦報	哲高	義	隆	英	敏	ひろ介	壽	_	鈍	(標)	康	信	ダン吉	いさお	生	蕉	穏	シマ子	栄	眞	篤	福貴子	直
	男 鷲	泰	昭	夫	子	介	峰	文	甲	夫	信	=	吉	お	枝	子	夫	子	子	澄		子	子
青春の秘密自分史でも秘密 童女めくわたしを映す姫かがみ	上等のカメラを嫌う顔の皺	空を融かしている雷	程遠いはずのあの世が薄ら見え	遠い日はみんな枕の中にある	羽織脱ぎ噺家本気出し始め	人間の凄さを知った快復期	選り取り見取りの手並みを試される	旬の野菜食べて命を膨らます	リセットをさせてくれない寒い春	生きている限り何かを期待する	遠まわり月を味方につけながら	ひと品の豊かへ選ぶ木の芽和え	自立の子桜のアーチ越えて行く	花吹雪こころに纏い身に纏い	納得をするには薄い菓子の折	母さんの腕で納得する天使	病床の無聊を覆う春の風	障害者に少し優しくなった駅	納得はしたいができぬ青春譜	メカ音痴叩いて直す電化品	子の恋を納得せんと子が逃げる	コンビニもポストも遠い足になる	選んだ目に狂いなかった傍の人
見き公		葉	則	耕	宏	千鶴子	īE.	美智代	(岩)	久	雅	りゅうこ	(永)	ヨシヱ	歌留多	美佐子	真理子	美津	武	健二	健	求	英
清り子	坊兎	子	彦	治	子	子	彦	代	子	子	美	٤	子	工	多	子	子	子	彦	=	Ξ	芽	旺

句会名	日時と題	会場と投句先
川 柳あまがさき	13日(火) 14時締切 打つ・青・浅い・自由吟	尼崎市女性センター・トレビエ 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
岸和田川柳会	17日(土) 12時30分開場 蛍・揃う・遠い・ゲーム	岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-13-19 中岡香代
川 柳 塔 みちのく	17日(土) 17時締切 訪ねる・ちょいと・博物館	弘前市御幸町13-1「大成小学校地域交流室」Tm10172-32-2591 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 Tm10172-36-8605
川 柳 塔 すみよし	18日(日) 12時開場 10周年記念川柳大会	ホテルアウィーナ 詳細は川柳塔5月号137ページ上段参照 〒558-0054 大阪市住吉区帝塚山東2-4-9 古今堂蕉子
川 柳 ねやがわ	18日(日) 12時開場 逆転・気配り・怪しい・自由吟	寝屋川市産業会館 3F 〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉内 川柳ねやがわ
川柳藤井寺	18日(日) 14時締切 斜め・カバン・席題共選	藤井寺市立生涯学習センター・シュラホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0023 藤井寺市さくら町2-2-201 高田美代子
豊 中もくせい川 柳 会	19日(月) 13時50分締切 野菜・溶ける・すっきり・自由吟	豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曽根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川 柳さんだ	20日(火) 13時30分締切 不思議・膨らむ・イメージ 思わせぶり・自由吟	キッピーモール (JR三田駅前) 〒669-1545 三田市狭間が丘5-10-19 谷 祐康
川 柳たちばな	21日(水) 14時締切 席題・一度・降る・自由吟	立花公民館(尼崎市塚口町3-39-7)Tm06-6422-6741 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
和 歌 山 幸 会	24日(土) 12時30分開場 横・歴史・傘	和歌山商工会議所 4階第3会議室 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
は びき の 民 川 柳 会	25日(日) 14時締切 氷・考える・ウインク	陵南の森公民館 近鉄「高鷲」駅下車 北東へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川 柳 ふうもん 吟 社	25日(日)13時30分開場 自由吟・メンツ(面子)・本腰 肝入り	開発ビル 2Fホール 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥
南大阪川柳会	26日(月) 18時開場 透ける・品格・ぬるい・サポート	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 地下鉄谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒540-0004 大阪市中央区玉造1-16-13-304 前たもつ
京 都	26日(月) 14時締切 縮む・それでも・虫	京都ハートピア 地下鉄「丸太町」駅⑤出口すぐ 〒607-8231 京都市山科区勧修寺堂田70-16 桝本宏子

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所 (06-6779-3490) へご連絡ください。

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔なら	1日(木) 14時締切 水・じくじく・崩れる	奈良市立中部公民館 4F 奈良市上三条23-4 近鉄「奈良」駅(4番出口徒歩5分 〒633-0054 桜井市阿部787 松本方 安土理恵
城 北川柳会	3日(土) 14時締切 騒ぐ・シナリオ・釣銭・自由吟	旭区老人福祉センター 3 F 地下鉄谷町線「千林大宮」駅③番出口 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川 柳 とんだばやし 富 柳 会	3日(土) 14時締切 原・長い・自由吟	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0043 富田林市南大伴町4-1-10 池 森子 取・ML0721-25-0603
倉 吉川柳会	3日(土) 14時締切 遠出・ゆるり・払う	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男
川柳 塔え社	3日(土) 12時30分開場 ふらり・本物・平ら・城	松江市雑賀公民館 〒690-1223 松江市美保関町笠浦222-1 相見柳歩
川柳塔さかい	8日(木) 13時開場 単純な・粘り・折句:かたき	堺市総合福祉会館 〒599-8103 堺市東区菩提町5-171 矢倉五月
あかつき 川 柳 会	9日(金) 14時締切 誇る・飯・真剣・時事吟	大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F) 地下鉄「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒581-0014 八尾市中田2-312 前田紀雄
川柳大阪	10日(土) 14時締切 座る・素顔・カード	地下鉄・長堀鶴見緑地線「京橋」駅「研修室」 〒534-0021 大阪市都島区都島本通4-11-6 山崎珠生
六 甲川柳会	10日(土) 14時締切 暖かい・観光・個性・自由吟	六甲道勤労市民センター 5F JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲ビル 〒658-0026 神戸市東灘区魚崎西町4-1-11 山崎武彦
川 柳 塔 わかやま 吟 社	10日(土) 14時10分締切 兼 題 = 煙突・渡る・やっぱり 課題吟 = 屋根	和歌山ビッグ愛 〒640-8319 和歌山市手平2-1-2 兼 題 〒649-6253 岩出市紀泉台366 藤原ほのか 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺薫訪森町東2-208-5 桒原道夫
川柳塔打吹	10日(土) 13時30分締切 難・鮮やか・ズカズカ	倉吉市上灘町 9 上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
八尾市民 川 柳 会	11日(日) 14時締切 秒針・しぶちん・侮る・雑詠	八尾市渋川町・安中町集会所 1F JR「八尾」駅から徒歩5分 〒581-0083 八尾市永畑町2-1-7 土田欣之
西宮北口川柳 会	12日(月) 14時締切 背中・添える・タイプ・自由吟	西宮市立中央公民館 6F 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「ブレラにしのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
ほたる 川 柳 同 好 会	13日(火) 13時30分締切 仲・譲る・やさしい	豊中市立蛍池公民館 阪急・モノレール「蛍池」 蛍池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曽根2-4-1 水野黒兔

柳界

ルアウ アウ は、 1 21 者 1 ナー 162 4 III 月 柳 大 16 展 阪日 ii 望 人成 で 木 全 開テ \mathbb{K}

催 大会」 陽平 が凡 人 16届 から 成 は、 宿 場 あ 5 町 わ 月 p せ 6 か だよと リザ H 開川

なっ 加者427名。 親 ひとり 龟子 4 てきた 回ふるさと川 亀 喋らぬる 同 の小 人成績 か 島 たちに 保州 柳 0

132 目 🔻 五▽ F ト段26行目、迪子→迪。 風雷に→風雪に。 P 131下段2行 25年20日、 P I 1 日 夕は 夕経新 40 け 聞 周工4 1

五月月 河代 原

帰るなる前に

徘 久

徊 保

ひと

たつ

椿

から

ち 夫

お凱

か眞

ら澄

秀

句

丹

心継ぎが

始

まる

深夜

「木馬」

No. 司

150 理

家完

長

合併号

句

石

芳山

ただで

執け 0

のこと S い駅

まも

0 子

夫逝く

静

かな自

一分驚

句

榎

本

舞

居谷

治谷真理

る昭和 裏でい

句

い横

から

0

構

図

13

な

0

誰 0

過

労死

葬儀

て山

石

ます

でのセ27中 揭 月より大家風太→河 月より大家風太→河 月間川柳社会長交出 日前川柳社会長交出 日前川柳社会長交出 日前川柳社会長交出 日前川柳社会長交出 日前川柳社会長交出 ル年ッ月

月 て④定して 5 誌 6 \mathbf{H} 松森居吉両川本谷川川 (1) 1大い月 賀 介 AM 10 時

川上三太郎没後50年記念 平成29年度川柳研究誌上大会

(各2句) 2人選

天成績。 女 (は、4月 51日

H

中

惠

0みに

則んセ

井せ

彦氏

豊

次項

回真庭川 23 日

柳

大会

に23 〇 エ 日 西 ッ 付 出

大阪相

楓

談

役

は

No. 4

75 月

催

X

1

柳

を削軟柳 文化

筆を

生き下手

た 大久保真浴 れる

を執

た。 怜

筆し長

JII

柳を読 151 事

青 竹田 光柳・加藤ゆみ子 選 狼 高潮 霜石・芦田 鈴美 雫 矢沢 和女·阿部 選 石 鈴木 順子・津田 暹 選 所定の用紙または便箋に4題まとめて。 住所・氏名・電話番号を明記のこと。

投句料 1000円(切手不可)発表誌呈

7月31日(当日消印有効)

投句先 〒176-0022 東京都練馬区向山3-18-5 五十嵐淳隆 方

川柳研究誌上大会係

問合せ先 電話 03-3990-9808

新 平 奥な 人 井い 田だ 紹 介 由ゆ ・完司 智步 完司 子二 美み ·朱夏推 朱夏推 薦 薦

第 32回 国民文化祭・なら2017 .柳作品募集要項

~ 日本のはじまり橿原市へ、 いざ川柳の祭典

1. 応募受付期間 応募規定 平成29年4月20日休~7月31日月(当日消印有効)

(1) **f**F 品 一人各題二句詠(未発表作品に限る)

(2) 応 募 料 事前投句1、000円、 れた方は無料 海外投稿者、 身体障害者手帳等の写しを添付さ 当日投句1、000円(ただ

郵便振替払込金受領証又はその写しを添えて応募 てください。

(3)応募方法

所定の応募用紙及び応募票に必要事項を記入し、

(4) 先 一般社団法人全日本川柳協会 T530-0041

《事前投句》 14 朝 郎 良

3

宿題・選者

憧 n < あきた じゅん 宮 本

《当日投句》 古 美津江 奈 東 良 京

愛 知

第二次選者 大野 小島 蘭幸 風柳 新 島 赤松ますみ 竹本瓢太郎

8

主

催

者

日本川柳協会、

奈良県川柳連盟

4 (予定) 文部科学大臣賞・国民文化祭実行委員会会長賞・ 奈良県知事賞・第32回国民文化祭奈良県実行委員会 高士

> 奈良県川柳連盟理事長賞 教育委員会教育長賞・全日本川柳協会理事長賞 第32回国民文化祭櫃原市実行委員会会長賞‧櫃原市 会長賞・奈良県教育委員会教育長賞・橿原市長賞

川柳大会(当日投句受付、 入選発表、

選評、

表彰式

5

発表会場

開会 開場 平成29年11月12日 午前9時30分 (H 当日投句 閉会 午後4時30分 午前9時30分~ 11 時30分

〒634-0075 奈良県橿原市小房町11-5 「かしはら万葉ホール」1F TEL (0744) 29-1300 ロマントピアホー il

無料配布します。 入選作品は、「作品集」として刊行し、応募者全員に

交 流 会 会費 8000円 「かしはら万葉ホール」 5F レセプションホー

ル

問い合わせ先と募集要項の依頼先 T530-0041

7

6

大阪市北区天神橋2丁目北1-11-905

一般社団法人 全日本川柳協会内 6352-2210

FAX (06) TEL (06) 6352-2433

第32回国民文化祭橿原市実行委員会、 祭奈良県実行委員会、橿原市、 奈良県、奈良県教育委員会、第32回国民文化 橿原市教育委員会、 一般社団法人全

後 記

★思川つ との嘆きを時 って 確かに私が川 柳の 専門

をお書き下さった。先生さんが智子先生の思い出 を顧みての予兆であった 亡くなられたのは平成9 れているが、 とならず」の作品を残さ 年6月22日。享年七一。 ★川柳塔のお母さんと慕 ★息子には教えておこう 七十はさほどに遠きこ れた小出智子先生が 目次下に山本希久子 病弱な我身 う。 る機会も少なかったと思 葉館発行)。帯に曰く。 哲男著『川柳文法力』(新 れたことも・・・。 て意外なお宝本を手に入 田 や短歌に めた三十 ★さて最近の出色は江畑 たった一字を変えるだ や上野の古書店を歩い 東京に出たときに神 -数年前には俳句がに私が川柳を始 比して手に入れ

なんと呼ぶか。 流青さんのご厚意で転載か」を川柳「葦群」梅崎 によっては川柳作家と名 をつくる人をどう呼ぶの 眼差しを想う。 ★木津川計先生の しくも慈愛に満ちた グループ 川柳 易しく楽しく一字の重み が、著者はさすがに国語 と聞けば敬遠したくなる けであなたの川柳は秀句 などを説明してくれる。 の先生。イラスト入りで に変わる」。とかく文法 完司著『川柳の理論と実 ★もう一冊お薦めは新家

Ш

ひとこと だ。 まずじっくりと眺める。 が増える。 のやさしい語り口の巻頭 前田尋画伯の切り絵の表紙を 末になるとポストを覗 川柳塔を待っているの 蘭幸主幹 言をじ 0

いしたような懐かしさ。 三窓宛薫風葉書には、生前にお逢 くり味わう。 はいつも感銘を受ける。 熱くなる句ばかり。 柳は老人の私にも理解でき、 美巳代さんの『しずく花』は私 新を受ける。 4月号の 東原道夫氏の文章に 編集後記の前 英語で川 0

難し この人、 友の作品、 写したことも・・・ 日してもう一度読み返す。 するのに3~4日、 響いた句に○を付ける。 言って叱られたことも。 葉は辞書を引く。 薫風先生に「 各地柳壇

る。『理論と実践』『文法的にやさしく語られてい 力』この二冊を座右に置 けば鬼に金棒。 0 お人柄そのままに具体 を 『徐々』を『除々』、『機 『気嫌』、『煩悩』を『凡

すべきところを『一諸』、 年6月号)、 -6月号)、田中正坊 川柳塔」(Na85・S 例えば『一緒』」と 主として同音の文字 「誤字が多いの 校正雑感』より

いのではないか、

川柳人または柳人でい

詩人という。

な例句で学ぶ作句法・選

・心得。

総合川柳入

方=実践を意識した豊富

良い川柳の条件と作り

ぶだろうか。

通常は俳人・

乗るむきも。

しかし俳句

践」。こちらの帯に曰く。

・短歌作家などと呼

するなど、送り足りない らかい』を『柔い』と 送りがなの誤り…、『柔 と『路地』など…。 としては、『堀』と『掘』、 たぐいです。文字の誤用 を『絶対絶命』といった 『同士』と『同志』、『露地』 年」と「歳」、「孤」と「弧」、 あるいは『絶体絶命』 可哀相』を『可愛 次は 校正雑感

にない。小出智子先生から中尾 介句集をお借りしてまるごと書 って Vi たが なぜ か今は 手元 藻

れしく思っている。(松本 いから連載をやめたら」と 川柳のあたたかい絆をう る。三十年前と変わらな ます。」と述べられて 多く、『つまずく』を『つ り」、『手近』を『手近か』 少なくないのが目につき まづく』と書かれる方が など、送り過ぎる場合が ケースよりも、「隣」を 「可愛い」を『可愛いい』 冷たい』を『冷めたい』 まるごと熟読 その後2~3 の作品は心に 誹風柳多留 解らない 同人・ であった。 あの人 誌

川柳塔(「	種 目 「		
			」発表(8月号)
			地名
			地名

同人・誌友 マルで囲んでください。

投句先 〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201

◎8句を楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

(3) (4)(2)(1) 各欄 各欄 愛染帖・一路集・初歩教室は川柳塔柳箋(本社事務所取り扱い)、 投句は、 愛染帖・檸檬抄・一路集・インスピレーション・ナビ(印象吟)への 定期購読者)に限り、本誌綴込みの投句用紙を使用してください。 川柳塔欄への投句は同人、水煙抄欄へは誌友(誌代半年分以上前納の スでの投句は御遠慮下さい。 檸檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。 への投句は、必ず氏名と住所(県・市名)を明記してください。 川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、 への投句数および投句締切期日の厳守をお願いします。ファック 川柳塔」への投句について 同人・誌友に限ります。初歩教室は誌友のみとします。 祝日を除く平日の

10時から15時までにお願いいたします。

檸檬抄投句用紙

「タオル」(6月15日締切)

8月号発表

安土 理恵選 ——共選—— 北野 哲男選

В В A A 地名 地名 切 5 ない 県 市 県市 府道都 府道都 で下さ 姓雅号 姓 雅号

◎楷書で正確に書き、 15日までに到着するようお送りください。

きりとり

せ

2

左右に同じ句を書いて下さい

個人用

残暑見舞広告

きりとり せ 2

原稿台紙

1/6頁

1/3頁

1/9頁

2/3頁

料金は払い込み用紙をご利用下さい。

1/2頁 1頁

(ご希望の大きさを○で囲んでください。

電話

原稿を貼布される方は、

この位置に貼り付けて下さい

6月20日締切

住

₹

所

姓・雅号

柳など掲載希望事項

JII

17号 Ш

送付先

T543-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番

社

花 柳 野 ビ 塔

0

1

作品募集

愛水川 一路集 (2句) 檬 染煙 柳 (2句) 抄 帖抄塔 8月号発表 タオル (8句) (8句) (2句) 号(3. 2 表 6 旬 安北新西小 月 石遠 大 15 土野家出島 H 田山西 締 理哲完楓蘭 切 ひ唯 泰 (理子 ろ子 恵男司楽幸 教 世 共選

檸 檬 抄「あっぱれ」 9 B 集「センス」「試 す」 月 初歩教室「充

選選選

選選選

川柳塔WEB句会のご案内

美馬りゅうこ 共選 片山かずお 切 6月20日 発 表 6月25日頃 無料 投句料

インターネットで「川柳塔」を検索しWEB 句会をクリックしてご投句ください。

T543-定 0052 一半価分分, 一七年(平成二十九年)六月一 阪市天王寺区大道一一 【替○○九八○一四一二九八四七九番 発行人 電話(〇六)六七七九一三四九〇番 五 百 JII 美木小 千円 花野ビル20 本島 送料 (送料共 H 86 円 ト夏幸

本社6月句会

会

費

0

0

0

5

00円

(切手可

内

おはなし ۲ 天王寺区石ケ辻町19-12 き ふくれ インチ 6月 久 川柳あらかると⑥ L 乱 6 る 日 13 時開場 4階 電06.6772. 岩 両 栃 坂 13 時 佐 川尾 40 各題2句以 分締 まつ ダン吉 保

切

路郎忌7月句会 7日(金) 午後1時から

限 子

選 選選 選 氏

お

] [H 粉 本」「プラス」 る」「多

川柳・俳句・エッセイ・小説

新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



研

〒530-0022 大阪市北区浪花町9-4 TEL (06) 6372-1178 FAX (06) 6372-1196 E-mail: bikenart@ea.mbn.or.jp 川柳塔



心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし 力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団 湯川胃腸病院



消化器科 放射線科 脳神経外科 緩和ケア(ホスピス) デイサービスセンター併設



大阪市天王寺区堂ケ芝2-10-2 TEL 06-6771-4861 http://www.yukawa.or.jp